

宝 塚 市
子 ど も の 生 活 に つ い て の
ア ン ケ ー ト 調 査 結 果 報 告 書

平成29年（2017年）7月
宝塚市

目次

I 調査概要	1
1. 調査の概要	2
2. 貧困・生活困難に関する分析の視点について	3
3. 報告書の見方	9
II 保護者対象調査の結果	11
1. 回答者について	12
2. 家族の状況について	21
3. このアンケートを持ち帰ったお子さんのことについて	35
4. 暮らしや経済の状況について	54
5. 必要な支援について	67
III 子ども対象調査の結果	71
1. 回答者について	72
2. 学校での勉強や塾での勉強について	72
3. 放課後や下校後のすごしかたについて	81
4. 1日のすごしかたについて	84
5. 平日（月曜日から金曜日）のすごしかたについて	91
6. 家でのすごしかたについて	95
7. あなたの考えについて	103
IV 分析・考察	113
1. 家庭背景による分析	114
2. 全国調査との比較からみた宝塚市の特徴	119
3. 保護者と子どもの状況・意識の関連	124
4. 子どもの貧困問題に関する本市の現状	127
5. 調査結果から示唆される検討課題	131

I 調査概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、子育て世帯の貧困や貧困の連鎖が社会問題として注目される中、本市において経済的に厳しい世帯の状況が、子どもとその家族の生活にどのように影響しているのかを明らかにするために実施しました。家庭の経済状況にかかわらず、すべての子どもの成長を支えるための方策を検討する上で、子育て世帯の経済状況と生活実態に関する本調査の結果を基礎資料とし、有効な施策のあり方についての有益な情報を得ることを目的としています。

(2) 調査方法

宝塚市在住の子どもとその保護者を対象としたアンケート調査を、宝塚市立の小中学校を通じて平成 29 年(2017 年) 3 月 3 日に配布し、記入されたアンケート用紙を郵送によって回収しました。

子ども用アンケート、保護者用アンケート、子ども用アンケート封入用封筒、保護者用アンケート封入用封筒、返送用封筒の 5 点を配布し、子どもと保護者が互いの回答を読まずに返送できるよう、回答した子ども用アンケートと保護者用アンケートを、それぞれの封入用封筒に入れた上で、それらを併せて返信用封筒に入れて返送する形で実施しています。調査期間は平成 29 年(2017 年) 3 月 3 日から平成 29 年(2017 年) 4 月 24 日です。また、調査協力への礼状を兼ねた督促状をアンケートと同様に学校を通じて平成 29 年(2017 年) 3 月 22 日に配布しました。

(3) 調査対象者

アンケート調査の調査対象者は、宝塚市在住の小学 5 年生 848 人とその保護者及び宝塚市在住の中学 2 年生 845 人とその保護者の、計 1,693 人です。宝塚市立の全小中学校を対象に学校規模等を考慮してクラス単位で対象を選定しています。

(4) 回収結果

アンケートの回収結果は以下の通りです。子どもと保護者のアンケートの両方に回答があるもの(親子ペア)を有効回答とし、本報告書の分析の対象としています。

■アンケート回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
小学 5 年生調査	子ども : 848 保護者 : 848	親子ペア : 451	53.2%
中学 2 年生調査	子ども : 845 保護者 : 845	親子ペア : 357	42.2%
合計	子ども : 1,693 保護者 : 1,693	親子ペア : 808	47.7%

※有効回収以外に、保護者のみの回収(子どもの年齢は不明)が 3 通ありました。

2. 貧困・生活困難に関する分析の視点について

(1) 相対的貧困世帯

国の国民生活基礎調査では、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分を相対的貧困水準と定義しています。この定義に基づき本調査においても、世帯収入が国民生活基礎調査によって示された相対的貧困水準以下の世帯を相対的貧困世帯とします。

本調査においては、保護者調査で税込みの世帯収入を 50 万円区分で尋ねています。そこで、相対的貧困水準の算定に対応する可処分所得を概算した上で、相対的貧困となる区分を選定しました。具体的には、本調査と同様の調査設計となっている内閣府「親と子の生活意識に関する調査」（平成 23 年）と同じ手法を採用しました。

まず、平成 27 年国民生活基礎調査における所得 5 分位階級（すべての世帯を収入の低い方から順番に並べ、それを 5 等分して 5 つのグループを作った場合の各グループ）ごとに、平均可処分所得に対する平均所得の比となる係数を算出します（表 A）。続いて、相対的貧困水準（世帯人数別に、その金額以下の世帯収入の場合に相対的貧困となる所得額）が定義されている平成 25 年国民生活基礎調査から、世帯人員別に相対的貧困線を算出し、それぞれに対応する上記の係数を乗じることで、貧困線の値に対応する世帯収入を概算し、この世帯収入を下回る収入区分を、本調査における相対的貧困世帯としました（表 B）。

■表 A 所得 5 分位階級ごとの係数（平均可処分所得に対する平均所得の比）

	1 世帯あたり平均所得 (a)	平均可処分所得 (b)	係数 (a/b)
第 I (～199 万円)	125.7 万円	113.7 万円	1.11
第 II (199～339 万円)	270.2 万円	235.2 万円	1.15
第 III (339～527 万円)	428.9 万円	359.9 万円	1.19
第 IV (527～808 万円)	658.8 万円	536.0 万円	1.23
第 V (808 万円～)	1225.7 万円	947.9 万円	1.29

※平成 27 年国民生活基礎調査結果より作成。「1 世帯あたり平均所得」は税込み収入、「平均可処分所得」は手取り収入に該当します。

■表 B 世帯人員ごとの相対的貧困となる区分

世帯人員	相対的貧困線	係数	対応する世帯収入	相対的貧困世帯となる区分
2 人	173 万円	1.11	191 万円	200 万円未満
3 人	211 万円	1.15	242 万円	250 万円未満
4 人	244 万円	1.15	280 万円	250 万円未満
5 人	273 万円	1.15	314 万円	300 万円未満
6 人	299 万円	1.15	343 万円	350 万円未満
7 人	323 万円	1.15	371 万円	350 万円未満
8 人	345 万円	1.19	411 万円	400 万円未満
9 人	366 万円	1.19	436 万円	400 万円未満

※「相対的貧困線」は平成 25 年国民生活基礎調査を参照、「係数」は表 A を参照。「相対的貧困線」は手取り収入（可処分所得）に基づく基準であり、「対応する世帯収入」は税込み収入、「相対的貧困世帯となる区分」は本調査で尋ねた世帯全員の税込み収入です。

■参考 内閣府「親と子の生活意識に関する調査」（平成 23 年）における相対的貧困区分

世帯人員	相対的貧困線	係数	対応する世帯収入	相対的貧困世帯となる区分
2 人	177 万円	1.11	196 万円	200 万円未満
3 人	217 万円	1.15	249 万円	250 万円未満
4 人	250 万円	1.15	288 万円	250 万円未満
5 人	280 万円	1.15	321 万円	300 万円未満
6 人	306 万円	1.15	352 万円	350 万円未満
7 人	331 万円	1.18	390 万円	350 万円未満
8 人	354 万円	1.18	417 万円	400 万円未満

上記に基づいて算出した、本調査における相対的貧困世帯の割合は以下の通りです。

調査区分	相対的貧困世帯	非相対的貧困世帯	判定不能
小学 5 年生（451 世帯）	33 世帯（7.3%）	365 世帯（80.9%）	53 世帯（11.8%）
中学 2 年生（357 世帯）	27 世帯（7.6%）	291 世帯（81.5%）	39 世帯（10.9%）
全 体（808 世帯）	60 世帯（7.4%）	656 世帯（81.2%）	92 世帯（11.4%）

※判定不能は、相対的貧困世帯の判定に必要な世帯人員と世帯収入のいずれかが無回答であったものです。

本調査における本市の子どもの相対的貧困率（小学 5 年生と中学 2 年生の平均）は 7.4%、国全体における子どもの相対的貧困率（相対的貧困水準を下回る世帯で暮らす 18 歳未満の子どもの割合）は 13.9%（平成 28 年国民生活基礎調査）ですが、調査方法が異なるため本調査との単純な比較はできません。

（2）生活困難世帯

先行自治体における調査では、相対的貧困水準を分析の軸として、貧困世帯の状況に注目した報告が行われているものが多くあります。しかし調査結果をみると、生活必需品の非所有や、光熱水費・通信費・保険料等の支払困難経験、食料・衣料・学用品といった生活必需品の購入困難経験など、一般に生活を行う上での困難な状況は、相対的貧困世帯に限らず広がっていることがわかりました。

そこで、世帯収入のみの外形的な要件だけではなく、広く生活困難の実情に注目し、保護者と子どもの意識や生活への影響を分析するために、独自に「生活困難世帯」を定義し、子育て世帯の生活困難の状況に注目しました。相対的貧困世帯ではない世帯で、生活必需品の非所有やライフライン関連費用の支払困難経験等の状況がある世帯を「生活困難世帯」と定義し、分析の軸とします。生活困難世帯とは、相対的貧困世帯を除き、次の 3 点のいずれかに該当する世帯とします。

- ①生活必需品非所有世帯
- ②ライフライン関連費用支払困難経験世帯
- ③生活必需品購入困難経験世帯

各項目の詳しい定義は次の通りです。

①生活必需品非所有世帯

保護者対象の調査において、経済的理由のために家庭にないものについて、「あてはまるものはない」以外で、以下のいずれか1つ以上回答した世帯を「生活必需品非所有世帯」と定義します。

・子どもの年齢にあった絵本や本 ・子ども用のスポーツ用品・ぬいぐるみ・おもちゃ ・子どもが自宅で宿題をすることができる場所 ・洗濯機 ・冷蔵庫 ・掃除機 ・電子レンジ	・暖房機器（エアコンを含む） ・冷房機器（エアコンを含む） ・電話（固定電話・携帯電話を含む） ・お風呂 ・世帯人数分の布団 ・急な出費のための貯金（5万円以上） ・あてはまるものはない
---	---

本調査における生活必需品非所有世帯の割合は以下の通りです。

調査区分	生活必需品非所有世帯	非生活必需品非所有世帯	判定不能
小学5年生(418世帯)	43世帯(10.3%)	366世帯(87.6%)	9世帯(2.2%)
中学2年生(330世帯)	32世帯(9.7%)	289世帯(87.6%)	9世帯(2.7%)
全 体(748世帯)	75世帯(10.0%)	655世帯(87.6%)	18世帯(2.4%)

※相対的貧困世帯を除いた数で示しています。判定不能は、「あてはまるものはない」を含めてこの質問への回答がなかったものです。

②ライフライン関連費用支払困難経験世帯

保護者対象の調査において、過去1年間に経済的理由のために支払いができなかったものについて、「あてはまるものはない」以外で、以下のいずれか1つ以上を回答した世帯を「ライフライン関連費用支払困難経験世帯」と定義します。

・学校・保育所（園）・幼稚園の遠足費用や修学旅行費などの学校徴収金 ・学校や保育所（園）・幼稚園の給食費 ・家賃 ・電気代 ・ガス代	・水道代 ・電話代（固定電話・携帯電話を含む） ・公的年金・健康保険・介護保険の保険料支払い ・所得税や住民税 ・通勤や通学に使うバスや電車の料金 ・あてはまるものはない
--	--

本調査におけるライフライン関連費用支払困難経験世帯の割合は以下の通りです。

調査区分	ライフライン関連費用支払困難経験世帯	非ライフライン関連費用支払困難経験世帯	判定不能
小学5年生(418世帯)	22世帯(5.3%)	388世帯(92.8%)	8世帯(1.9%)
中学2年生(330世帯)	14世帯(4.2%)	309世帯(93.6%)	7世帯(2.1%)
全 体(748世帯)	36世帯(4.8%)	697世帯(93.2%)	15世帯(2.0%)

※相対的貧困世帯を除いた数で示しています。判定不能は、「あてはまるものはない」を含めてこの質問への回答がなかったものです。

③生活必需品購入困難経験世帯

保護者対象の調査において、過去1年の間にお金が足りなくて以下のものを買えなかったことが、「ときどき」以上あったと回答した世帯を「生活必需品購入困難経験世帯」と定義します。

- ・家族が必要とする食料（嗜好品以外）
- ・家族が必要とする衣料（高価な衣服や貴金属・宝飾品以外）
- ・子どもが必要とする文具や教材（学校指定の制服や靴、部活動の道具等も含む）

本調査における生活必需品購入困難経験世帯の割合は以下の通りです。

調査区分	生活必需品購入困難 経験世帯	非生活必需品購入困難 経験世帯	判定不能
小学5年生(418世帯)	8世帯 (1.9%)	410世帯 (98.1%)	0世帯 (0.0%)
中学2年生(330世帯)	14世帯 (4.2%)	315世帯 (95.5%)	1世帯 (0.3%)
全 体(748世帯)	22世帯 (2.9%)	725世帯 (96.9%)	1世帯 (0.1%)

※相対的貧困世帯を除いた数で示しています。判定不能は、食料・衣料・文具や教材についての質問のいずれかに無回答があり、しかも回答された質問においては生活必需品購入困難経験世帯とは判定されなかったものです。

①から③のいずれかに該当した世帯を「生活困難世帯」と定義します。また、生活困難世帯に関する質問のすべてに回答し、相対的貧困世帯にも生活困難世帯にも該当しない世帯を、「非生活困難世帯」と定義します。本調査における相対的貧困世帯・生活困難世帯・非生活困難世帯の世帯数、割合は以下の通りです。ただし、相対的貧困世帯は世帯収入と世帯人員のみによって定義されるため、すべての世帯が年収400万円未満ですが、生活困難世帯は世帯収入にかかわらず、生活必需品の非所有等の状況によって定義されるため、世帯収入が1,000万円以上の幅広い層が含まれています。生活困難世帯のうち、小学5年生の24.5%、中学2年生の25.0%は、本調査における世帯収入の中央値である「650～700万円未満」より多い収入を回答しています。

調査区分	相対的貧困世帯	生活困難世帯	非生活困難世帯	判定不能
小学5年生(451世帯)	33世帯 (7.3%)	49世帯 (10.9%)	312世帯 (69.2%)	57世帯 (12.6%)
中学2年生(357世帯)	27世帯 (7.6%)	40世帯 (11.2%)	248世帯 (69.5%)	42世帯 (11.8%)
全 体(808世帯)	60世帯 (7.4%)	89世帯 (11.0%)	560世帯 (69.3%)	99世帯 (12.3%)

※判定不能は、相対的貧困世帯以外の世帯のうち、生活必需品非所有世帯、ライフライン関連費用支払困難経験世帯、生活必需品購入困難経験世帯のいずれか1つ以上において判定不能となり、生活困難世帯かどうかを判定できなかったものです。

(3) ひとり親世帯

平成 25 年国民生活基礎調査では、ひとり親世帯の相対的貧困率が 54.6%であったことが報告されており、国の「子供の貧困対策に関する大綱」においても、主な支援の対象として重視されています。経済的に厳しい状況にある世帯の多くをひとり親世帯が占めていることが、本調査においても結果として示されています。本調査におけるひとり親世帯の状況は以下の通りです。なお、ひとり親世帯の判定については、「現在の両親の婚姻関係」で「結婚していない（離婚・死別・未婚を含む）」と回答した世帯を抽出し、保護者調査の回答者の子どもからみた続柄や、「生活を一緒にしている人」の回答状況から母子世帯か父子世帯かを判断しています。本調査におけるひとり親世帯の内訳は以下の通りです。

調査区分	母子世帯	父子世帯	ひとり親世帯合計
小学 5 年生 (451 世帯)	32 世帯 (7.1%)	7 世帯 (1.6%)	39 世帯 (8.6%)
中学 2 年生 (357 世帯)	24 世帯 (6.7%)	7 世帯 (2.0%)	31 世帯 (8.7%)
全 体 (808 世帯)	56 世帯 (6.9%)	14 世帯 (1.7%)	70 世帯 (8.7%)

ひとり親世帯における相対的貧困世帯・生活困難世帯の状況は以下の通りです。

世帯区分		相対的貧困世帯	生活困難世帯	非生活困難世帯	判定不能
小学 5 年生	母子世帯 (32 世帯)	21 世帯 (65.6%)	2 世帯 (6.3%)	6 世帯 (18.8%)	3 世帯 (9.4%)
	父子世帯 (7 世帯)	2 世帯 (28.6%)	2 世帯 (28.6%)	2 世帯 (28.6%)	1 世帯 (14.3%)
	ひとり親世帯合計 (39 世帯)	23 世帯 (59.0%)	4 世帯 (10.3%)	8 世帯 (20.5%)	4 世帯 (10.3%)
	全体 (451 世帯)	33 世帯 (7.3%)	49 世帯 (10.9%)	312 世帯 (69.2%)	57 世帯 (12.6%)
中学 2 年生	母子世帯 (24 世帯)	9 世帯 (37.5%)	4 世帯 (16.7%)	9 世帯 (37.5%)	2 世帯 (8.3%)
	父子世帯 (7 世帯)	1 世帯 (14.3%)	3 世帯 (42.9%)	3 世帯 (42.9%)	0 世帯 (0.0%)
	ひとり親世帯合計 (31 世帯)	10 世帯 (32.3%)	7 世帯 (22.6%)	12 世帯 (38.7%)	2 世帯 (6.5%)
	全体 (357 世帯)	27 世帯 (7.6%)	40 世帯 (11.2%)	248 世帯 (69.5%)	42 世帯 (11.8%)

また、相対的貧困世帯・生活困難世帯に占める、ひとり親世帯の割合は以下の通りです。

調査区分	世帯区分	母子世帯	父子世帯	ひとり親世帯合計
小学 5 年生	相対的貧困世帯 (33 世帯)	21 世帯 (63.6%)	2 世帯 (6.1%)	23 世帯 (69.7%)
	生活困難世帯 (49 世帯)	2 世帯 (4.1%)	2 世帯 (4.1%)	4 世帯 (8.2%)
中学 2 年生	相対的貧困世帯 (27 世帯)	9 世帯 (33.3%)	1 世帯 (3.7%)	10 世帯 (37.0%)
	生活困難世帯 (40 世帯)	4 世帯 (10.0%)	3 世帯 (7.5%)	7 世帯 (17.5%)

中学2年生のひとり親世帯では、小学5年生と比べて相対的貧困世帯の割合が低くなっています。これは、中学2年生の方がアンケートの回収率が低く、経済的に厳しい状況にある世帯の回収率が小学5年生よりも低かったことによるところが大きいと考えられます。

本報告書では、主に相対的貧困世帯・生活困難世帯の現状を全体との比較で示すことを基本としていますが、保護者の働き方や帰宅時間、家庭で子どもだけで過ごす時間の有無、家庭における子どもへの教育的な働きかけの状況、子どもの孤食の状況、子どもと保護者に必要な支援については、ひとり親世帯に特有の現状があると考えられるため、特にひとり親世帯を抽出して結果を示しています。また主にひとり親世帯を対象とした支援等である、児童扶養手当と離婚後の配偶者からの養育費についても同様です。

（４）相対的貧困率の解釈について

本調査の結果、相対的貧困率は小学5年生 7.3%、中学2年生 7.6%です。しかし、この結果が本市の相対的貧困率の実態を正確に反映したものとは言えない可能性について、留意が必要です。本調査には、相対的貧困率に影響する調査手法上の複数の要因があり、例えば次のようなことが考えられます。

1点目は、本調査が宝塚市立の小中学校の児童・生徒を対象としており、経済的にゆとりがある世帯が多いと考えられる国立・私立小中学校在籍者が調査対象に含まれていないことです。本調査の対象となった平成28年度(2016年度)の小学5年生については、小学校入学時に5.7%が私立学校に進学しており、中学2年生については中学校入学時に21.3%が私立学校に進学しています。私立学校に進学した児童・生徒の世帯における、相対的貧困率はかなり小さいと考えられるため、この点は調査結果における相対的貧困率を実際より高く示す要因となります。

2点目は、家庭の状況とアンケートへの回収率に関連がある可能性です。一般に郵送回収によって行われる調査では、定年退職者や専業主婦など、時間的に余裕のある人の回収率が高くなり、就業者をはじめとして時間的な余裕を持ちにくい人の回収率は低くなる傾向があります。したがって、ひとり親世帯が多く、生活にゆとりがない保護者が多いと考えられる貧困世帯ほど、回収率が低くなっていることが考えられます。実際、本調査では各種の公的な支援（手当）の受給状況を尋ねていますが、調査対象となっている、市立学校に在籍する小学5年生と中学2年生の就学援助の受給率をみると、調査結果における数値（小学5年生 7.8%、中学2年生 9.2%）は、本市が把握する実際の受給率（小学5年生 10.1%、中学2年生 13.9%）を下回っています。したがって本調査においては、経済的に厳しい状況にある世帯の回収率が低くなっていると考えられ、この点は調査結果における相対的貧困率を実際より低く示す要因となります。

3. 報告書の見方

(1) 表記方法について

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式の質問であっても、表記のパーセント値の合計が100.0ちょうどにならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表のいずれにおいても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、集計対象者の総数に対する、選択肢ごとの回答者数の割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

(2) 相対的貧困世帯・生活困難世帯との比較グラフについて

本調査は家庭の経済的に厳しい状況が、子どもと家庭の生活等にどのように影響しているかを明らかにすることを主な目的としています。そのため、ほとんどすべての質問について、小学5年生、中学2年生のそれぞれで、全体、相対的貧困世帯・生活困難世帯の回答状況を比較したグラフを掲載しています。このとき全体の数値には、相対的貧困世帯・生活困難世帯・非生活困難世帯・判定不能な世帯のすべてが含まれます。

(3) 本報告書の構成について

本報告書では、以下の「Ⅱ 保護者対象調査の結果」において、保護者対象調査のアンケートの順に、すべての質問に対する回答の結果を示しています。続いて、「Ⅲ 子ども対象調査の結果」において、小学5年生、中学2年生対象調査のアンケート調査票の順に、すべての質問に対する回答の結果を示しています。最後に「Ⅳ 分析・考察」において、保護者対象調査の回答状況別の子ども対象調査の結果の分析や、平成23年に内閣府が実施した「親と子の生活意識に関する調査」との比較による本市の特徴の分析、本市の現状のまとめや施策化に向けた検討課題について示しています。

(4) 質問と掲載ページの一覧

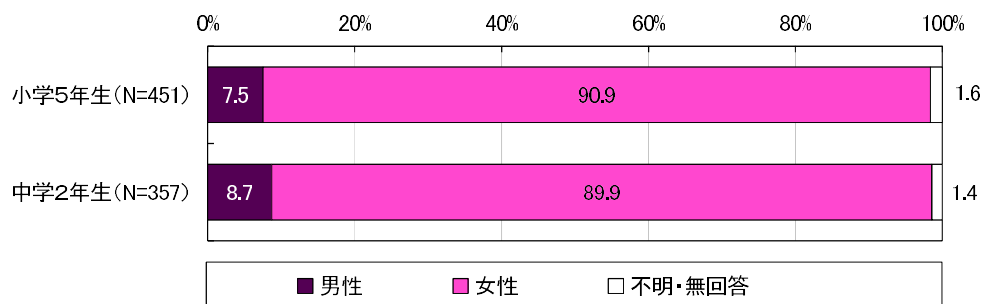
保護者調査質問	掲載頁	子ども調査質問	掲載頁
性別	12	性別	72
年齢	12	学校が楽しいか	72
子どもからみた続柄	12	学校の授業	73
両親の婚姻関係	13	学校の先生に会うこと	74
住居の種類と建て方	14	学校の友だちに会うこと	74
健康状態	15	学校の休み時間	75
朝食を食べているか	16	学校の給食(昼食時間)	76
悩みを相談できる人がいるか	16	部活動の時間(中学生のみ)	76
相談相手	17	学校の勉強がわかるか	77
緊急時に助けてくれる人	18	宿題をしているか	78
親の離婚や経済的困窮の経験	19	塾で勉強をしているか	79
家族の人数	21	塾や家庭教師を希望するか	79
子どもの人数	22	放課後誰と過ごすか	81
生活と一緒にしている人	23	放課後どこで過ごすか	82
生活費の稼ぎ手	24	平日の部活動(中学生のみ)	83
両親の学歴	25	休日の部活動(中学生のみ)	83
両親の働き方	27	起床時刻	84
働きたいと思うか	29	朝食を食べているか	85
両親の帰宅時刻	31	朝食の内容	86
子どもだけで就寝まで過ごすこと	33	歯みがきの頻度	87
子どもの食事をつくること	35	就寝時刻	88
子どもの勉強を見る	36	子どもだけでの夕食	89
宿題をするよう注意する	37	入浴の頻度	90
学校生活の話をする	38	テレビ・ビデオ視聴時間	91
一緒に料理をする	39	テレビゲームの時間	92
一緒に外出する	40	携帯電話・スマートフォン利用時間	93
家庭における文化的な活動や行事の経験	41	授業以外の勉強時間	94
子どもの塾や習い事	42	自分だけの本	95
子どもに希望する最終学歴	43	自分だけのマンガや雑誌	96
奨学金の利用	44	ゲーム機	96
学歴が低いと希望する職に就けない	45	自転車	97
教育にお金をかけたほうがよい	46	子ども部屋	97
勉強するといろいろな考えを身につけることができる	47	勉強机	98
努力すれば夢や希望は実現する	48	携帯電話・スマートフォン	98
一生懸命勉強してほしい	49	家庭での文化的な活動	99
少しでも早く働いてほしい	50	家族に学校のことを話す	100
早く親元から独立してほしい	51	家の手伝いをする	100
家事やきょうだいの世話をしてほしい	51	家族そろって食事をする	101
子どものむし歯	52	家族に勉強を教えてもらう	101
むし歯の治療	52	おこづかいをもらっているか	102
生活必需品の非所有	54	自分にはよいところがあると思う	103
ライフライン関連費用の支払困難経験	55	将来の夢や目標がある	104
食料が買えないこと	56	がんばればよいことがある	105
衣料が買えないこと	56	家族は自分を大切にしている	105
文具や教材が買えないこと	57	友だちから好かれている	106
治療のために受診しなかったこと	58	友だちと会うのは楽しい	106
受診しなかった理由	59	友だちとの約束を守っている	107
暮らしの総合評価	60	進学希望(中学生のみ)	108
就学援助	61	悩んでいることや心配なこと	109
児童扶養手当	62	悩みを相談できる人がいるか	110
障がいの手当	63	毎日の生活で感じていること	111
生活保護	63		
離婚後の配偶者からの養育費	64		
世帯収入	65		
子どもにあるとよい支援	67		
現在必要な支援	68		
毎日の生活で感じていること	69		

Ⅱ 保護者対象調査の結果

1. 回答者について

(1) あなたの性別をお答えください。

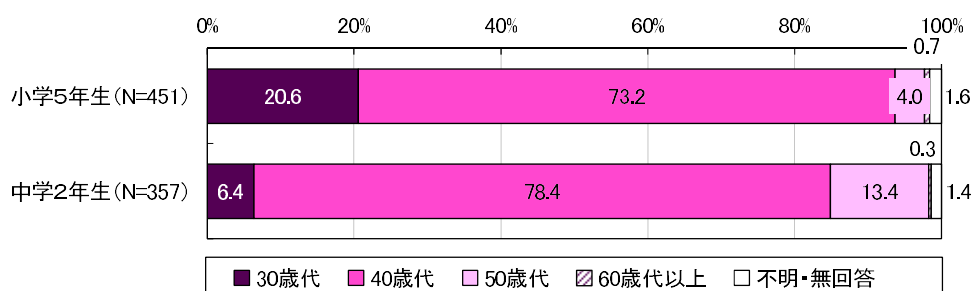
保護者調査の回答者の性別は、小学5年生、中学2年生とも「女性」が約9割を占めています。



※「その他」については小学5年生、中学2年生ともに回答がありませんでした。

(2) 現在のあなたの年齢をお答えください。

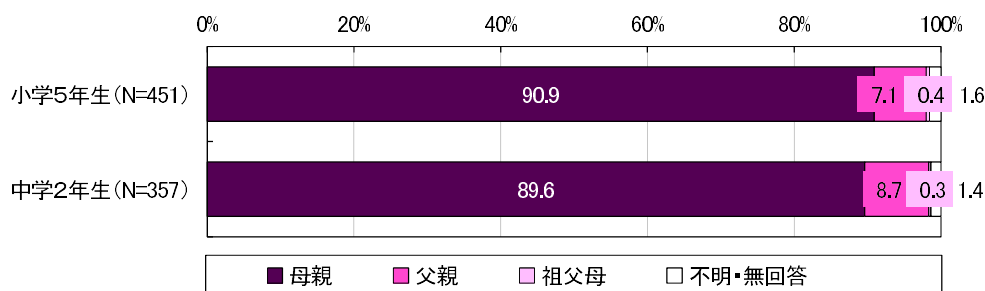
小学5年生、中学2年生とも「40歳代」が7割台で最も多く、次いで小学5年生では「30歳代」、中学2年生では「50歳代」が多くなっています。



※「10歳代」「20歳代」については小学5年生、中学2年生ともに回答がありませんでした。

(3) このアンケートを持ち帰ったお子さんからみた、あなたの続柄をお答えください。

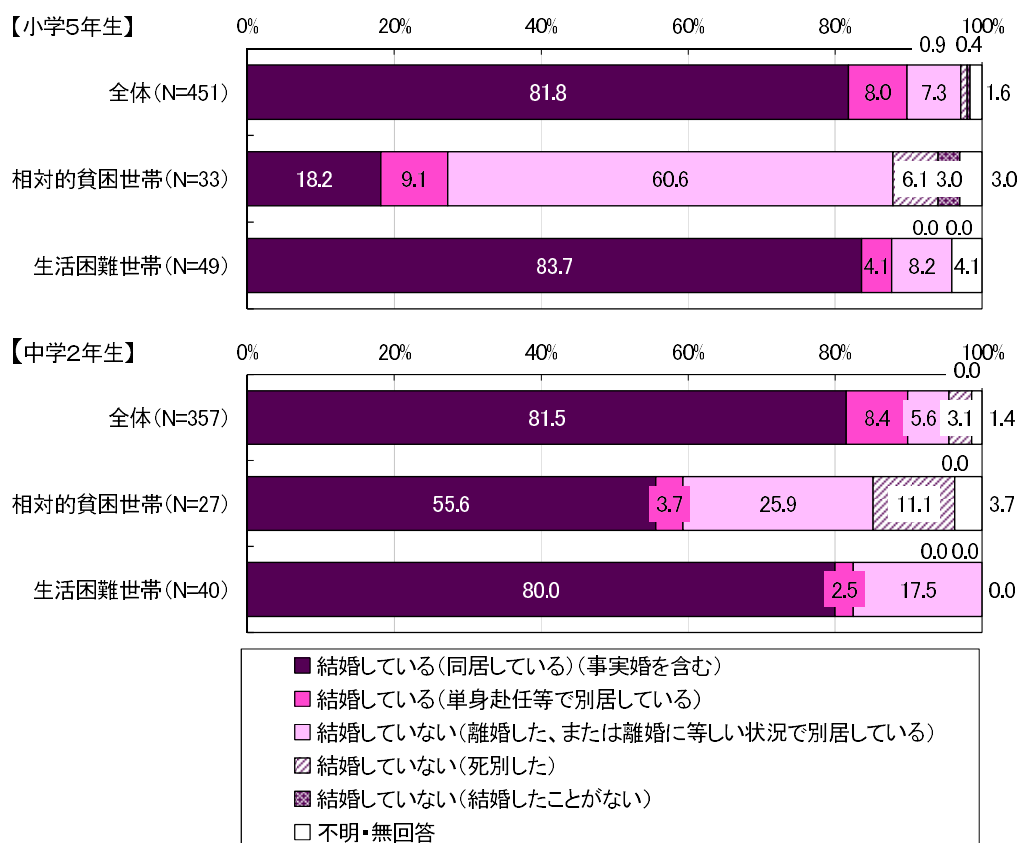
小学5年生、中学2年生とも「母親」が約9割を占めています。



※「兄・姉などのきょうだい」「おじ、おばなど親族」「その他」については小学5年生、中学2年生ともに回答がありませんでした。

(4) このアンケートを持ち帰ったお子さんの、現在のご両親の婚姻関係についてお答えください。

全体では約9割が「結婚している」と回答していますが、相対的貧困世帯では小学5年生で約7割、中学2年生で約4割が「結婚していない」と回答しています。生活困難世帯については、中学2年生で「結婚していない」の割合が高くなっています。

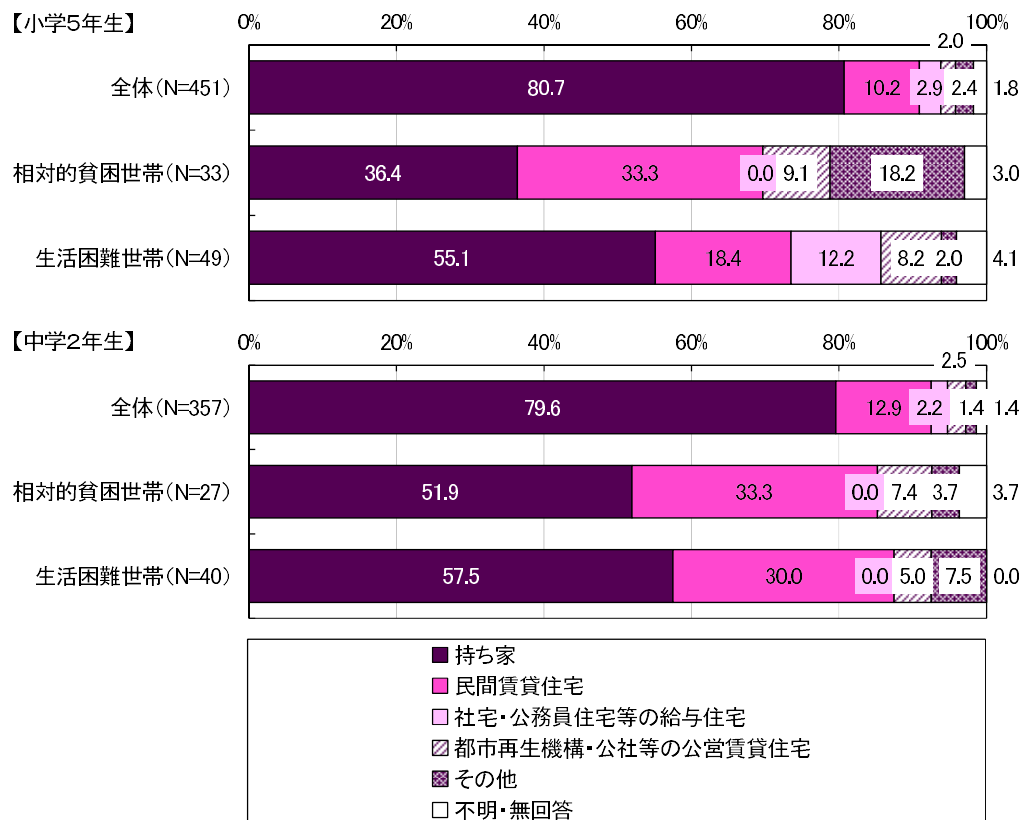


※「その他」については小学5年生、中学2年生ともに回答がありませんでした。

（５）現在お住まいの住居の種類と建て方についてお答えください。

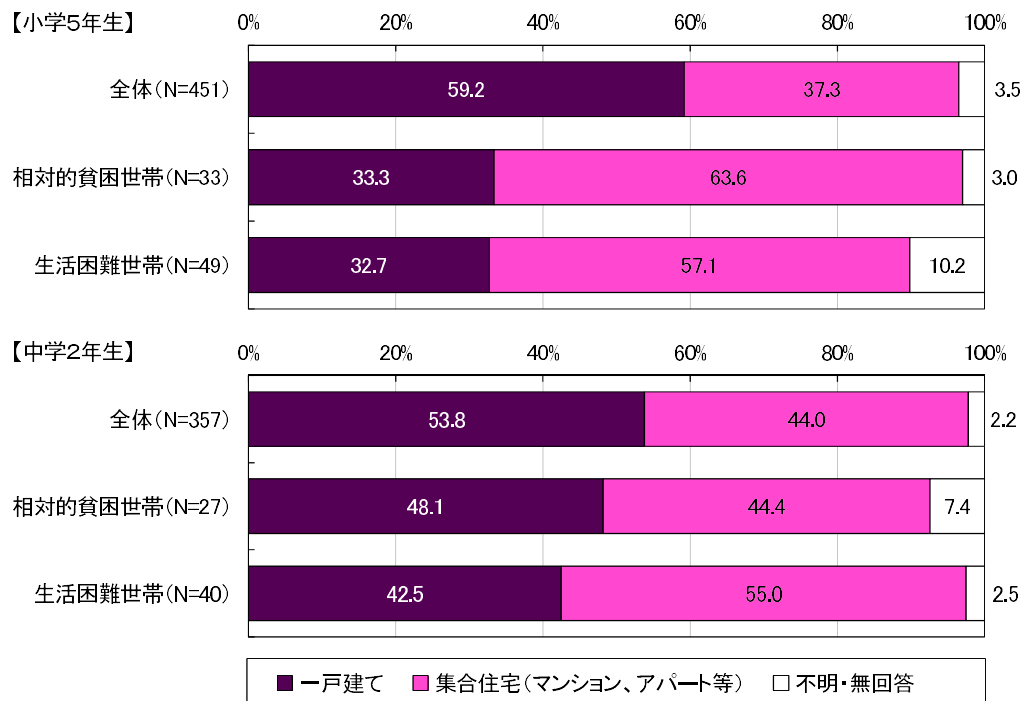
①住居の種類

全体では約８割が「持ち家」と回答しています。一方、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、持ち家の割合が低く、「民間賃貸住宅」、「公営賃貸住宅」が多くなっています。



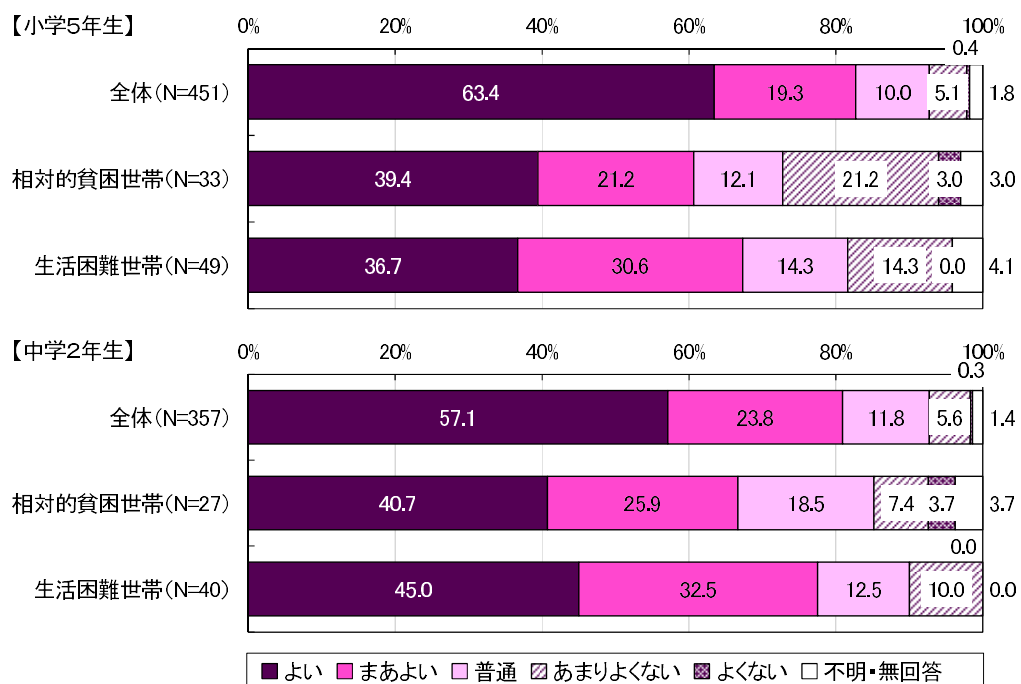
②住居の建て方の種類

全体では小学5年生、中学2年生とも「一戸建て」が5割台で最も多くなっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯では「一戸建て」の割合が低く、「集合住宅」の割合が高くなっています。



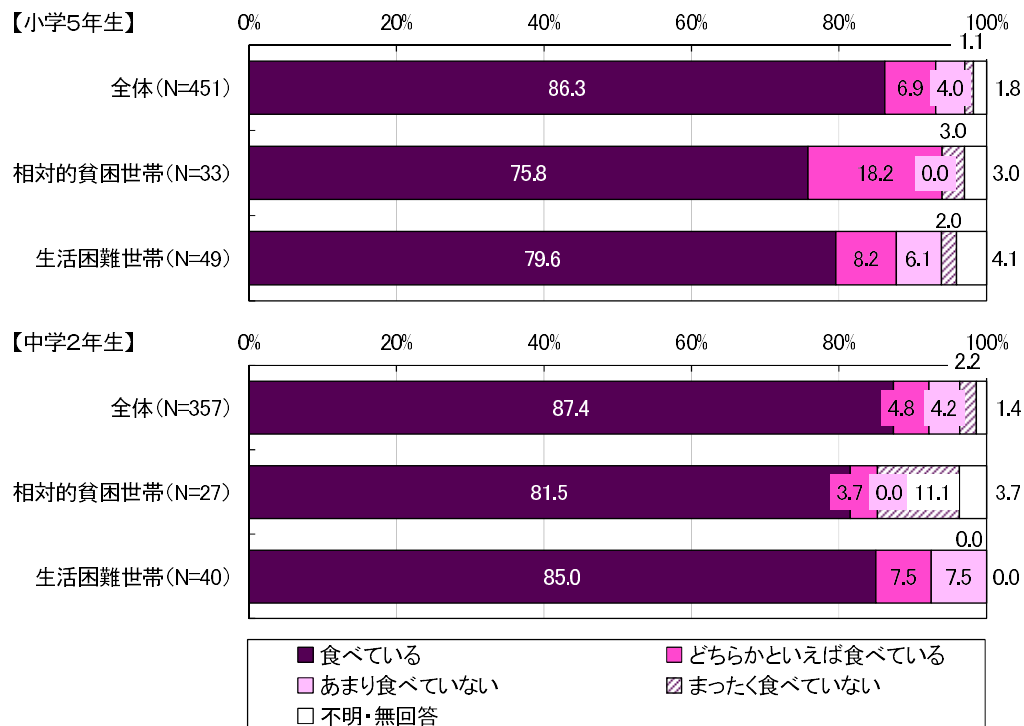
(6) あなたの現在の健康状態はいかがですか。

全体では「よい」が約6割で最も多く、次いで「まあよい」が約2割で続いています。相対的貧困世帯・生活困難世帯では、「よい」の割合が低く、「あまりよくない」、「よくない」が多くなっています。



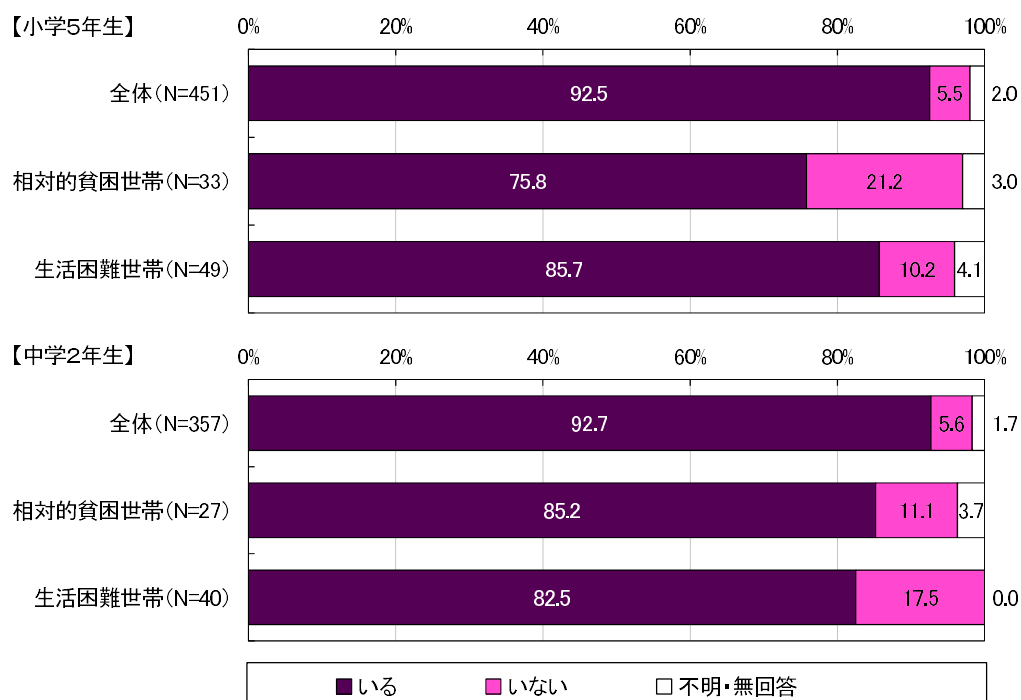
(7) あなたは朝ごはんを毎日食べていますか。

保護者の朝食の状況については、全体では「食べている」が8割台後半ですが、小学5年生では相対的貧困世帯・生活困難世帯の「食べている」の割合がやや低くなっています。



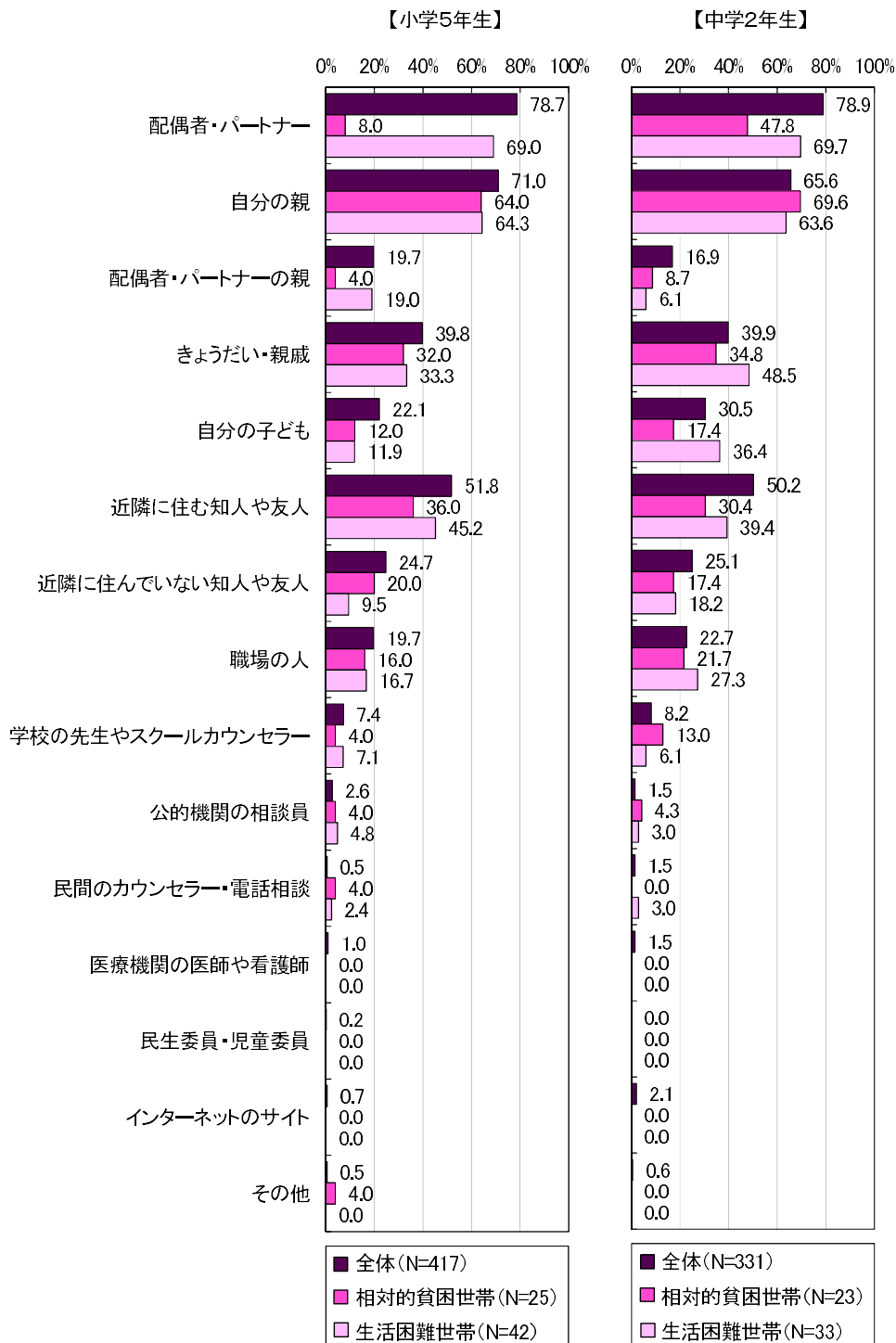
(8) あなたには、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人がいますか。

全体では「いる」が9割台ですが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では「いる」が7～8割台である一方、「いない」の割合が1～2割とやや高くなっています。



(9) (8)で「いる」に○をつけた方 相談できる相手はどんな人ですか。【複数回答】

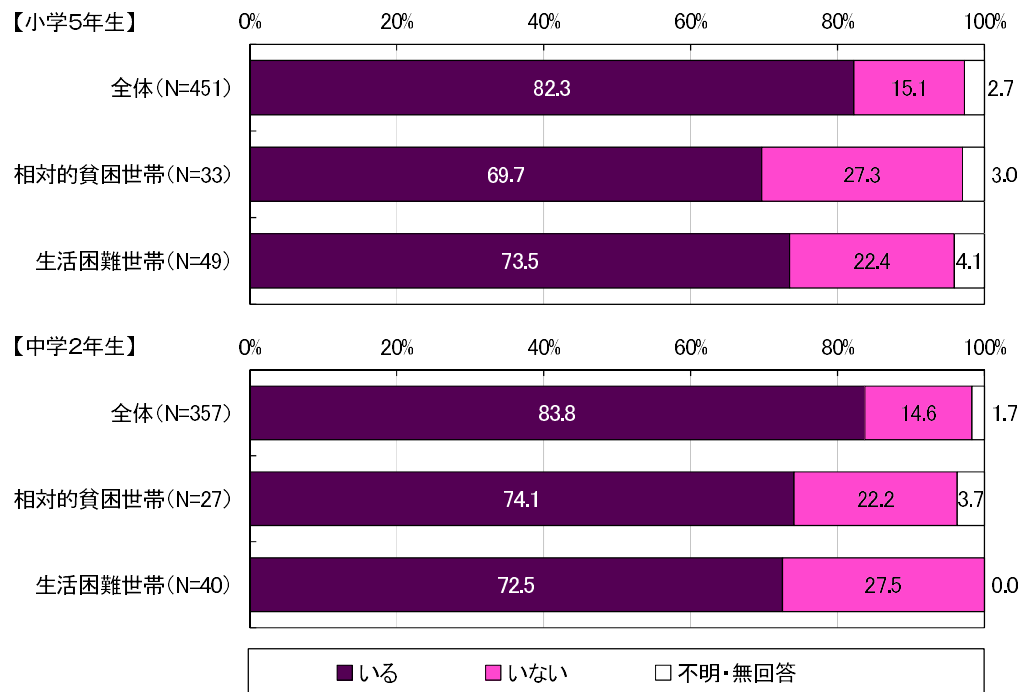
相談できる相手については、ひとり親の割合が高い相対的貧困世帯では、「配偶者・パートナー」という回答が特に少なくなっています。また、相対的貧困世帯・生活困難世帯では「近隣に住む知人や友人」、「近隣に住んでいない知人や友人」という回答もやや低くなっています。



※小学5年生、中学2年生ともに「不明・無回答」はありませんでした。

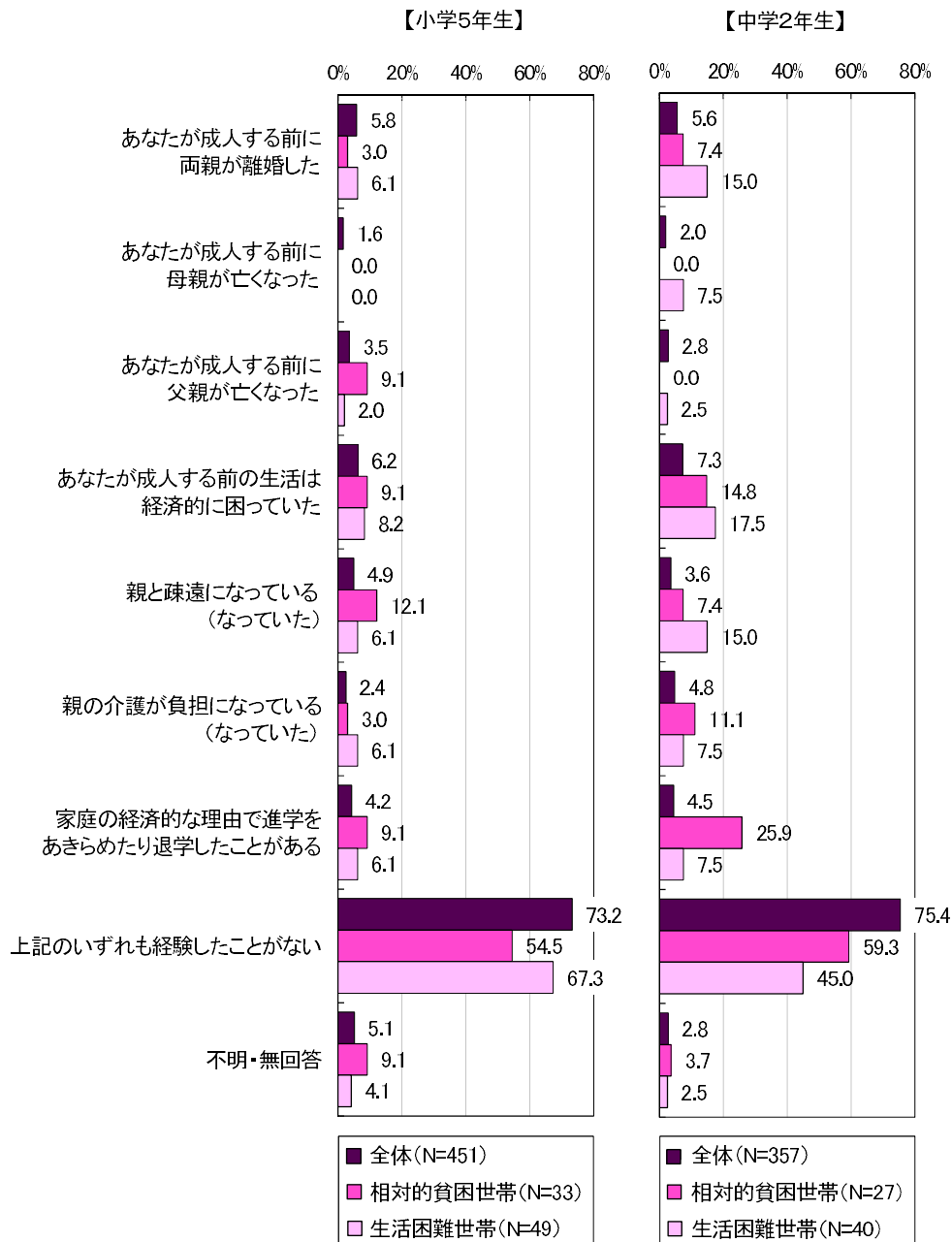
(10) あなたには、緊急時に子どもを預かったり、助けてくれたりする人がいますか。

全体では8割台前半が「いる」と回答していますが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では「いる」という回答は7割前後と低く、「いない」という回答が比較的多くなっています。



(11) あなたは、次のような経験をしたことがありますか。【複数回答】

全体では「いずれも経験したことがない」が7割台となっていますが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では「いずれも経験したことがない」の割合が低く、成人する前の両親の離婚、死去、経済的困窮や親との疎遠といった経験をしている割合が比較的高くなっています。



(12) 小括

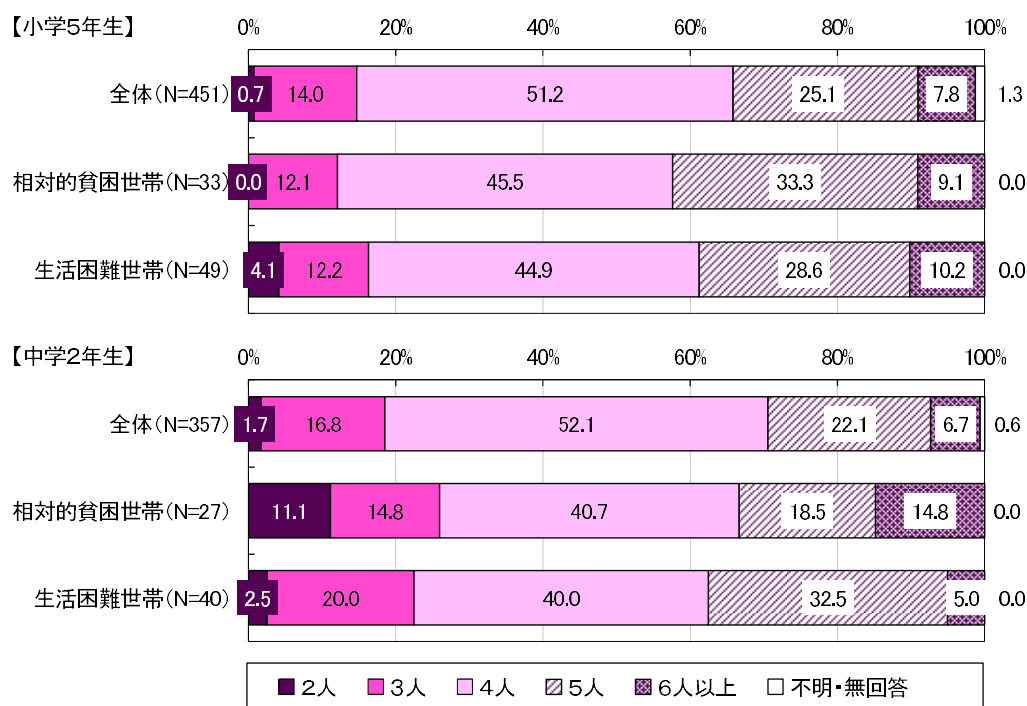
- 相対的貧困世帯にはひとり親世帯の割合が高く、特に小学5年生では相対的貧困世帯の7割がひとり親世帯です。また、小学5年生、中学2年生ともに、ひとり親世帯の半数以上が相対的貧困世帯または生活困難世帯となっています（p7 参照）。
- 相対的貧困世帯・生活困難世帯では、賃貸住宅、集合住宅に居住する人が多く、持ち家、一戸建て住宅は少なくなっています。
- 相対的貧困世帯・生活困難世帯では、保護者の健康状態がよくない人が比較的多くなっています。経済的に厳しい状況にあることが健康状態に悪影響を及ぼしているという側面と、健康状態がわるいことから就労ができないために経済的に厳しい状況にあるという側面の両方があると考えられます。
- 相対的貧困世帯・生活困難世帯では、困ったときに相談できる人や、緊急時に助けてくれる人がいる割合がやや低くなっています。経済的に厳しい状況と保護者の人間関係に関連があることがうかがえます。
- 相対的貧困世帯・生活困難世帯では、成人する前の両親の離婚、死去、経済的困窮や親との疎遠といった経験をしている割合が比較的高くなっており、貧困の連鎖があることがうかがえます。

2. 家族の状況について

(1) このアンケートを持ち帰ったお子さんは何人家族ですか。【数量回答】

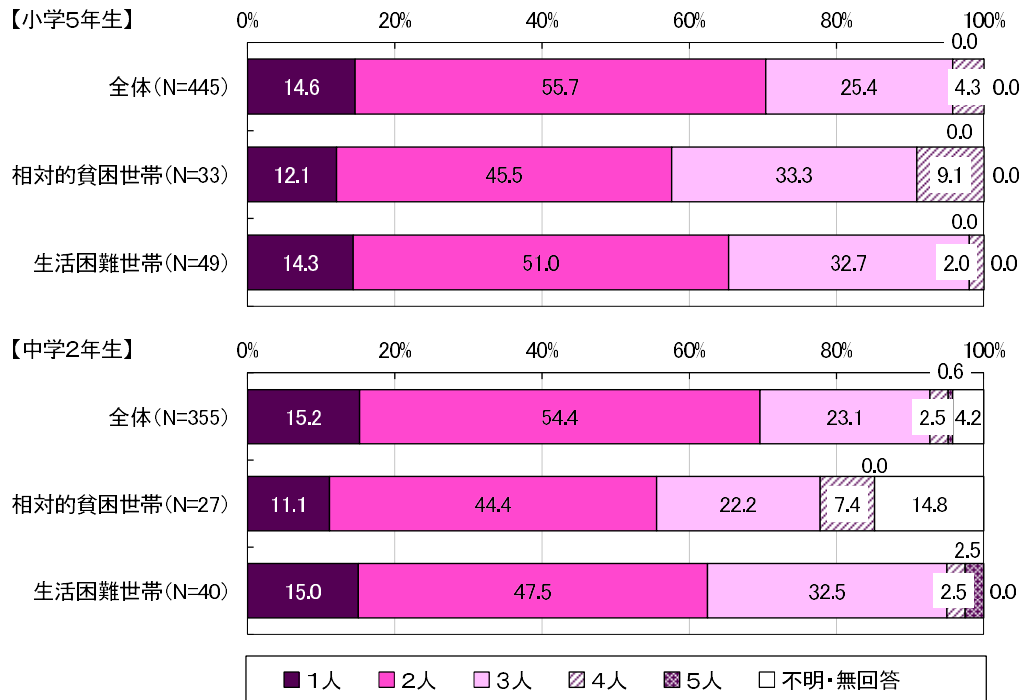
①家族の人数（あなたを含めて）

全体では「4人」が約半数で最も多く、次いで「5人」、「3人」の順となっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても家族数では大きな差はありませんが、中学2年生の相対的貧困世帯では、「2人」の割合がやや高くなっています。



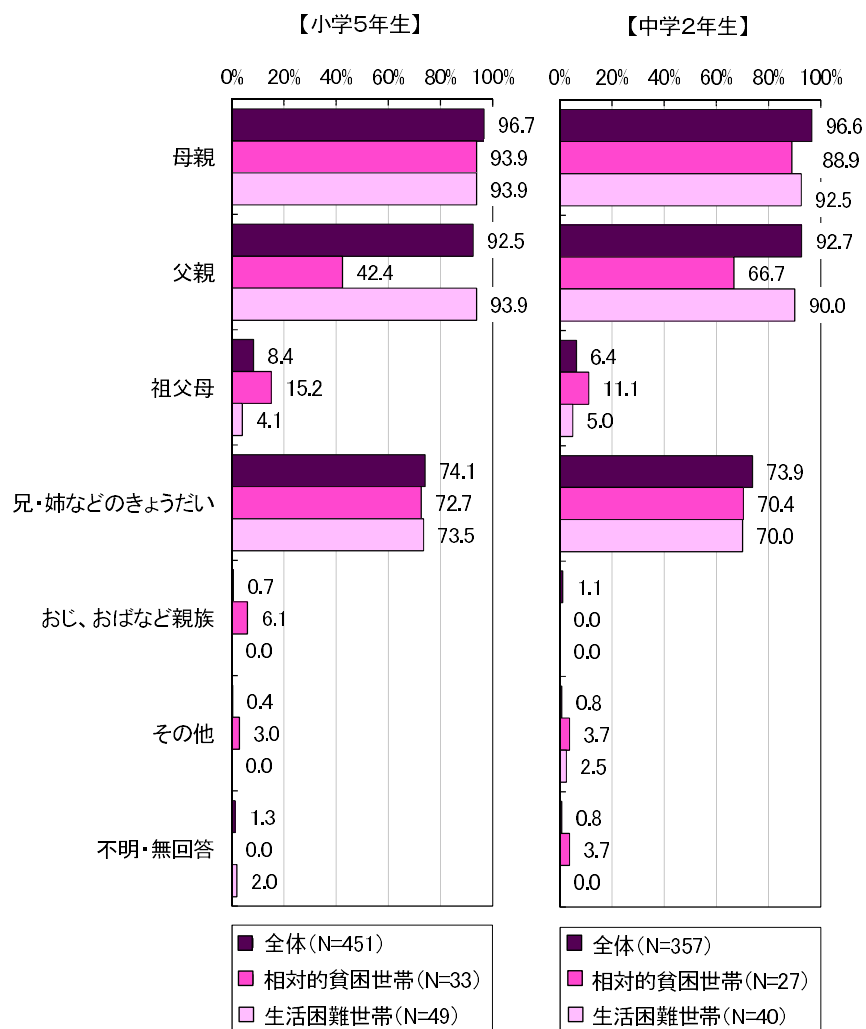
②その中の子ども的人数（成人している子どもも含めて）

子どもの人数は、全体では「2人」が5割台で最も多く、次いで「3人」、「1人」の順で多くなっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても大きな差は見られません。



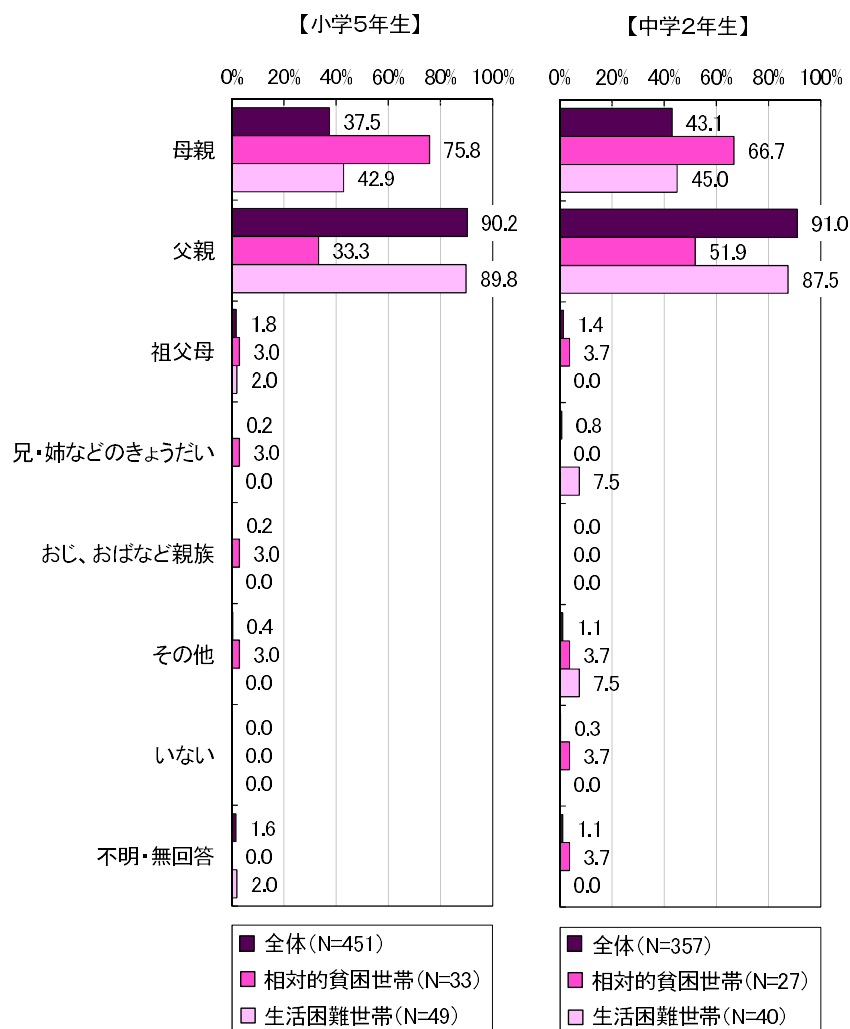
(2) 生活を一緒にしている方全員について、このアンケートを持ち帰ったお子さんからみた続柄をお答えください。【複数回答】

相対的貧困世帯では母子世帯が多いことから「父親」が少なくなっている一方、「祖父母」がやや多くなっています。



(3) ご家族の生活費用の稼ぎ手となっている方はどなたですか。このアンケートを持ち帰ったお子さんからみた続柄でお答えください。【複数回答】

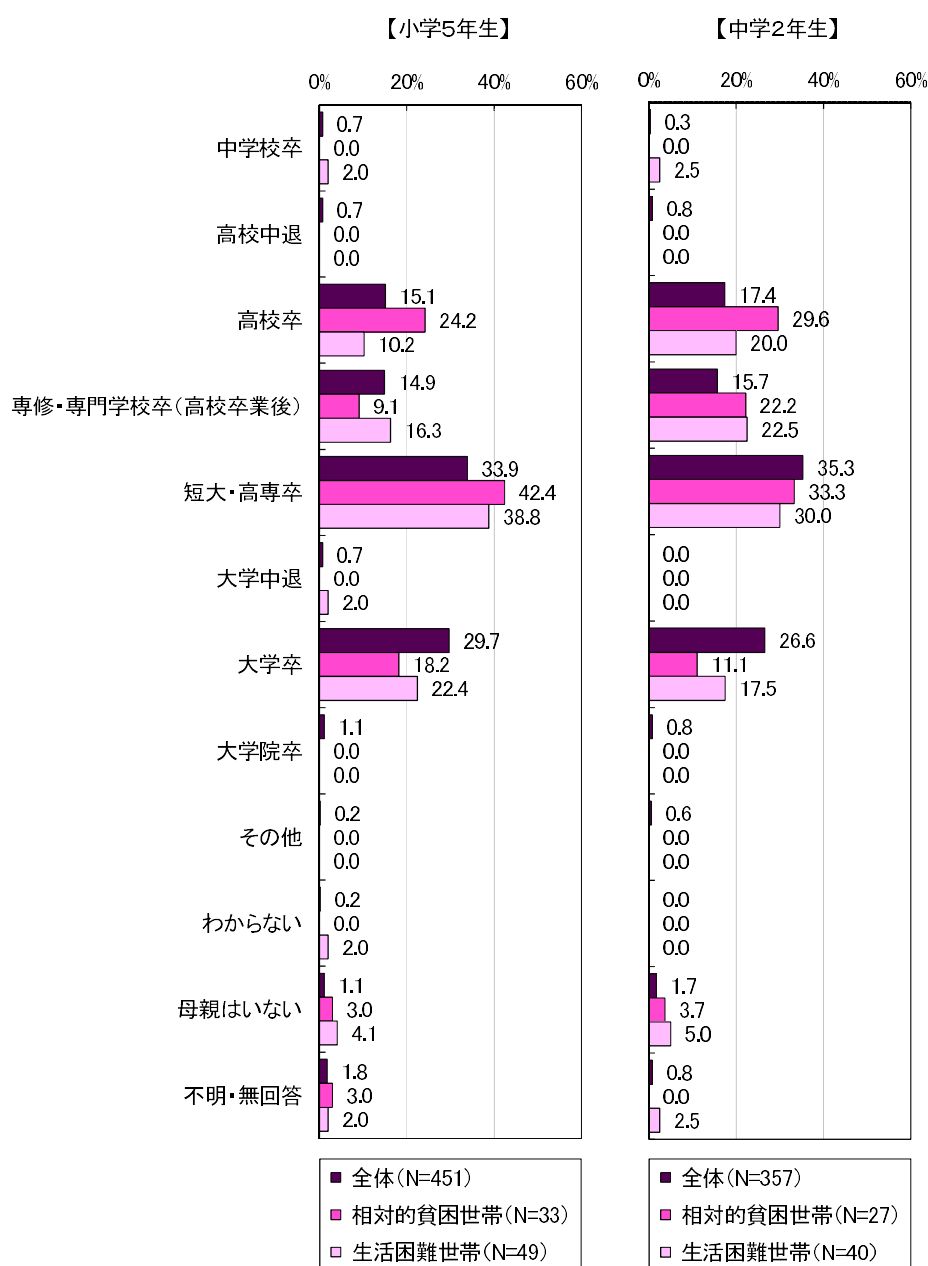
全体では「父親」が約9割で最も多く、次に「母親」が4割前後となっているのに対し、相対的貧困世帯では「母親」が7割前後で「父親」より多くなっています。



(4) このアンケートを持ち帰ったお子さんのご両親について、最後に通った（または在学中の）学校をそれぞれお答えください。

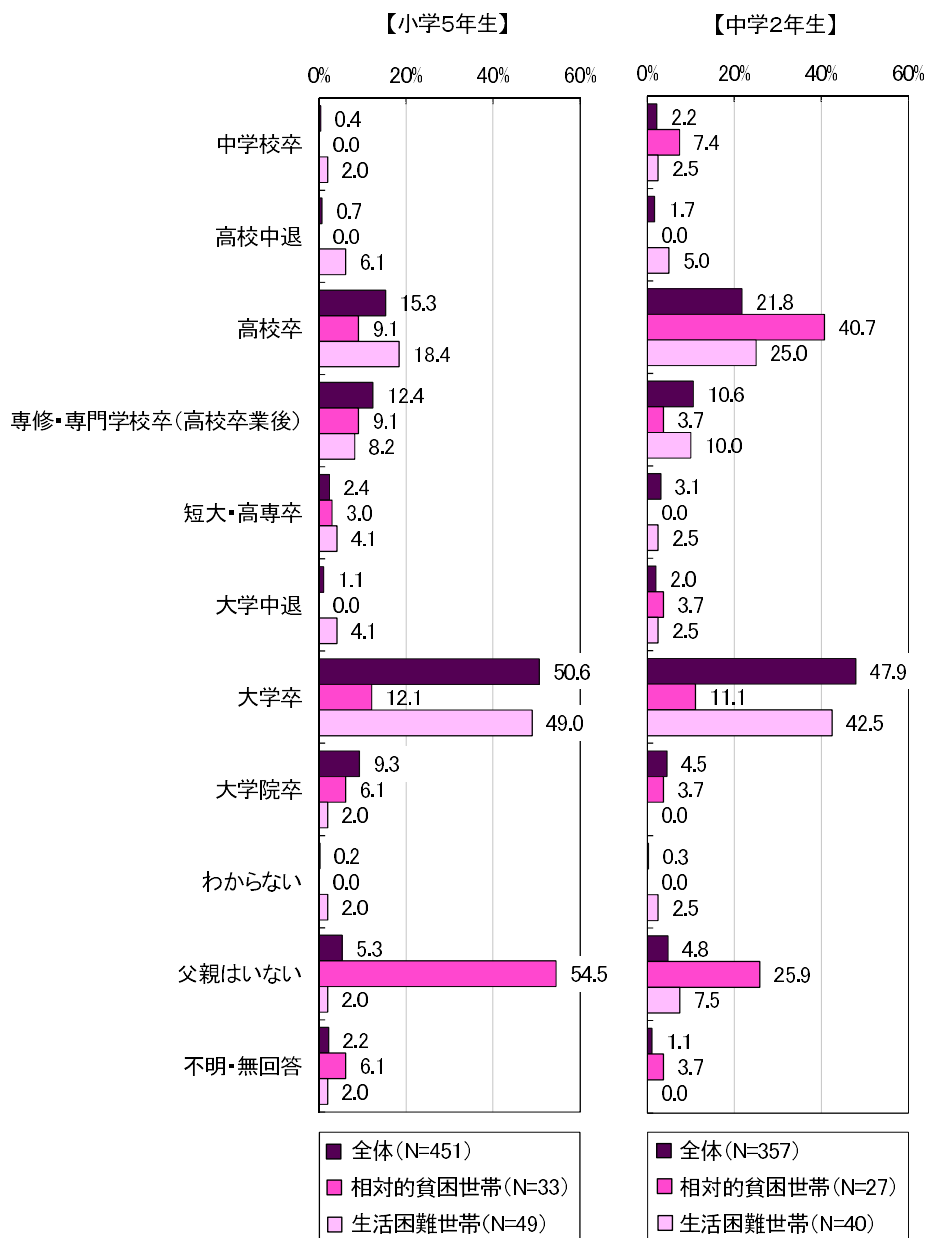
①母親

母親の学歴については、全体では「短大・高専卒」が3割台で最も多く、次いで「大学卒」が2割台後半、「高校卒」と「専修・専門学校卒（高校卒業後）」が1割台となっています。相対的貧困世帯では、「大学卒」の割合が低く、「高校卒」の割合が高くなっています。



②父親

父親の学歴については、全体では「大学卒」が約5割、「高校卒」が約2割、「専修・専門学校卒」が約1割となっています。相対的貧困世帯では、「父親はいない」が多いことを考慮しても、「大学卒」が少なく、中学2年生では「高校卒」が多くなっています。

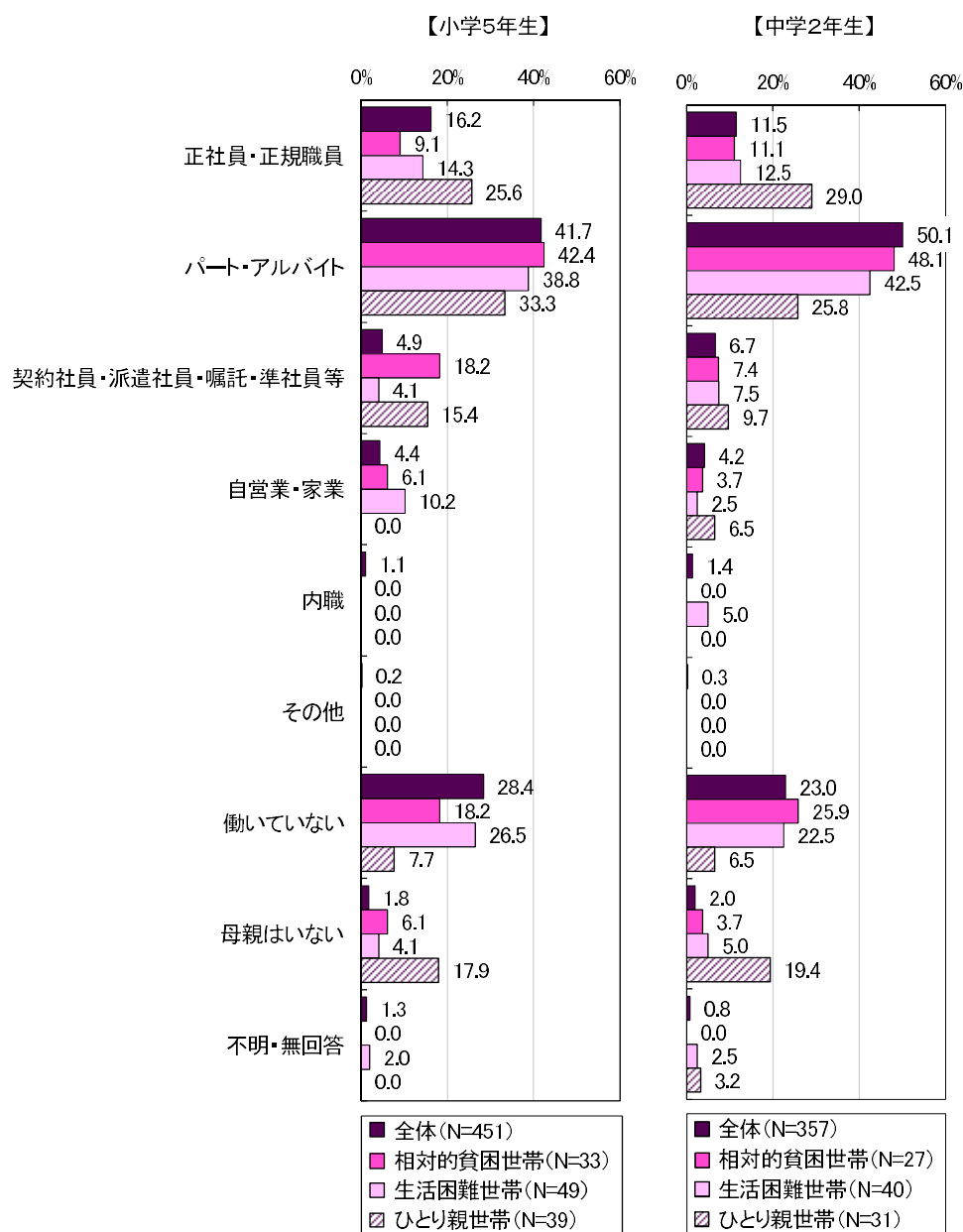


※「その他」については小学5年生、中学2年生ともに回答がありませんでした。

(5) このアンケートを持ち帰ったお子さんのご両親について、働き方をそれぞれお答えください。

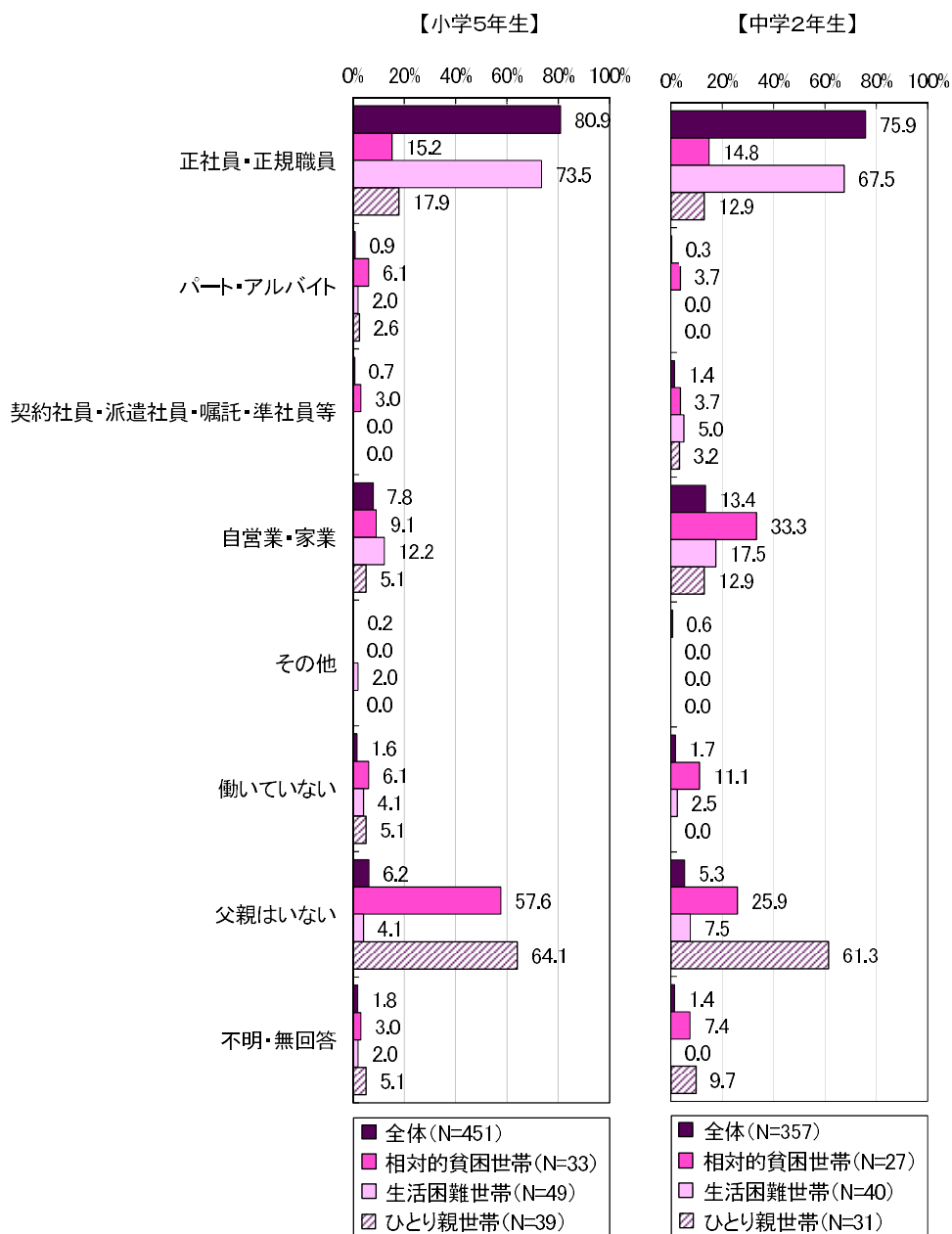
①母親の働き方

母親の働き方については、全体では「パート・アルバイト」が小学5年生で約4割、中学2年生で約5割と最も多く、次いで「働いていない」が2割台、「正社員・正規職員」が1割台で続いています。小学5年生の相対的貧困世帯では、「働いていない」と「正社員・正規職員」の割合がやや低く、一方で「契約社員・派遣社員等」の割合が高くなっています。中学2年生については相対的貧困世帯・生活困難世帯ともに、働き方に明確な差は見られません。ひとり親世帯については、正社員の割合が高く、「パート・アルバイト」や「働いていない」が少なくなっています。



②父親の働き方

父親の働き方については、全体では「正社員・正規職員」が約8割、次いで「自営業・家業」が1割前後となっています。相対的貧困世帯については、小学5年生では「父親はいない」が最も多く、中学2年生では「自営業・家業」が最も多くなっています。生活困難世帯についても、全体と比較するとやや「正社員・正規職員」の割合が低くなっています。ひとり親世帯については、「父親はいない」が多く、「正社員・正規職員」が少なくなっています。

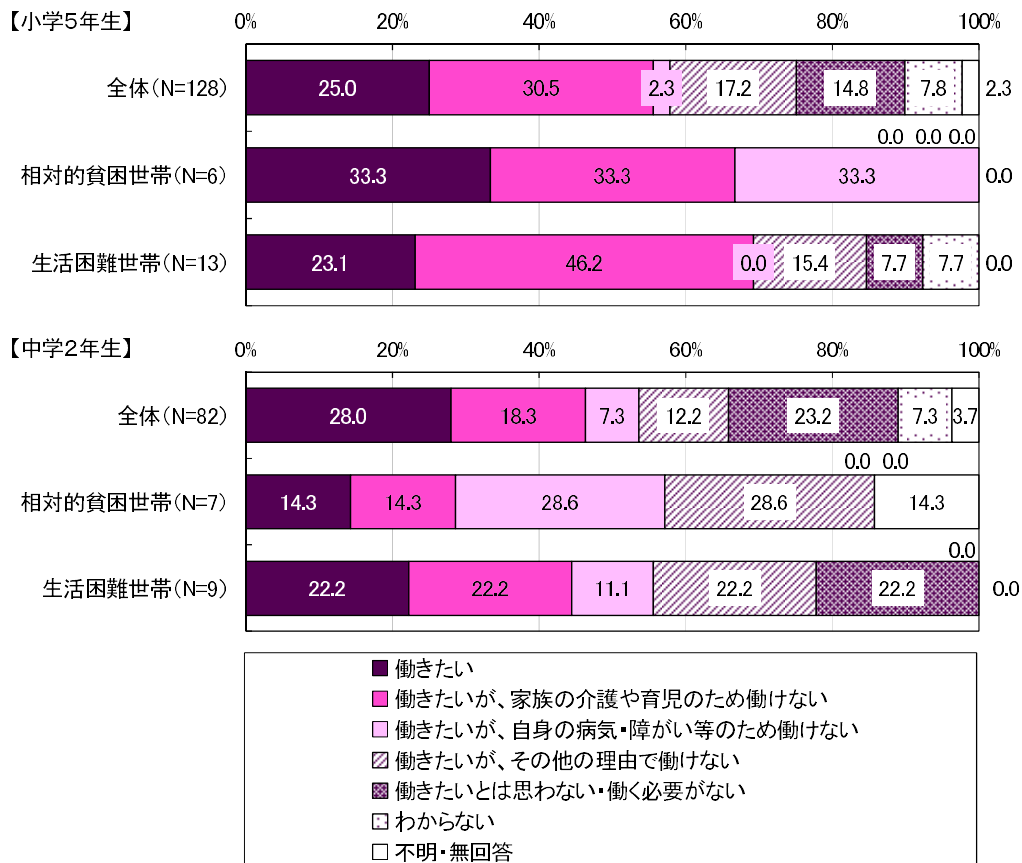


※「内職」「わからない」については小学5年生、中学2年生ともに回答がありませんでした。

(6) (5) で「働いていない」に○をつけた方 働きたいと思いますか。

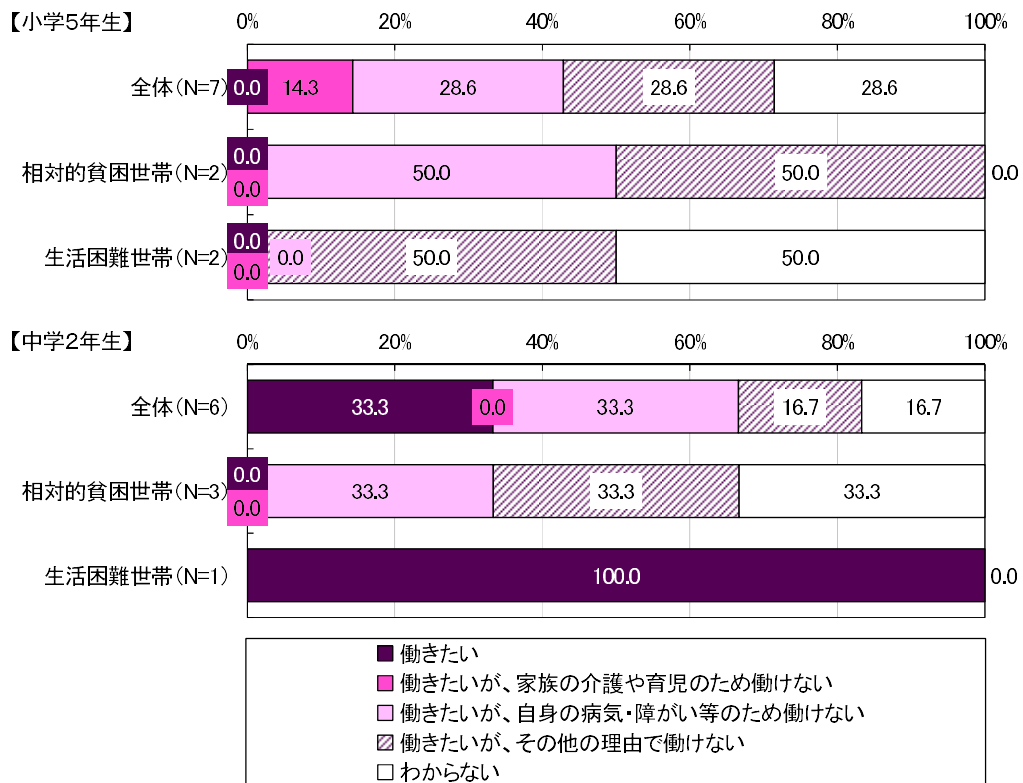
①母親

全体では、「働きたい」という回答が2割台となっています。働いていない理由としては、小学5年生では「働きたいが、家族の介護や育児のため働けない」が最も多く、中学2年生では「働きたいとは思わない・働く必要がない」が最も多くなっています。何らかの理由のために働けないという回答は、全体では小学5年生で約5割、中学2年生で約4割ですが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では小学5年生、中学2年生ともに6～7割台となっています。



②父親

現在働いていない父親については、回答者数が非常に少なくなっています。

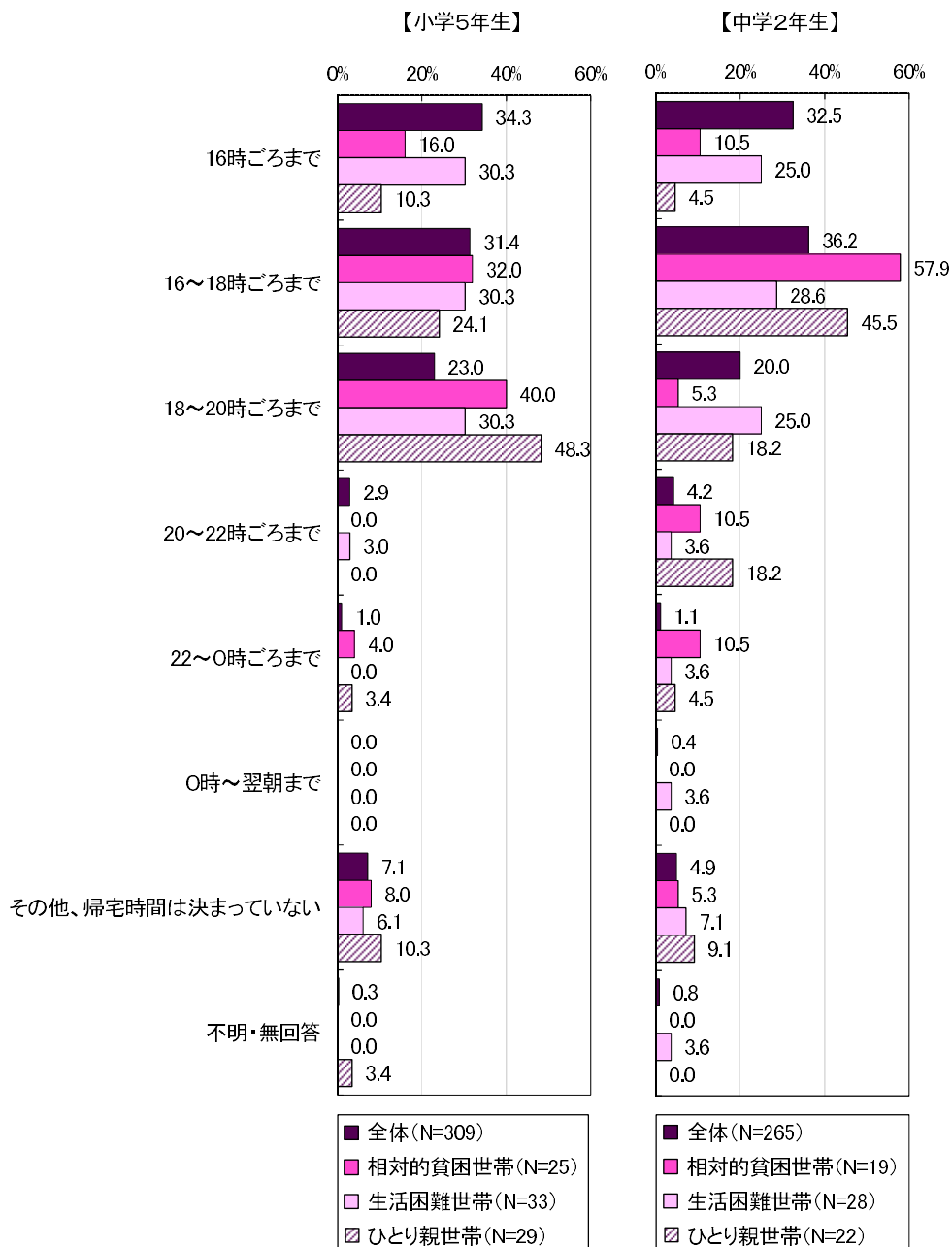


※「働きたいとは思わない・働く必要がない」については小学5年生、中学2年生ともに回答がありませんでした。「不明・無回答」もありませんでした。

(7) このアンケートを持ち帰ったお子さんの母親、父親もしくは両方が、現在働いている方 普段仕事から帰宅する時間（自営業・家業や内職の方は、仕事を終える時間で、最も多い時間帯は何時ごろですか。

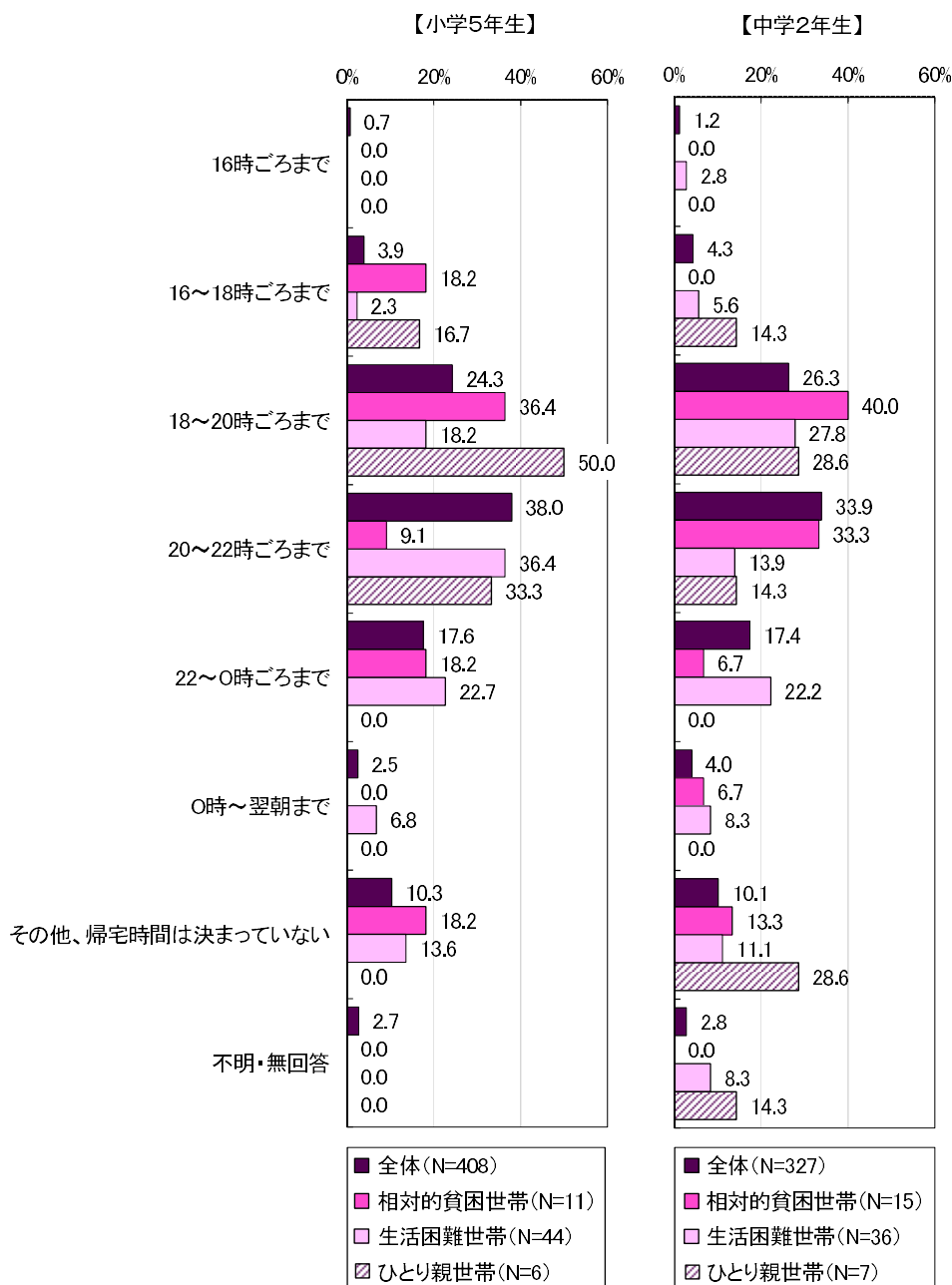
①母親

母親の帰宅時間は、全体では「16時ごろまで」と「16～18時ごろまで」がそれぞれ3割台、「18～20時ごろまで」が2割台となっています。相対的貧困世帯については、「16時ごろまで」という回答が少なく、小学5年生では「18～20時ごろまで」が多く、中学2年生では「16～18時ごろまで」と20時以降の時間帯が多くなっています。生活困難世帯については、全体と比較して遅い時間帯の回答がやや多くなっています。ひとり親世帯については、「16時ごろまで」が少なく、小学5年生では「18～20時ごろまで」、中学2年生では「20～22時ごろまで」が多くなっており、帰宅時間が比較的遅くなっています。



②父親

父親の帰宅時間は、全体では「20～22 時ごろまで」が3割台で最も多く、次いで「18～20 時ごろまで」が2割台、「22～0時ごろまで」が1割台となっています。相対的貧困世帯については、全体と比較してやや早い時間帯が多い傾向があり、「その他、帰宅時間は決まっていない」も比較的多くなっています。小学5年生のひとり親世帯では、全体と比較して帰宅時間がやや早くなっています。

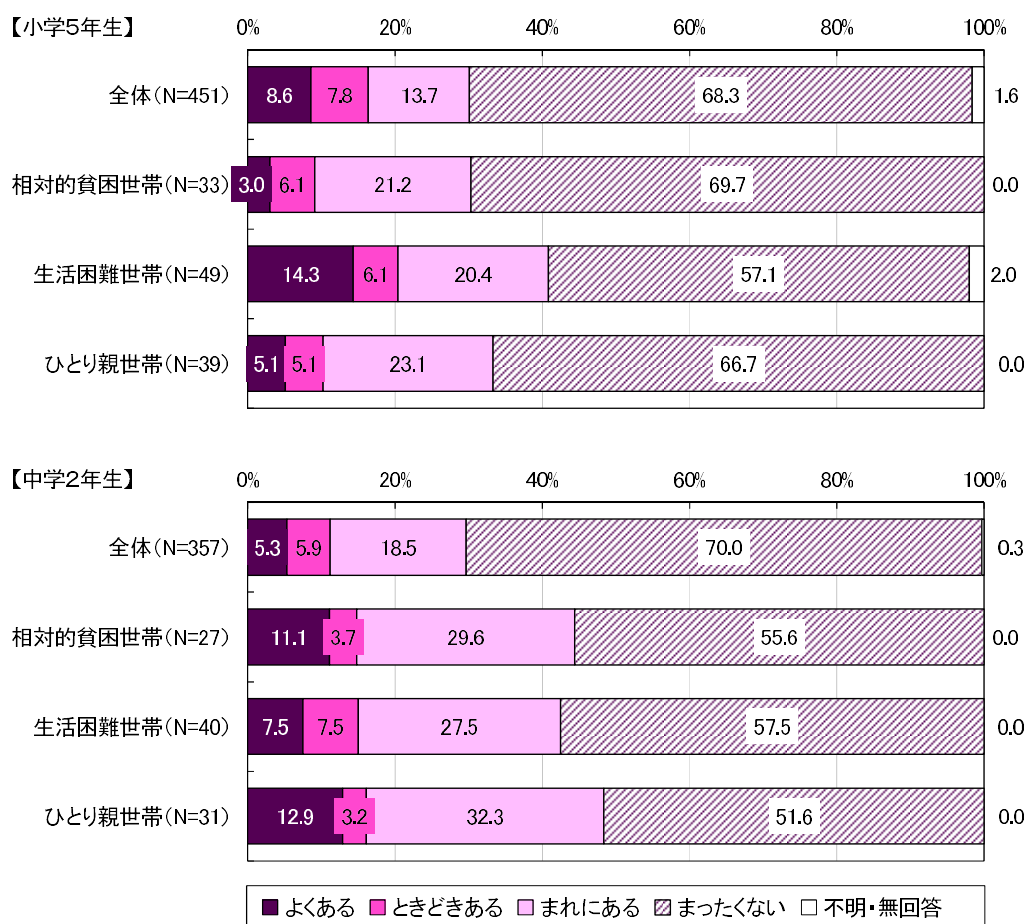


(8) あなたの家庭では、子どもが学校から帰宅してから就寝するまでの時間を、子どもだけで過ごすことがありますか。

全体では「まったくない」が約7割で、「よくある」、「ときどきある」という回答は中学2年生よりも小学5年生の方が多くなっています。

小学5年生の相対的貧困世帯では、全体と比較して「ときどき」以上あるという回答が少なくなっていますが、小学5年生の生活困難世帯と、中学2年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯については、「まったくない」が5割台で、全体と比較して「ある」という回答が多くなっています。

ひとり親世帯については、相対的貧困世帯と近い状況になっています。



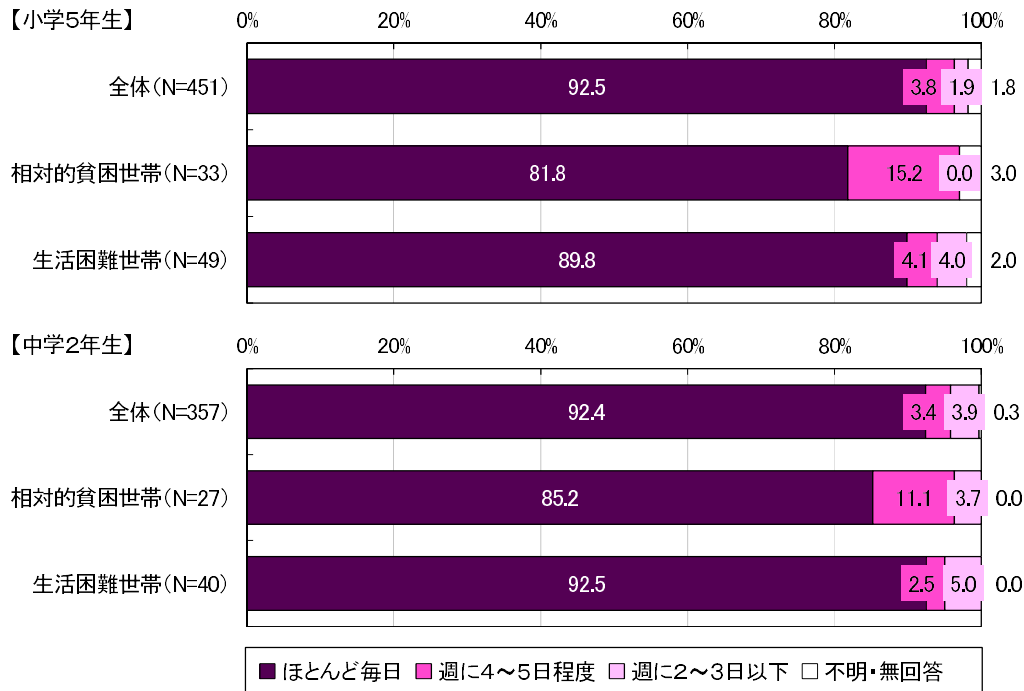
(9) 小括

- 相対的貧困世帯では、母子世帯が多いことから、生活費用の稼ぎ手が母親である割合が高く、父親である割合が低くなっています。
- 相対的貧困世帯では、両親の学歴について、全体と比較して高校卒が多く、大学卒が少ない傾向があります。
- 「父親はいない」以外の回答数を分母として、父親がいる世帯のみで割合を比較すると、小学5年生の「大学卒」は全体 53.4%に対し相対的貧困世帯 26.6%、「高校卒」は全体 16.2%に対し相対的貧困世帯 20.0%となり、中学2年生の「大学卒」は全体 50.3%に対し相対的貧困世帯 15.0%、「高校卒」は全体 22.9%に対し相対的貧困世帯 54.9%となっています。
- 相対的貧困世帯では、母親の働き方については全体と比較して大きな違いはありませんが、父親の働き方については、「父親がいない」が多く、「正社員・正規職員」が少なくなっています。母親が平均的な収入しか得られない一方で、父親の収入をあてにできない場合に、相対的貧困世帯となる確率が高まると考えられ、貧困の背景に男女の就労状況の格差があることがうかがえます。
- 相対的貧困世帯・生活困難世帯では、働きたいが何らかの理由で働けないと感じている母親が多いことが示されています。働けない理由があるということは、単なる就労支援では十分とは言えず、保護者の状況に応じた就労や、就労以外の支援の方策が求められていると考えられます。
- 中学2年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯及びひとり親世帯では、子どもが学校から帰宅して就寝するまでの時間を、子どもだけで過ごすことがやや多くなっています。
- ひとり親世帯では、母親については帰宅時刻が遅い傾向があり、保護者が帰宅するまでの間を子どもだけで過ごしている世帯が多いと考えられます。父親については、回答者数が少ないものの、小学5年生では全体と比較して帰宅時刻が早い傾向があり、一般的な父親と比較して、帰宅時刻を早めていることが考えられます。

3. このアンケートを持ち帰ったお子さんのことについて

(1) あなたのご家庭では、お子さんの食事をつくる（料理する）ことがどのくらいありますか。

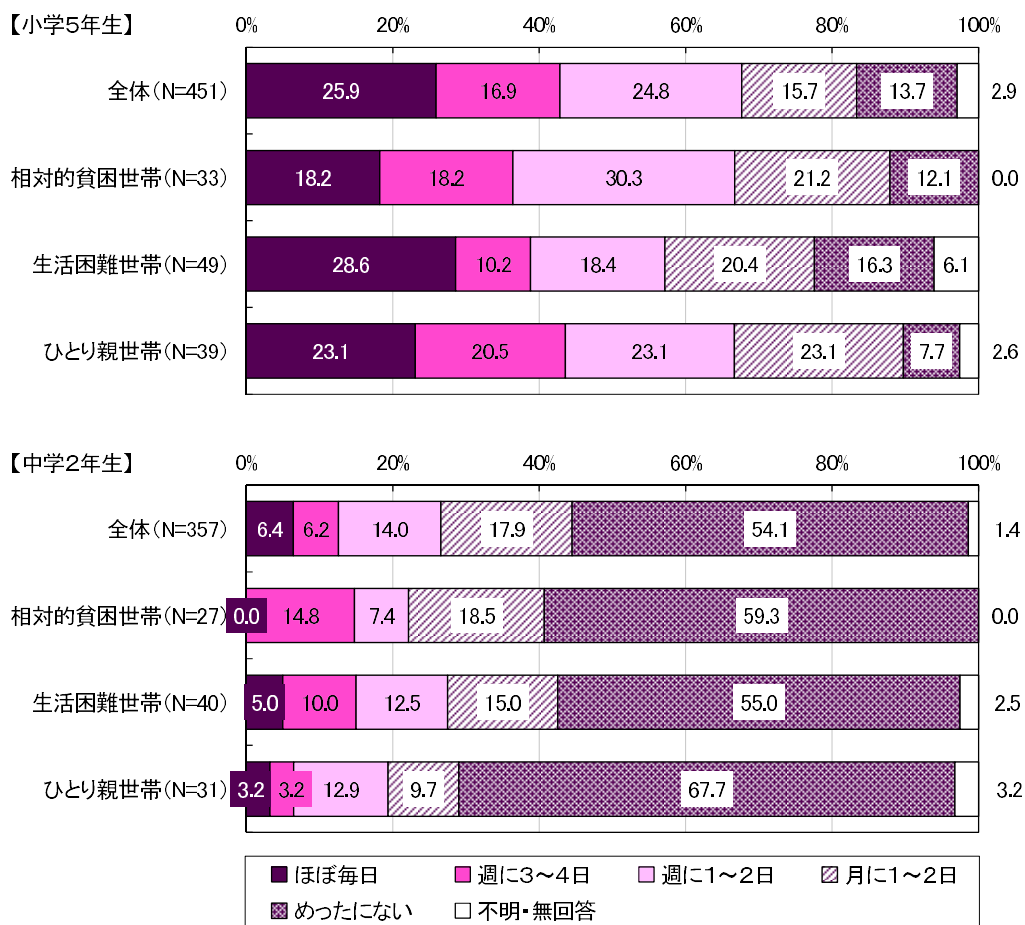
全体では「ほとんど毎日」が9割台ですが、相対的貧困世帯では8割台とやや少なくなっており、「週に4～5日程度」という回答が1割台となっています。



(2) あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。あなた以外の大人がしていることを含めてお答えください。

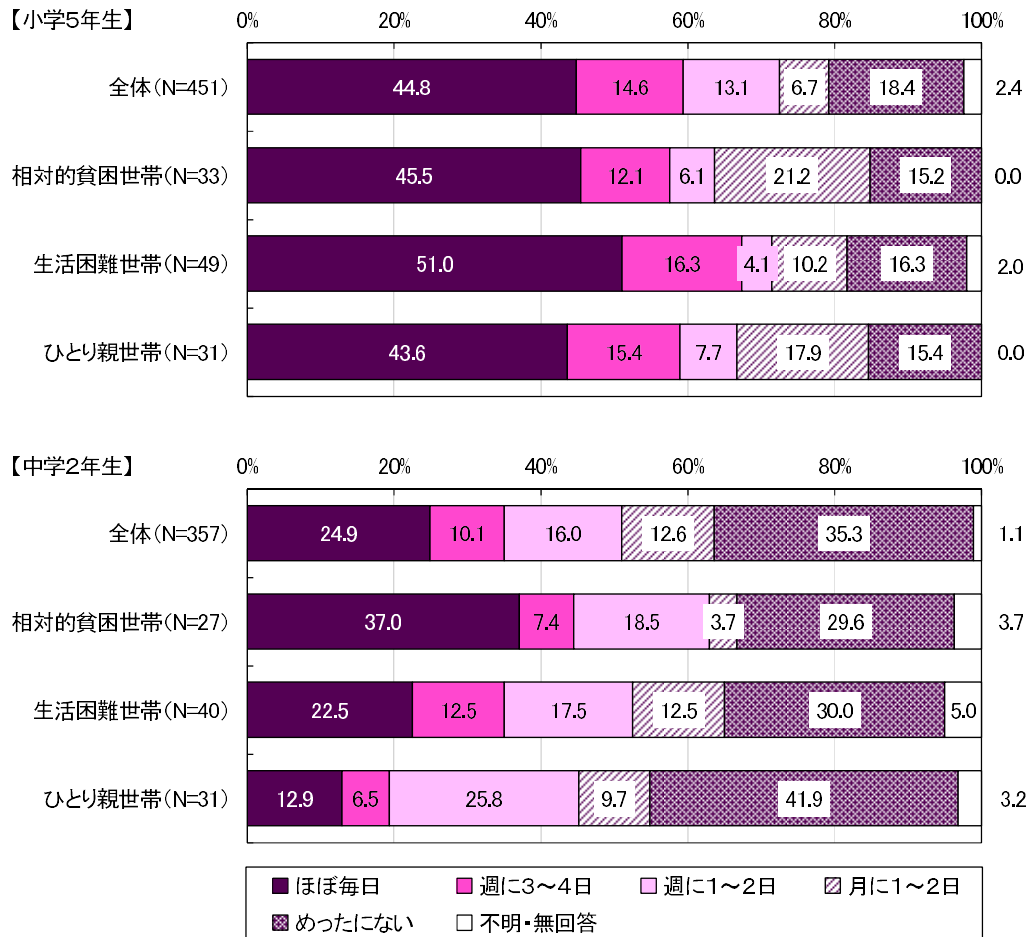
①お子さんの勉強をみる

全体では、週に3～4日以上という回答が小学5年生で4割台となっていますが、中学2年生では1割台となっており、「めったにない」が半数を超えています。相対的貧困世帯では「ほぼ毎日」という回答が全体と比較してやや少なくなっていますが、それ以外に大きな差は見られません。ひとり親世帯では、中学2年生で「めったにない」が多く、全体的に頻度が低くなっています。



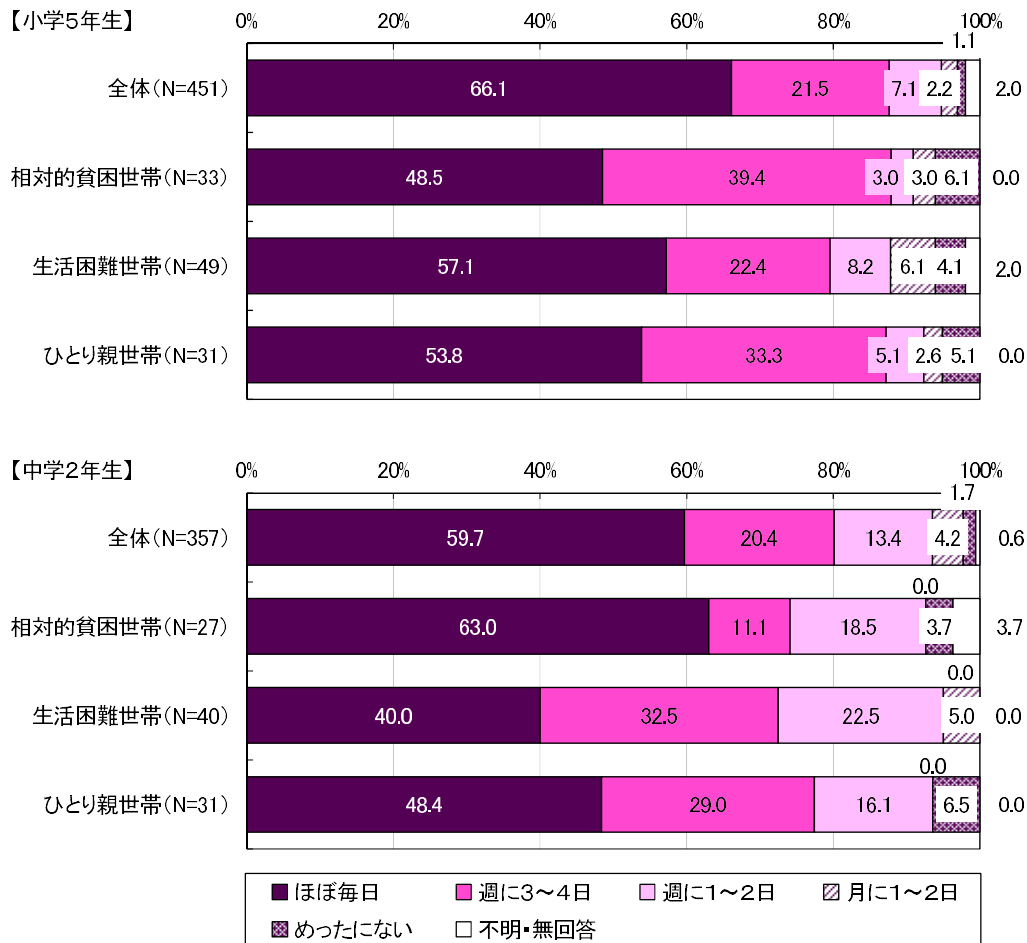
②お子さんが宿題をするように注意する

全体では、小学5年生で「ほぼ毎日」が44.8%で最も多く、中学2年生では「めったにない」が35.3%で最も多くなっています。中学2年生の相対的貧困世帯では、「ほぼ毎日」が最も多くなっていますが、それ以外に大きな差は見られません。ひとり親世帯では、中学2年生で「めったにない」が多く、全体的に頻度が低くなっています。



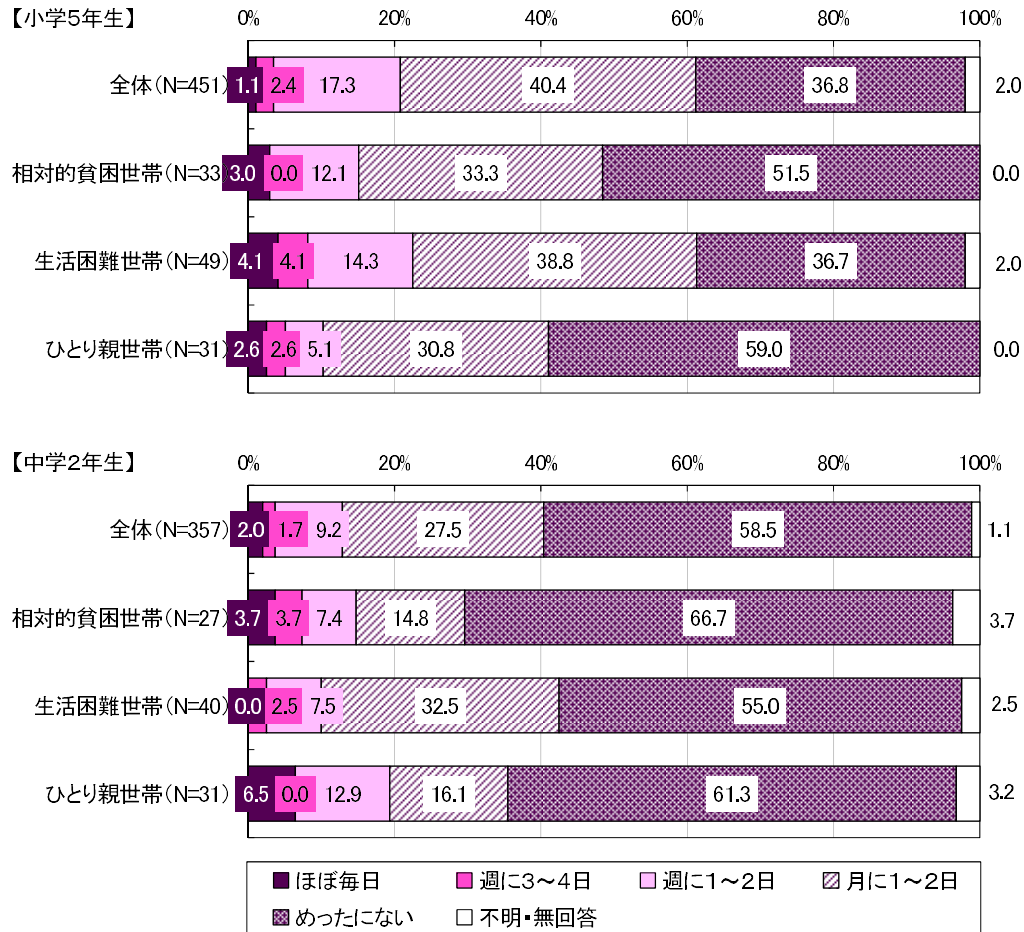
③お子さんと学校生活の話をする

全体では「ほぼ毎日」という回答が小学5年生で 66.1%、中学2年生で 59.7%と最も多くなっています。小学5年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯、中学2年生の生活困難世帯については、「ほぼ毎日」という回答がやや少なくなっています。ひとり親世帯では、小学5年生、中学2年生ともに「ほぼ毎日」という回答が少なくなっています。



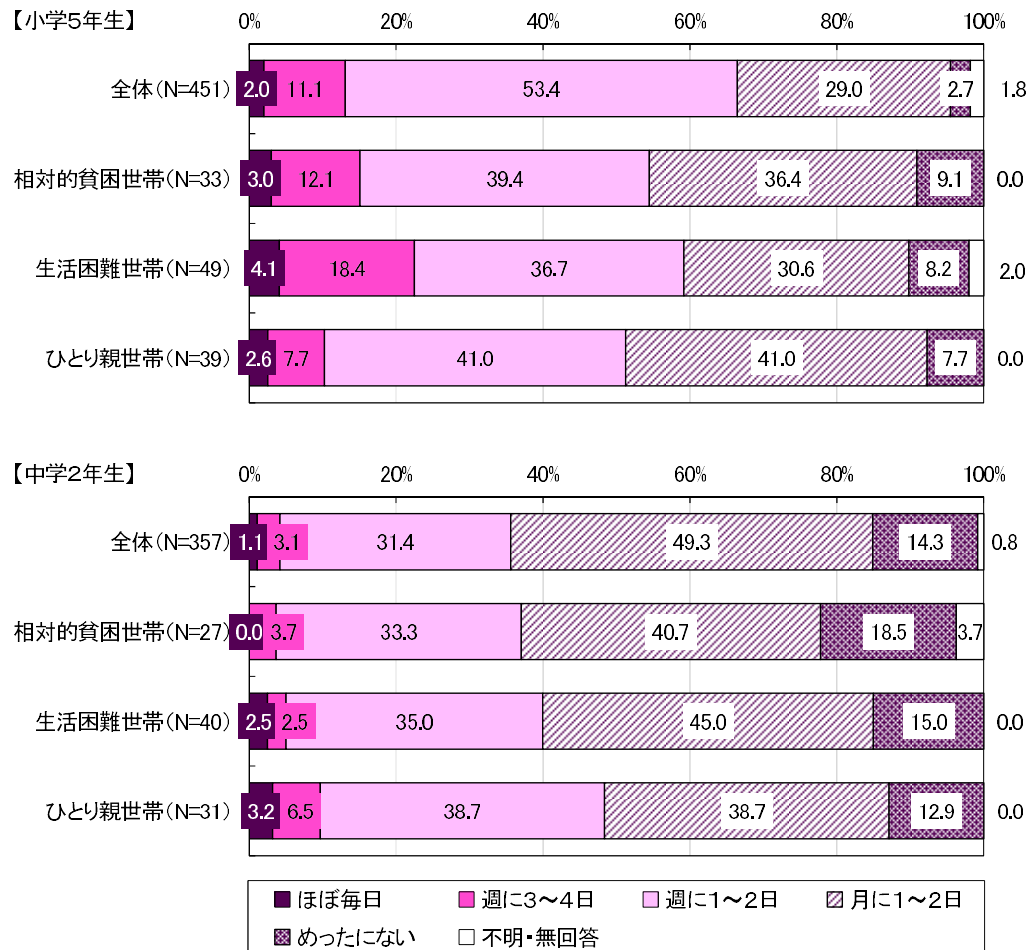
④お子さんと一緒に料理をする

相対的貧困世帯では、「めったにない」という回答が全体と比較して多くなっています。ひとり親世帯では、小学5年生で「めったにない」が多くなっています。



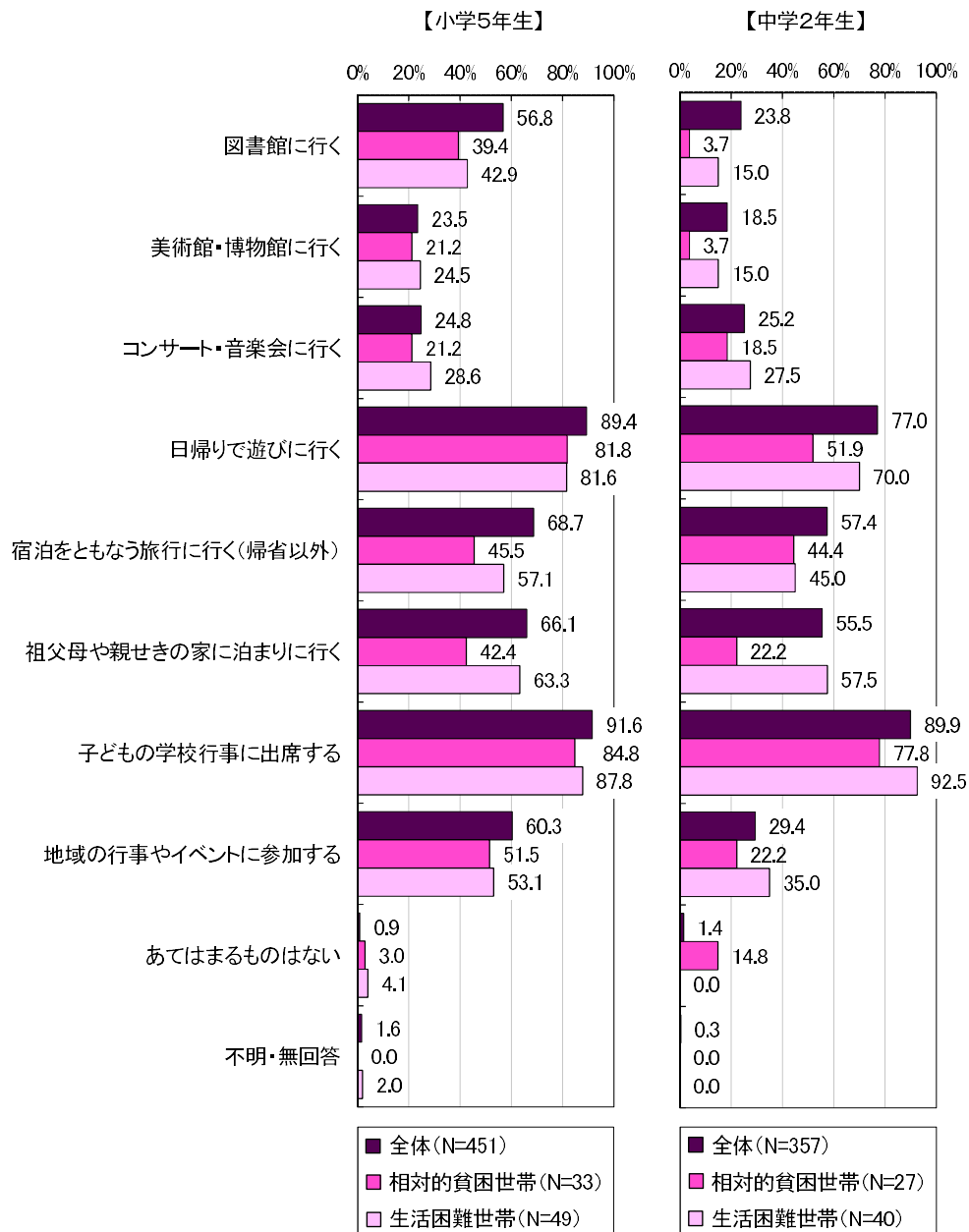
⑤お子さんと一緒に外出をする

小学5年生では、相対的貧困世帯で「週1～2日」以上の回答がやや少なくなっています。中学2年生では大きな差は見られません。ひとり親世帯では、小学5年生で全体と比較して頻度が低い傾向がありますが、中学2年生では「週1～2日」以上の回答がやや多くなっています。



(3) あなたのご家庭では、過去1年の間にお子さんと次のようなことをすることがありましたか。【複数回答】

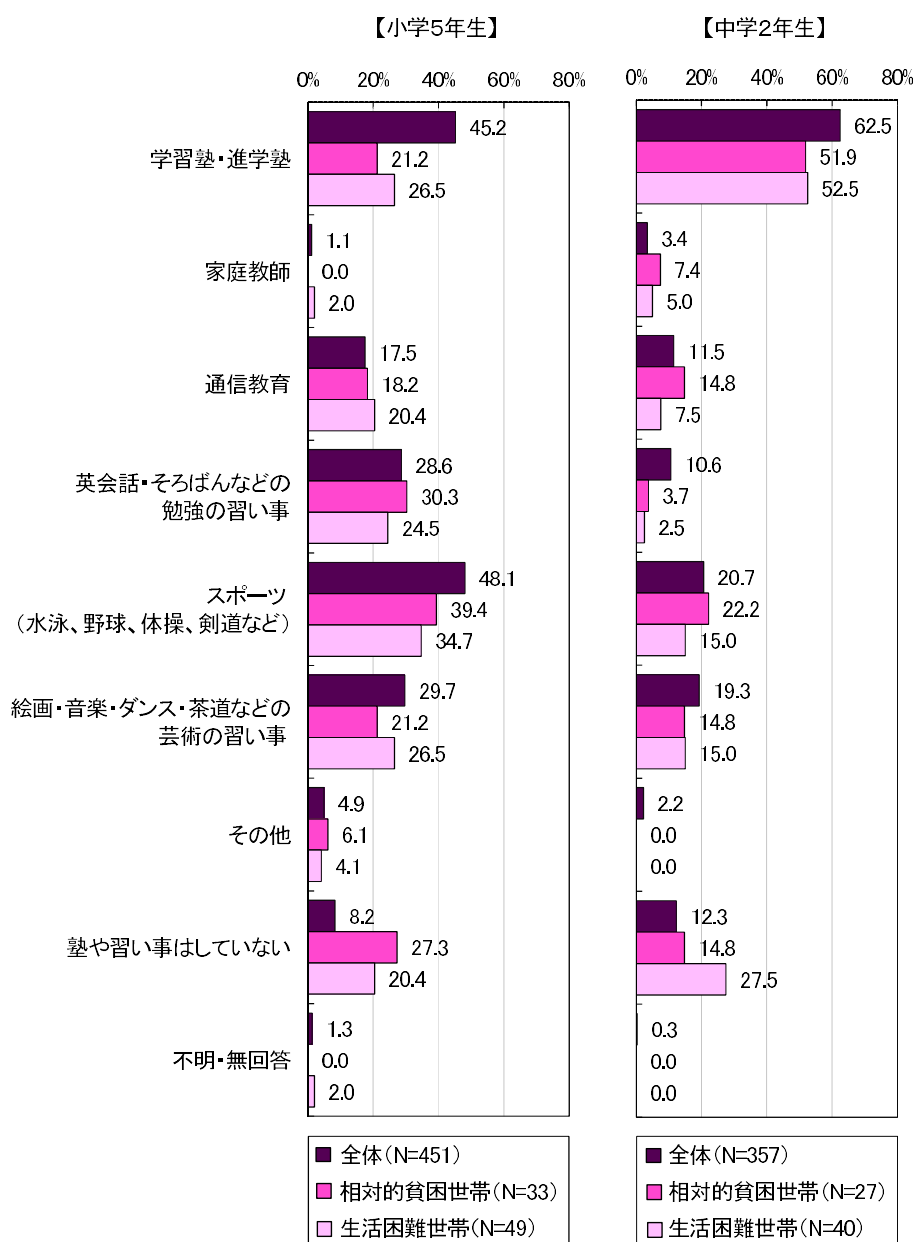
家庭における文化的な活動や行事・イベントの経験についてみると、全体と比較して相対的貧困世帯ではいずれの項目においても経験率が低くなっています。小学5年生、中学2年生ともに「図書館に行く」、「宿泊をとまなう旅行に行く」、「祖父母や親せきの家に泊まりに行く」などでは差が大きく、中学2年生の「美術館・博物館に行く」、「日帰りで遊びに行く」についても同様です。生活困難世帯では全体との差のある項目は多くありませんが、小学5年生、中学2年生の「宿泊をとまなう旅行に行く」や小学5年生の「図書館に行く」では差が見られます。



(4) お子さんは現在、塾に行ったり習い事をしたりしていますか。費用がかからないサークル活動などは含めずにお答えください。【複数回答】

小学5年生では、「塾や習い事はしていない」の割合は全体では 8.2%ですが、相対的貧困世帯では 27.3%、生活困難世帯では 20.4%と高くなっています。一方で、「学習塾・進学塾」や「スポーツ」で相対的貧困世帯・生活困難世帯の割合が低くなっています。

中学2年生では、相対的貧困世帯については、「学習塾・進学塾」が全体より少なくなっています。生活困難世帯については、「家庭教師」以外のいずれの項目においても全体より割合が低くなっており、「塾や習い事はしていない」は全体 12.3%に対し、生活困難世帯 27.5%となっています。



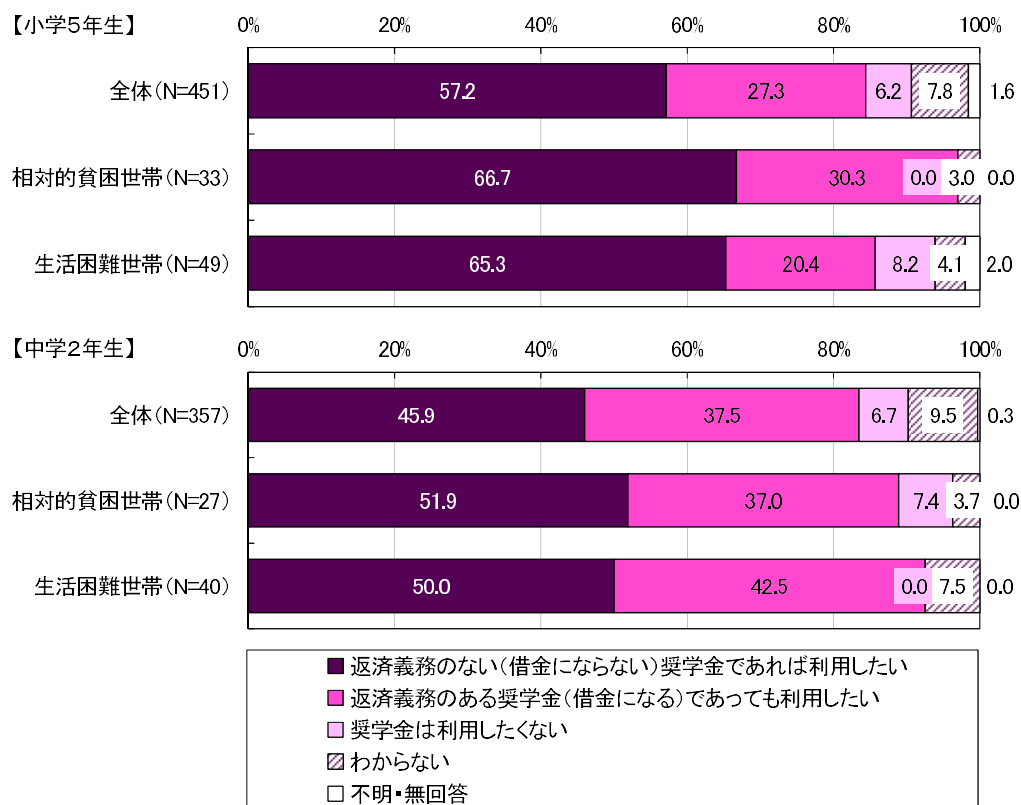
(5) お子さんには、希望として、将来どの学校まで最終学歴として卒業させたいと思いますか。

全体では「大学」という回答が8割前後で最も多くなっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯もほぼ同様の傾向ですが、中学2年生の相対的貧困世帯では「大学」という回答が全体と比べて少なく、「高等学校」、「高等専門学校・短期大学」という回答がやや多くなっています。



(6) 経済的な理由で、希望の学歴まで卒業させることが難しくなるとすれば、お子さんに奨学金を利用したいと思いますか。

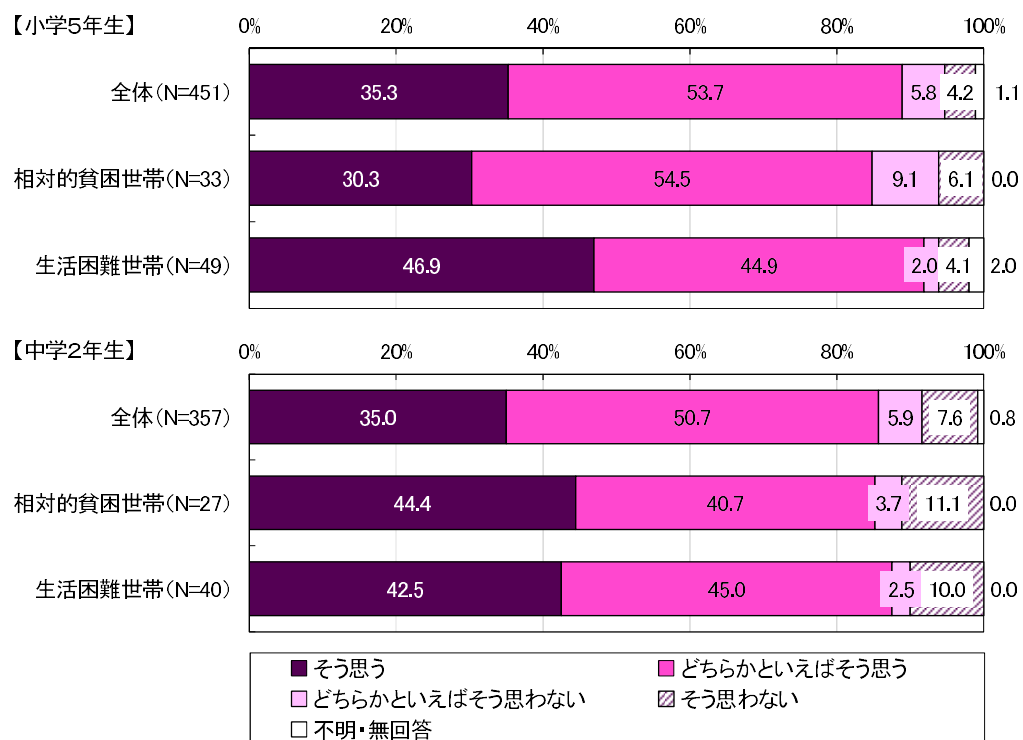
「返済義務のない（借金にならない）奨学金であれば利用したい」という回答が最も多く、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、全体と比較して割合がやや高くなっています。



(7) 次の意見についてどう思いますか。あなたの考えに一番近いものをお答えください。

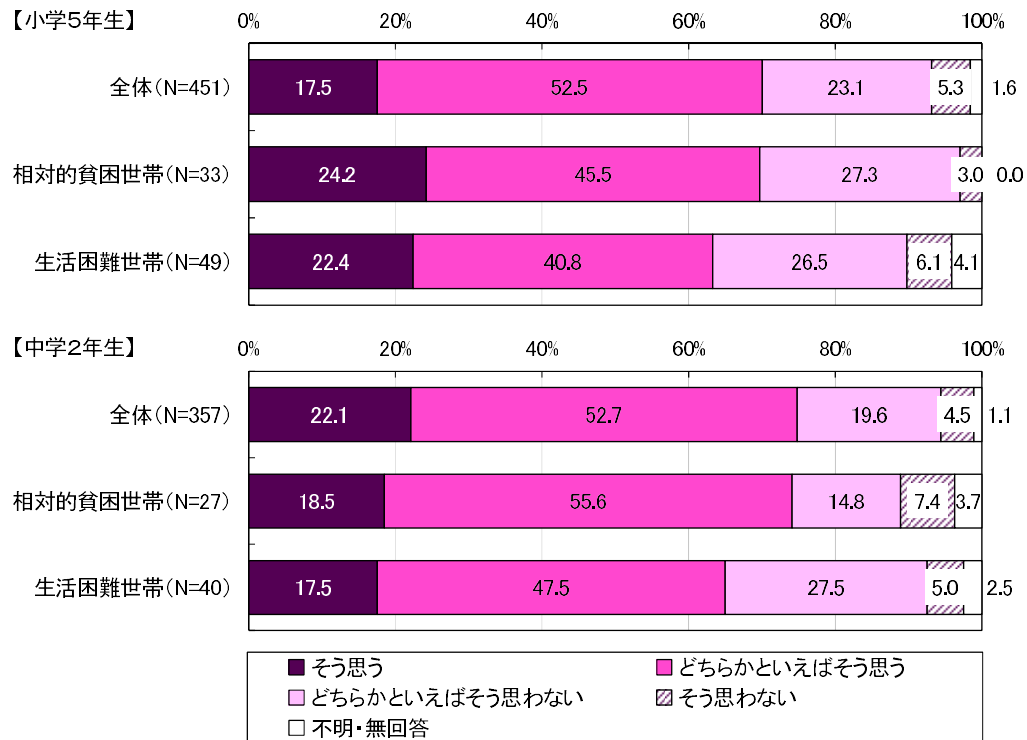
①学歴が低いと将来希望する職業につけない

全体では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」という回答が全体の9割近くを占めています。小学5年生の生活困難世帯では、「そう思う」という回答が全体と比較してやや多くなっています。



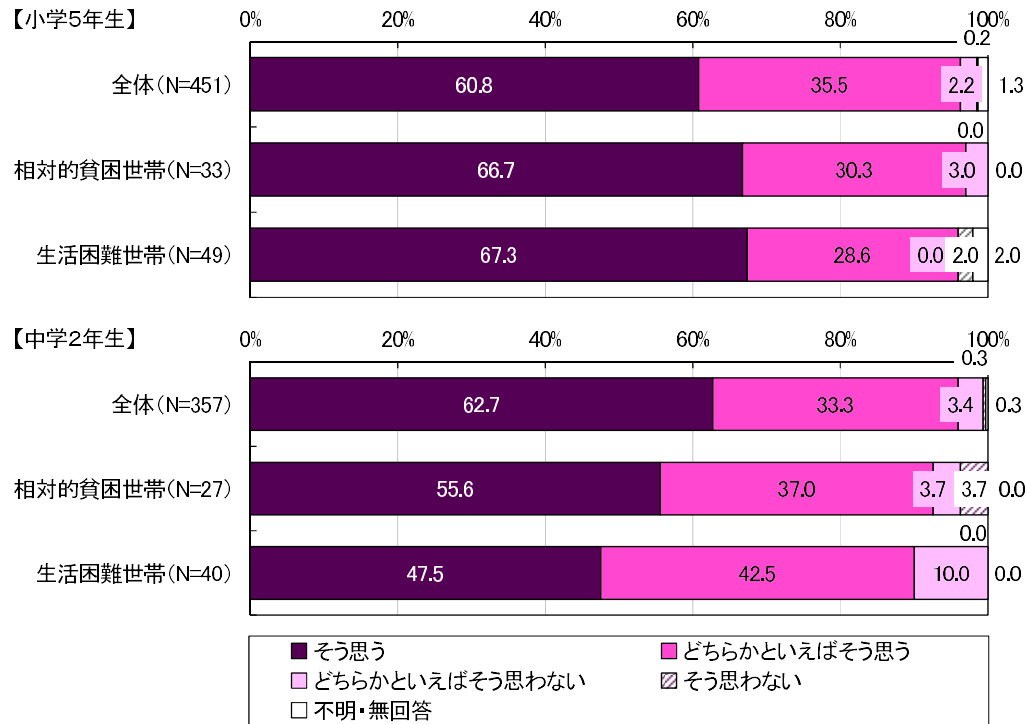
②他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい

全体では「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」という回答が全体の約7割を占めています。生活困難世帯では、肯定的な回答（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」）がやや少なくなっています。



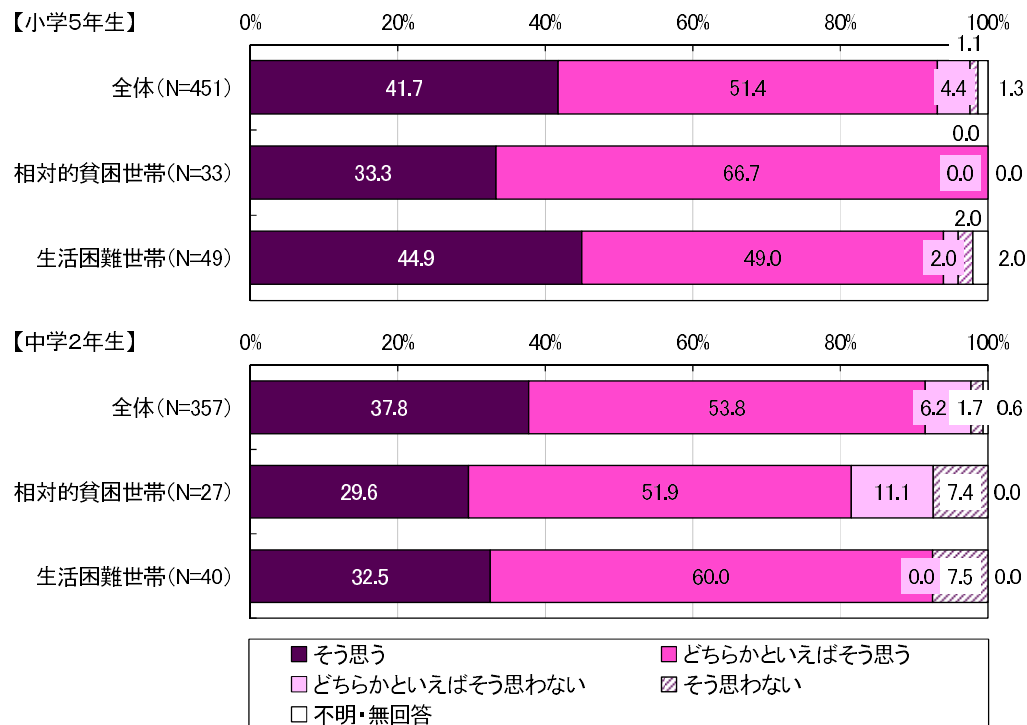
③勉強することでいろいろな考えを身につけることができる

全体では「そう思う」が約6割、「どちらかといえばそう思う」を合わせると9割以上が肯定的な回答をしています。中学2年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯では「そう思う」の割合が低くなっています。



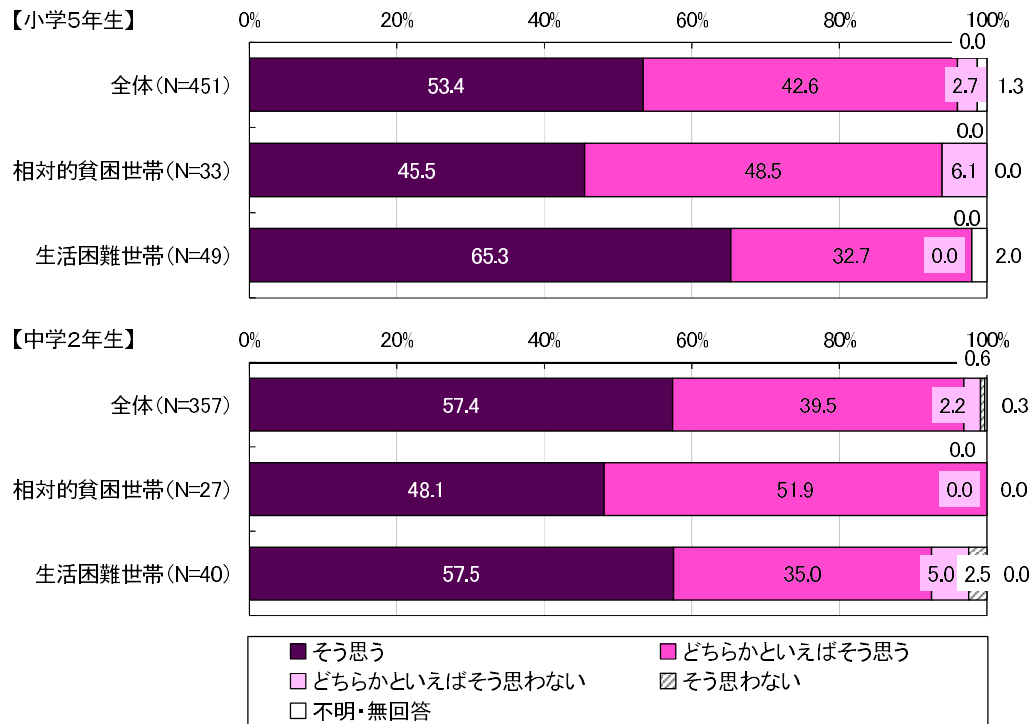
④努力すれば夢や希望は実現する

全体では約4割が「そう思う」と回答しており、「どちらかといえばそう思う」を合わせると約9割が肯定的な回答をしています。中学2年生の相対的貧困世帯では、肯定的な回答が約8割、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」が約2割となっており、全体と比較すると否定的な回答がやや多くなっています。



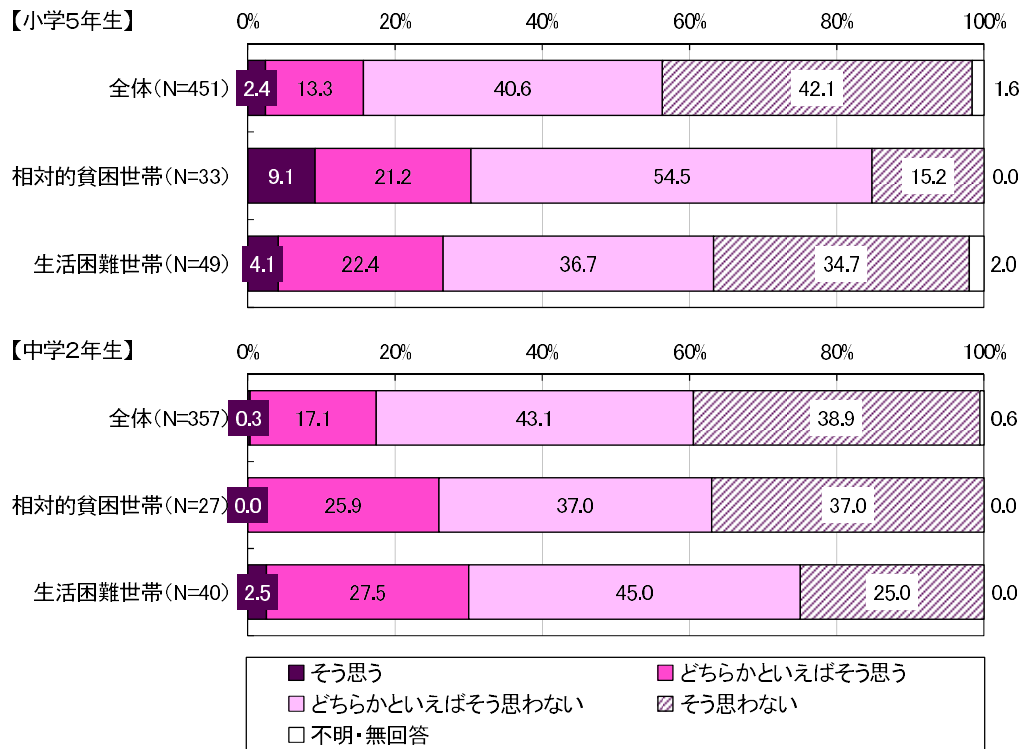
⑤子どもには一生懸命勉強してほしい

全体では「そう思う」という回答が5割台、「どちらかといえばそう思う」を合わせると9割以上が肯定的な回答をしています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても大きな差は見られません。



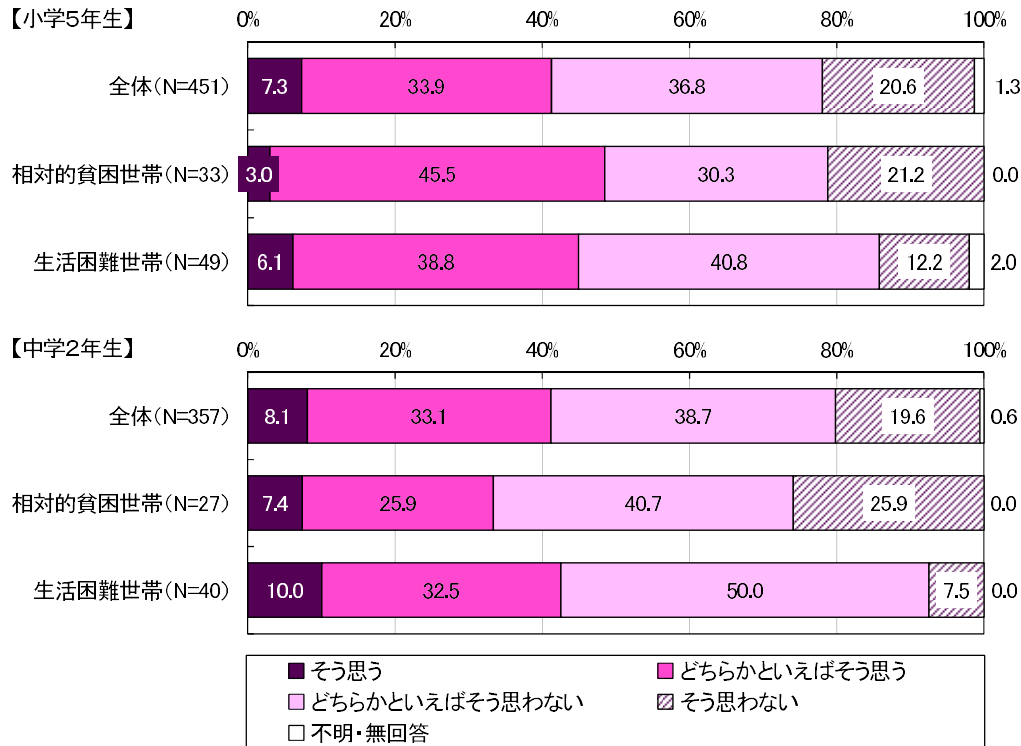
⑥子どもには少しでも早く働いてほしい

全体では「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」という肯定的な回答が1割台にとどまっていますが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では2～3割となっており、子どもに早く働いてほしいと考える保護者がやや多いことが示されています。



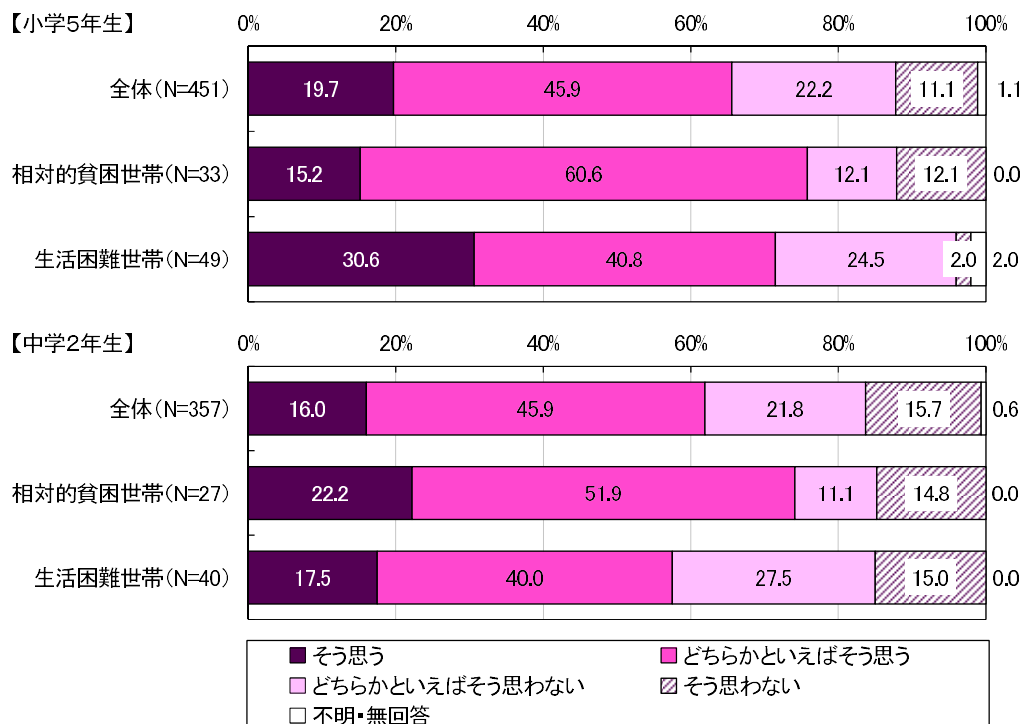
⑦子どもには早く親元から独立してほしい

全体では約4割が肯定的に回答しています。中学2年生の生活困難世帯では、「そう思わない」という回答が全体と比較して少なくなっています。



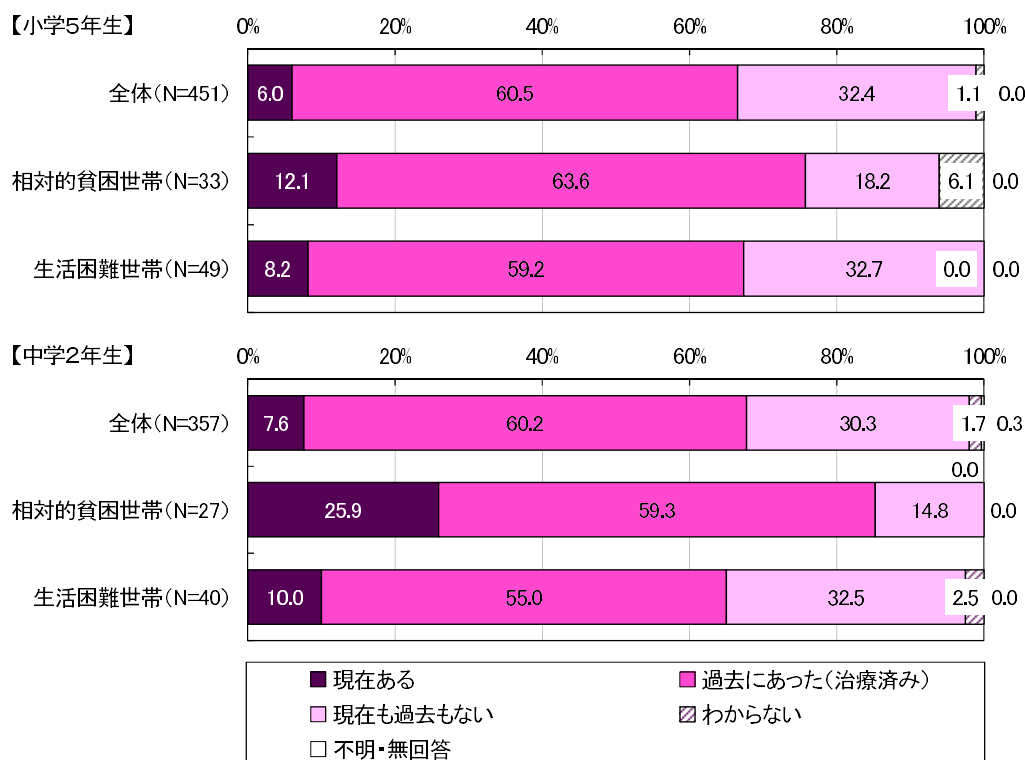
⑧子どもには家事やきょうだいの世話をしてほしい

全体では肯定的な回答は6割台ですが、相対的貧困世帯では7割台とやや多くなっています。



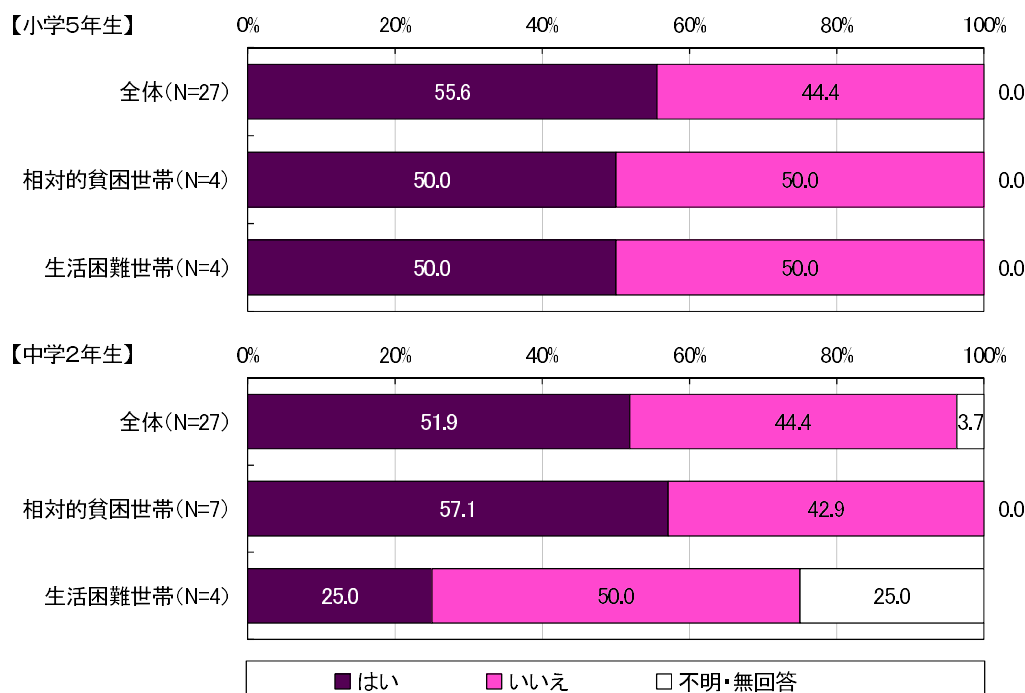
（８）お子さんには現在、むし歯がありますか。または過去にむし歯がありましたか。

「現在ある」という回答は、相対的貧困世帯で多くなっており、特に中学２年生では、全体 7.6% に対し相対的貧困世帯 25.9% となっています。



（９）（８）で「現在ある」に○をつけた方 現在、むし歯を治療中ですか。

約半数が「はい」と回答しています。相対的貧困世帯・生活困難世帯については回答者数が少ないため何らかの傾向を見いだせるものではありません。



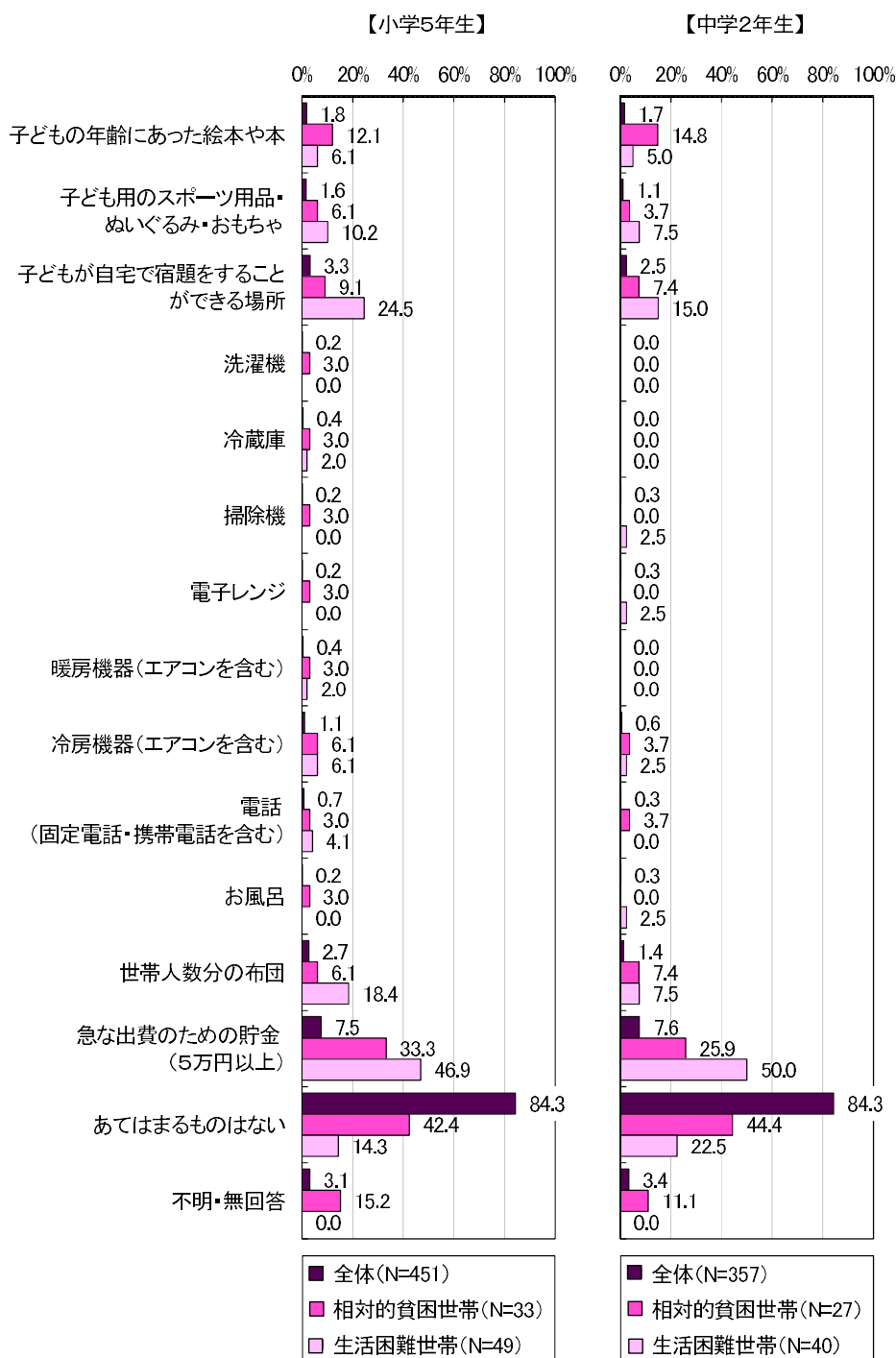
(10) 小括

- 子どもの勉強をみたり、学校生活の話をしたりするなど、家庭における子どもへの教育的な働きかけについては、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、全体との大きな差は見られません。ひとり親世帯では、全体的に子どもへの教育的な働きかけの頻度が低い傾向があり、保護者が子どもとかかわる時間を十分に取れていないことがうかがえます。
- 家庭における文化的な活動や行事・イベントの経験については、全体と比較して相対的貧困世帯ではいずれの項目においても経験率が低くなっています。経験率が低い活動には、経済的な負担をとまなうものだけではなく、「図書館に行く」、「祖父母や親せきの家に泊まりに行く」などのように、家庭の教育・文化的な意識の低さや人間関係の乏しさを背景にしていると考えられるものもあります。
- 費用負担をとまなう塾や習い事については、小学5年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯で、塾やスポーツの割合が低く、中学2年生の塾についても同様です。逆に、「塾や習い事はしていない」という割合は、小学5年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯、中学2年生の生活困難世帯で高くなっています。
- 子どもに希望する学歴については、相対的貧困世帯で大学卒の割合がやや低くなっていますが、大きな差は見られません。
- 教育や子育てに関する保護者の意識については、相対的貧困世帯・生活困難世帯において大きな差は見られません。
- 相対的貧困世帯では、子どもにむし歯がある割合が高くなっています。子どもに十分なケアを与えられていない世帯が多いことがうかがえます。

4. 暮らしや経済の状況について

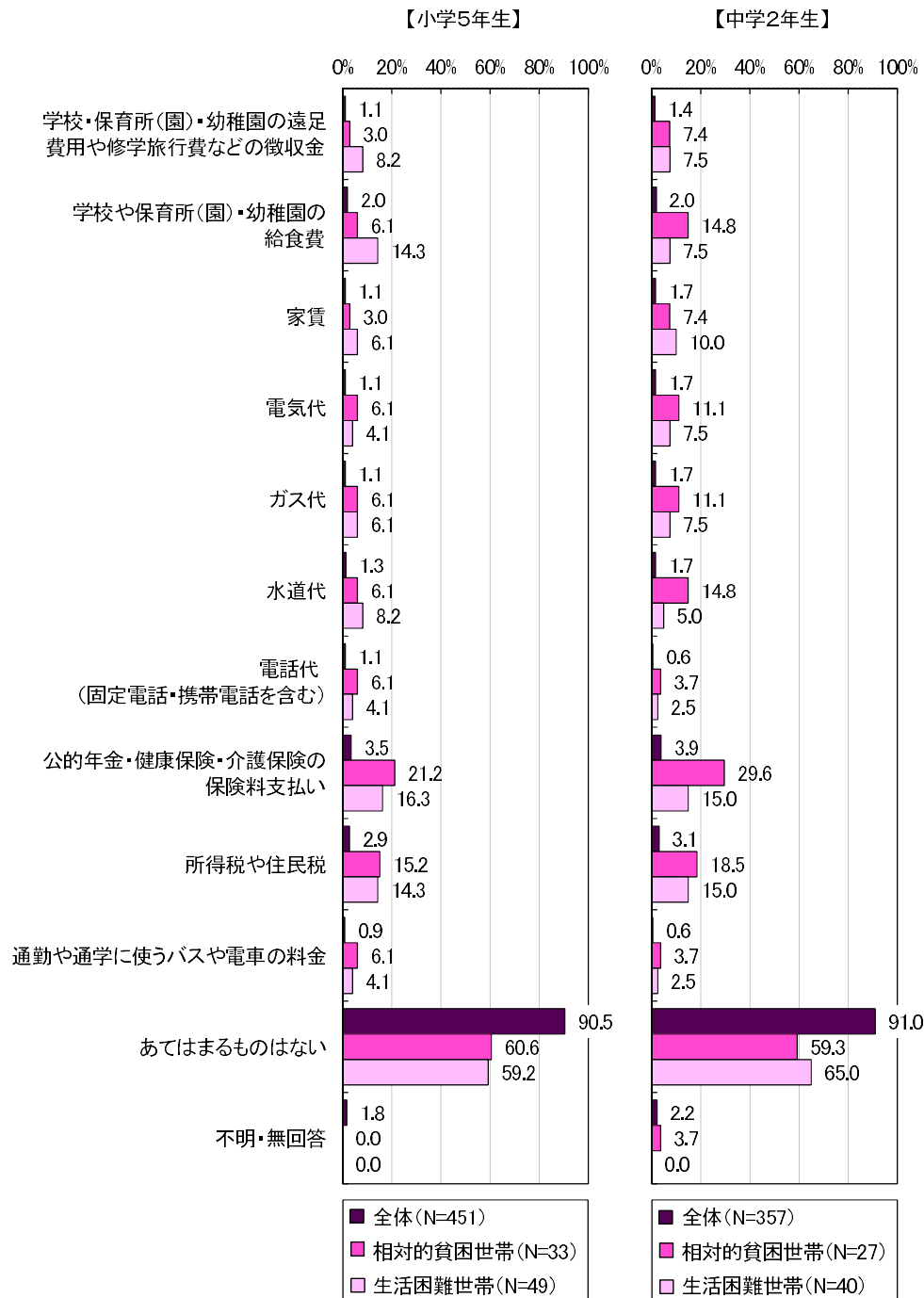
(1) 次のもののうち、経済的理由（お金がなくて買えない、家が狭くて置けないなど）のためにあなたの家庭にないものはありますか。【複数回答】

全体では、「あてはまるものはない」が8割を超えています。家庭にないものについては、「急な出費のための貯金（5万円以上）」が最も多く回答されており、次いで「子どもが自宅で宿題をすることができる場所」、「子どもの年齢にあった絵本や本」が多くなっています。生活困難世帯・相対的貧困世帯では、全体と比較して家庭にないものが多く回答されており、「あてはまるものはない」は少なくなっています。



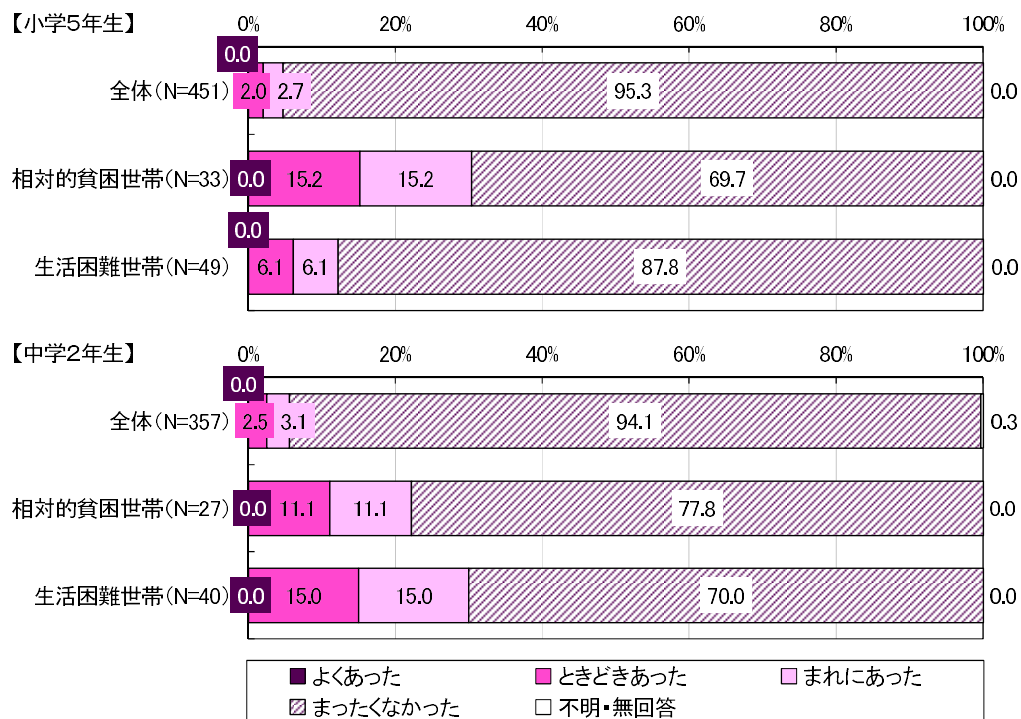
(2) 次の費用のうち、過去1年の間に、経済的理由のために支払いができなかったことはありますか。【複数回答】

全体では、「あてはまるものはない」が9割を超えています。支払いができなかったものについては、「公的年金・保険料支払い」、「所得税や住民税」、「学校や保育所（園）・幼稚園の給食費」が比較的多く回答されています。生活困難世帯・相対的貧困世帯では、全体と比較して支払いができなかった項目について多く回答されており、「あてはまるものはない」という回答は少なくなっています。



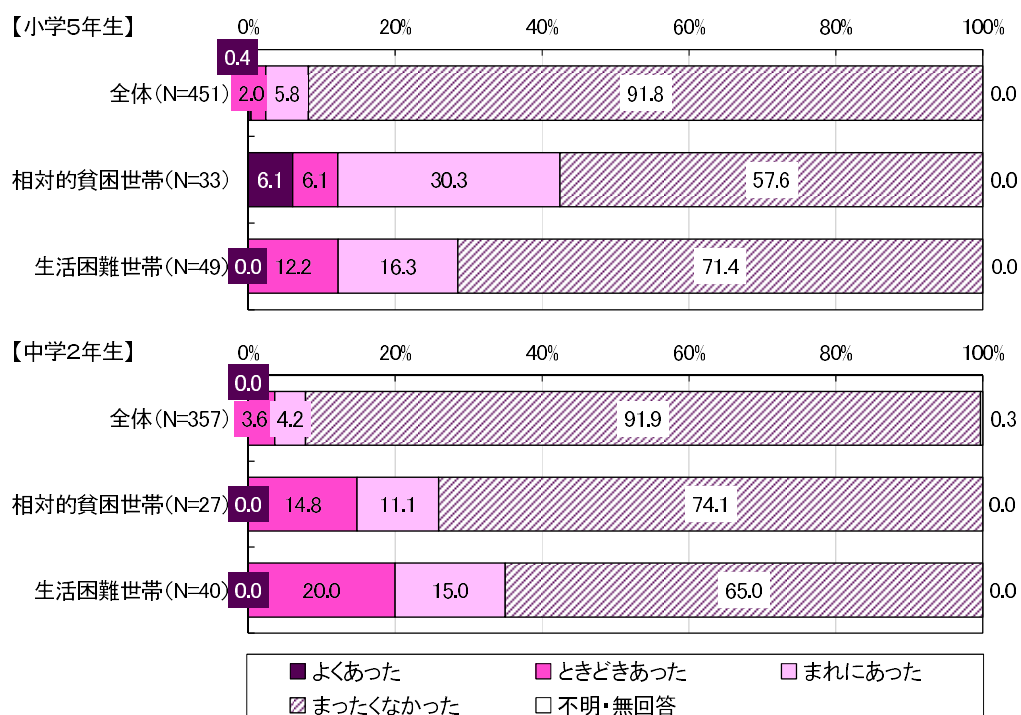
(3) あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的理由のために家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。

全体では9割台が「まったくなかった」と回答しています。相対的貧困世帯・生活困難世帯では「ときどきあった」、「まれにあった」という回答が多くなっています。



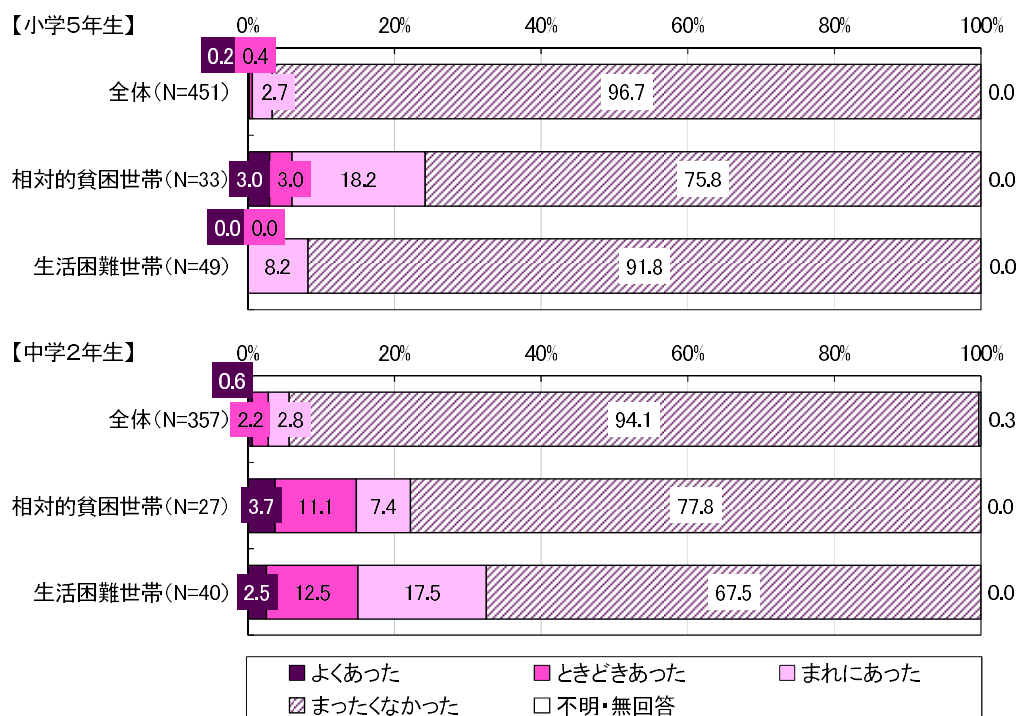
(4) あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的理由のために家族が必要とする衣料が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。

全体では9割台が「まったくなかった」と回答しています。相対的貧困世帯・生活困難世帯では「あった」という回答が多くなっています。



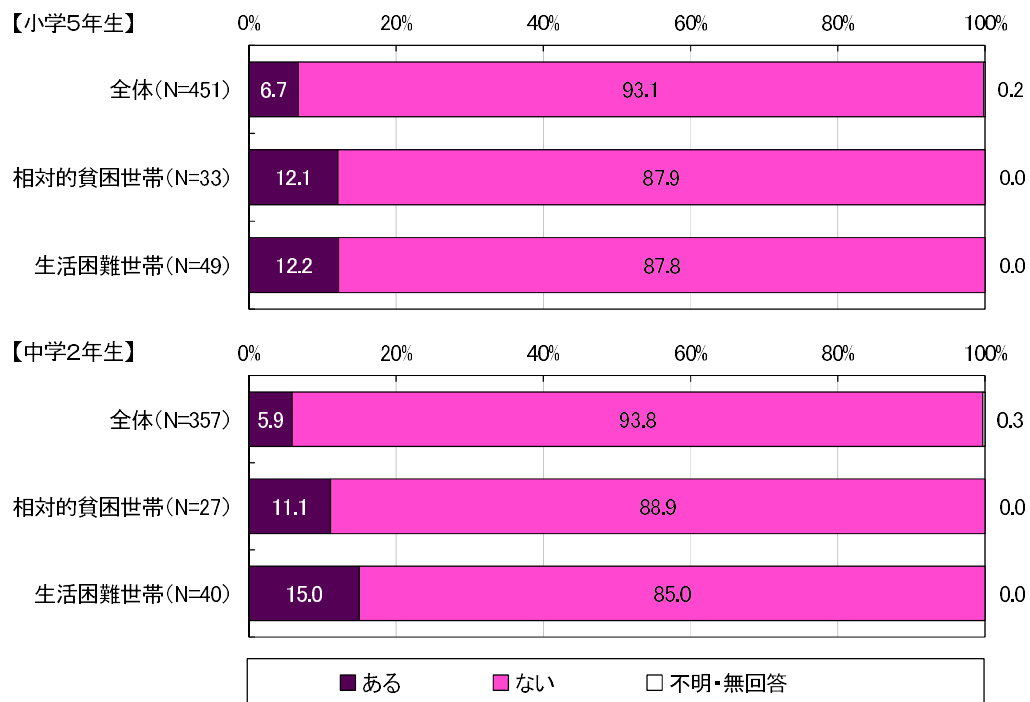
(5) あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的理由のために子どもが必要とする文具や教材（学校指定の制服や靴、辞書や習字道具、部活動の道具等も含む）が買えないことがありましたか。

全体では、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」を合計しても5%前後ですが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では「あった」という回答の割合が高くなっています。



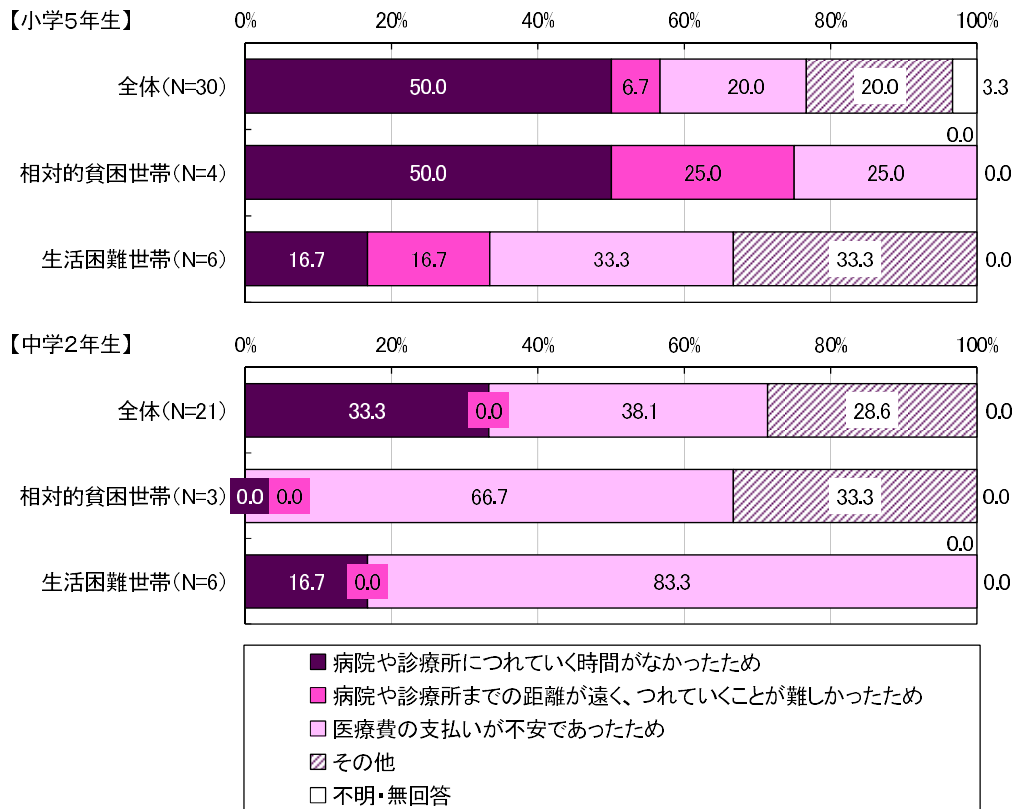
(6) あなたの世帯では、過去1年の間に、子どもについて病気や怪我の治療のために病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのに、実際には受診しなかったことがありますか。

全体では6%前後が「ある」と回答しています。相対的貧困世帯・生活困難世帯では「ある」の割合がやや高くなっています。



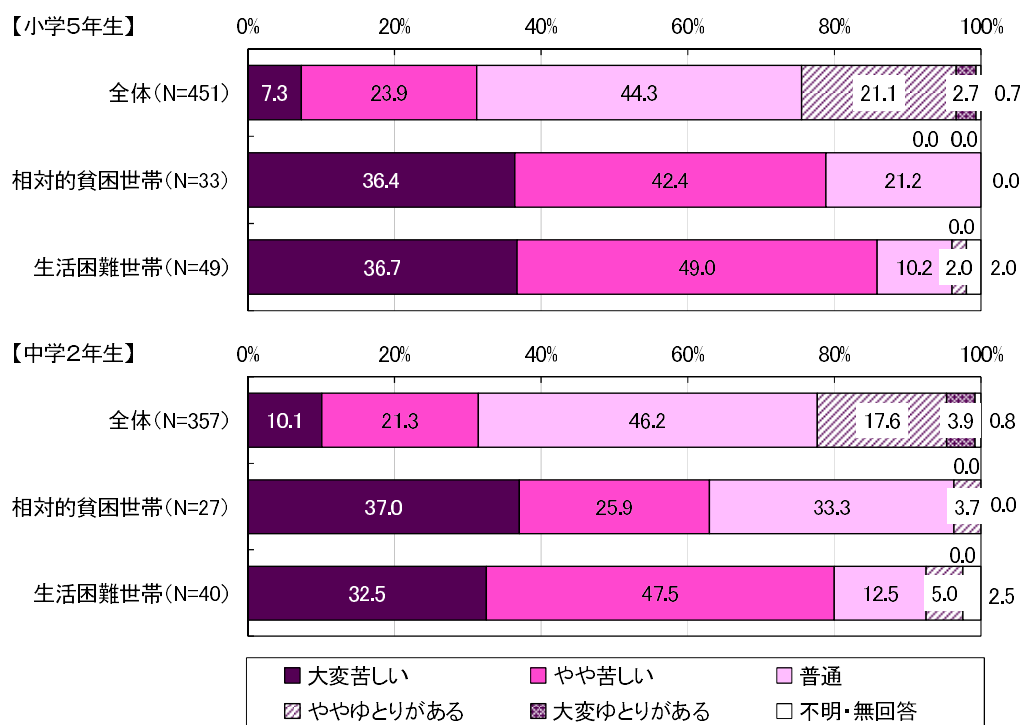
(7) (6)で「ある」に○をつけた方 病院や診療所を受診しなかった理由は何ですか。

子どもが病院や診療所を受診したほうがよいと思ったのにしなかった理由については、小学5年生では「病院や診療所につれていく時間がなかったため」が多く、中学2年生では「医療費の支払いが不安であったため」が多くなっています。



(8) あなたは、現在の暮らしを総合的にみて、どう感じていますか。

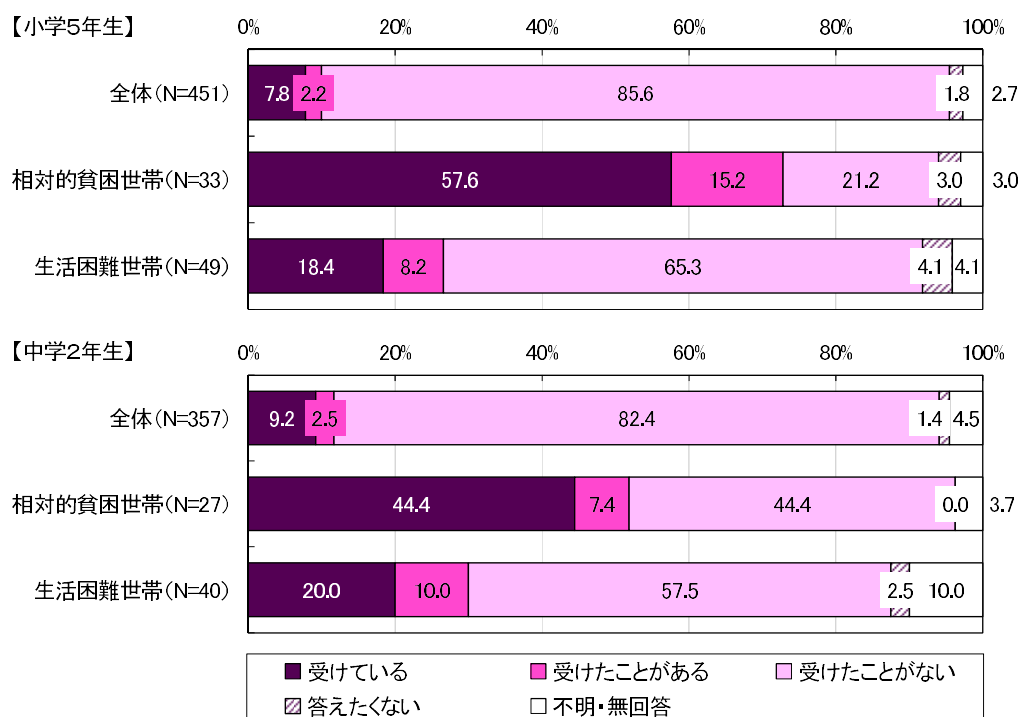
全体では「大変苦しい」または「やや苦しい」という回答が約3割、「普通」が4割台、「ややゆとりがある」または「大変ゆとりがある」が約2割となっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯では「大変苦しい」が3割台、「やや苦しい」を合わせると6～8割が苦しいと回答しています。小学5年生、中学2年生ともに、相対的貧困世帯より生活困難世帯のほうが「苦しい」という回答がやや多くなっています。



（９）過去１年の間に、次の手当てや援助などを受けたことがありますか。

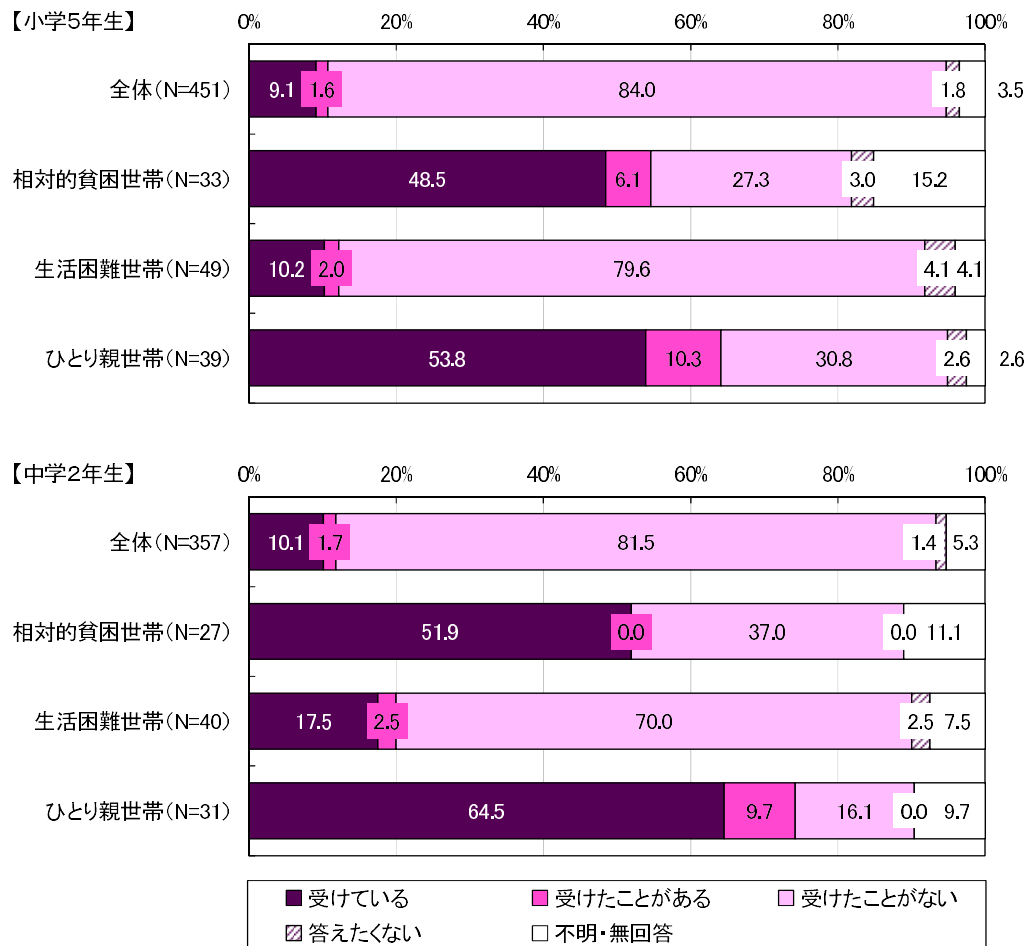
①就学援助

「受けている」という回答は小学５年生で 7.8%、中学２年生で 9.2%となっています。相対的貧困世帯では５割前後、生活困難世帯では約２割が「受けている」と回答しています。一方、相対的貧困世帯においても、小学５年生で 21.2%、中学２年生で 44.4%が「受けたことがない」と回答しています。



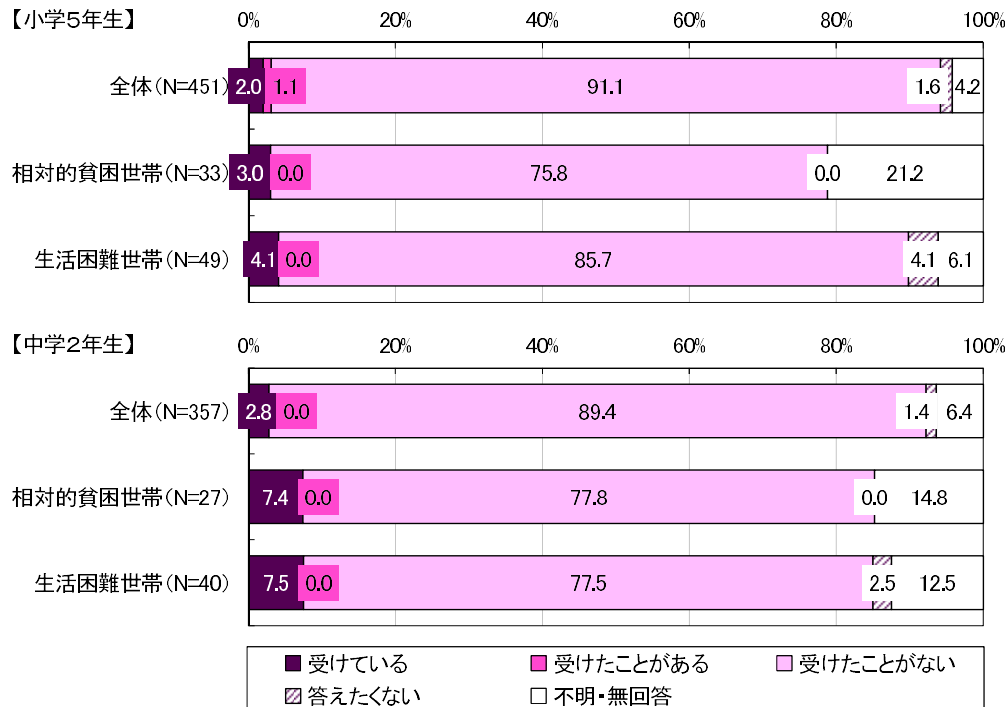
②児童扶養手当

全体では約1割、相対的貧困世帯では約5割が「受けている」と回答しています。児童扶養手当の対象であるひとり親世帯では、小学5年生で約5割、中学2年生で約6割が「受けている」と回答しており、それぞれ約1割が「受けたことがある」と回答しています。



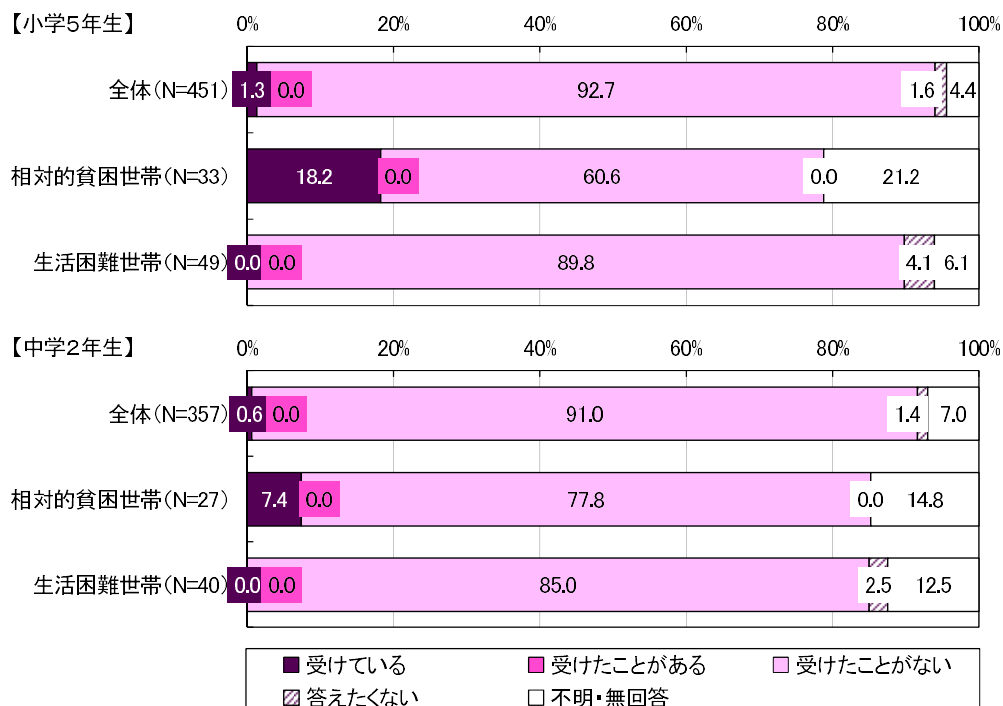
③障がいの手当

全体では「受けたことがない」が約9割となっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても大きな差はありません。



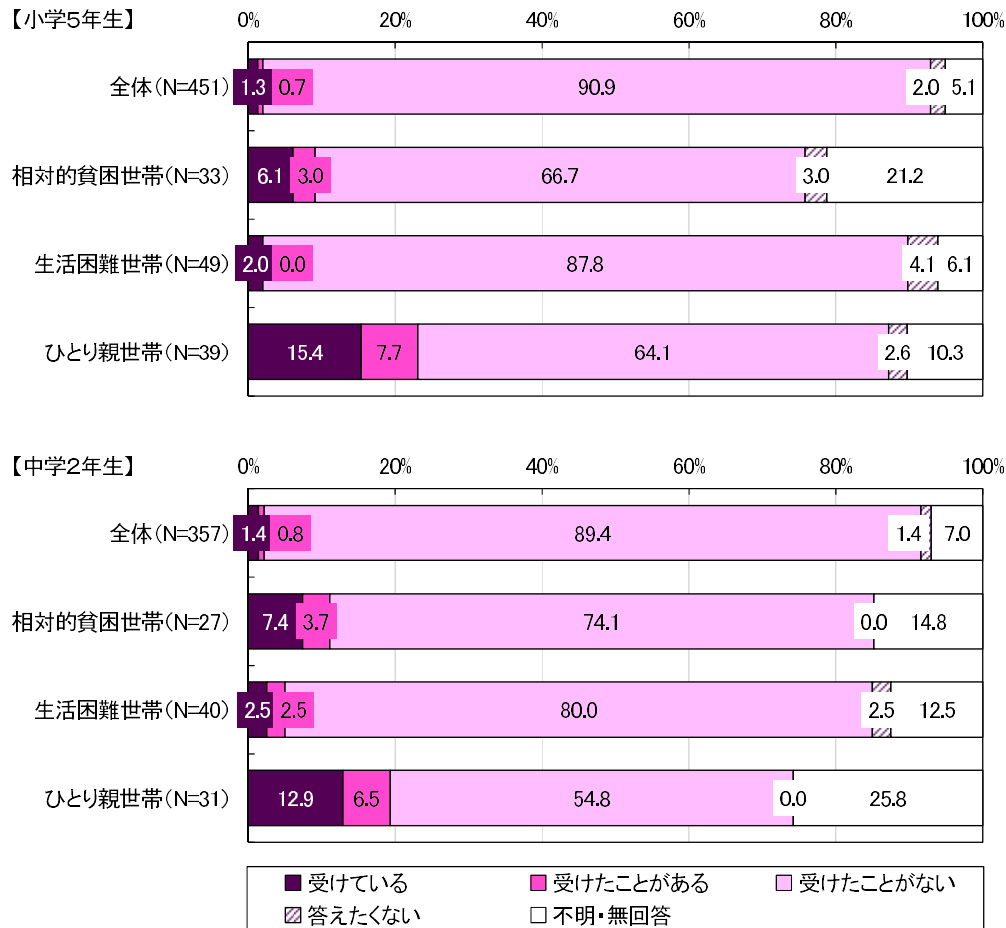
④生活保護

相対的貧困世帯では、小学5年生で18.2%、中学2年生で7.4%が「受けている」と回答しています。なお、全体における「受けている」という回答は、小学5年生、中学2年生ともにすべてが相対的貧困世帯のものです。



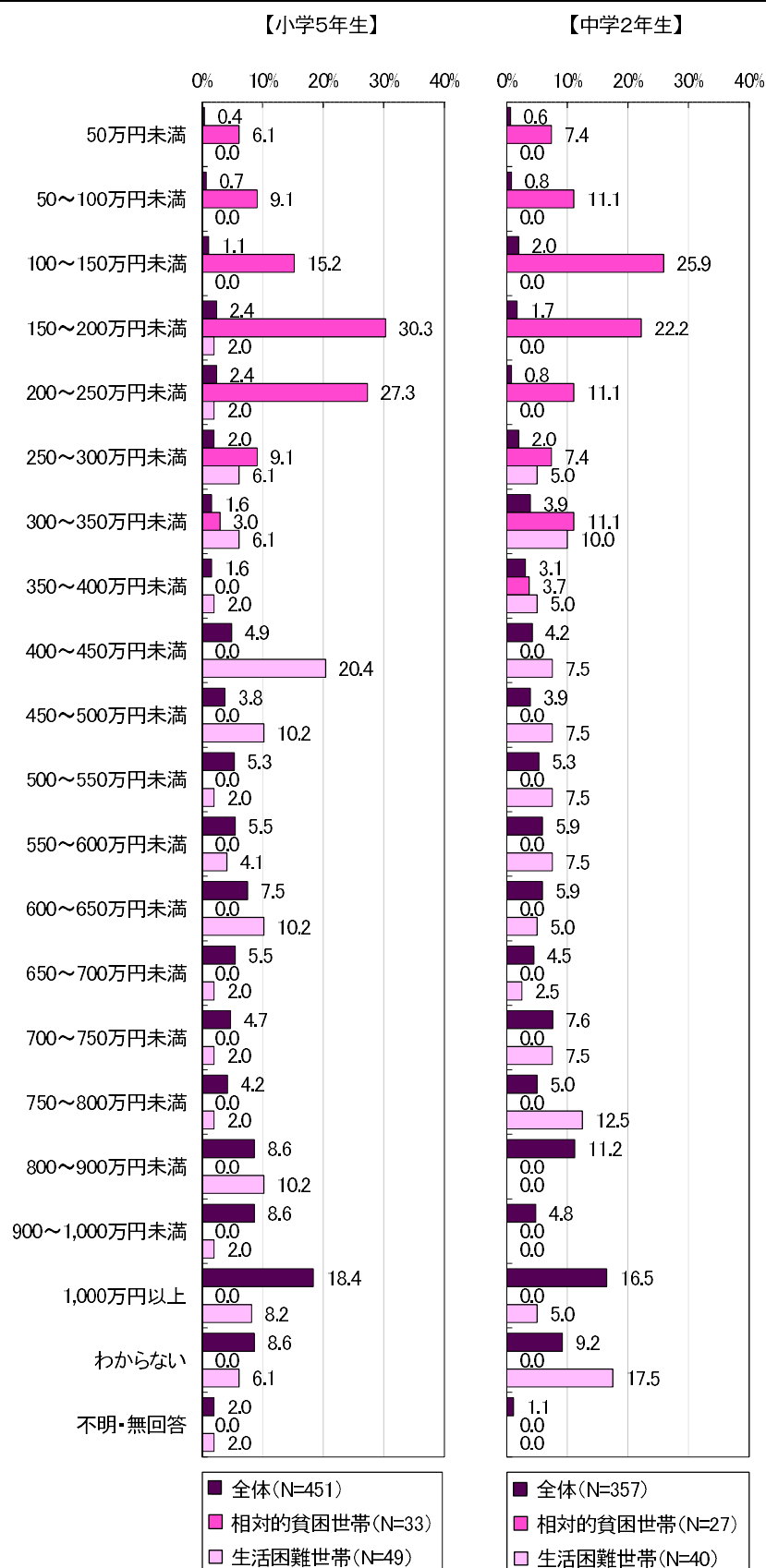
⑤離婚後の配偶者からの養育費

相対的貧困世帯では約1割が「受けている」または「受けたことがある」と回答しています。ひとり親世帯では、約2割が「受けている」または「受けたことがある」と回答しています。



(10) ご家族の経済状況についてうかがいます。昨年（2016 年）1 年間の、家族全員の収入の合計額は、税込みでおよそいくらでしたか。

全体の中央値は小学5年生、中学2年生ともに「650～700 万円未満」となっています。相対的貧困世帯では「100～250 万円」の層が多くなっています。生活困難世帯については、「1,000 万円以上」を含む幅広い収入層に分散しています。



(11) 小括

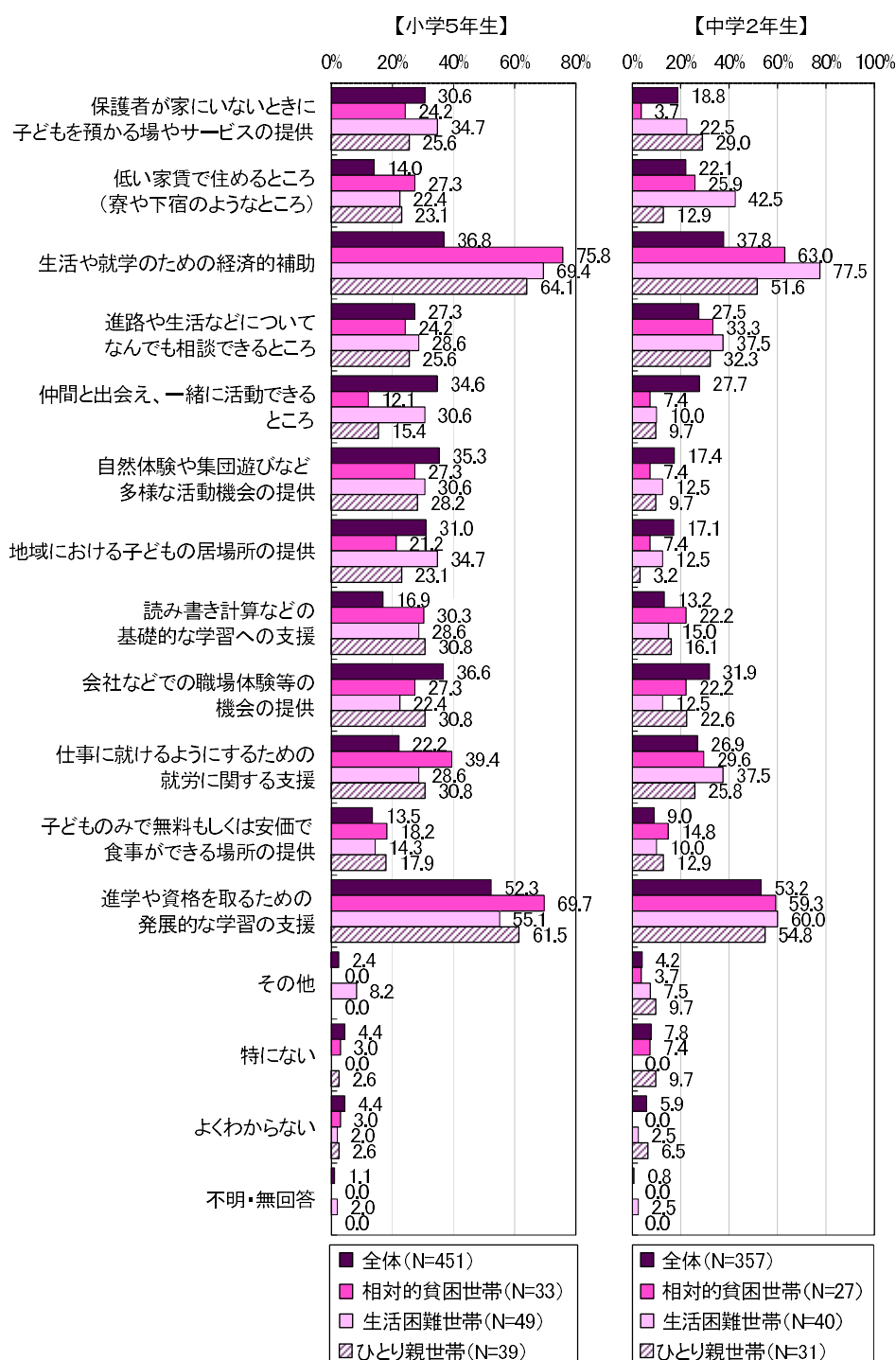
- 相対的貧困世帯の多くが、生活必需品の非所有やライフライン関連費用の支払困難経験、生活必需品の購入困難経験を有しており、通常の社会生活を送ることが困難となっている状況がうかがえます。
- 生活必需品の非所有やライフライン関連費用の支払困難経験は、相対的貧困世帯以外にもあてはまる世帯が存在しており、ある程度の収入があっても、日常生活において経済的な困難を抱えている世帯があることが示されています。
- 生活必需品の購入困難経験については、小学5年生ではいずれの項目も相対的貧困世帯のほうが経験率が高いのに対し、中学2年生ではいずれの項目も生活困難世帯の経験率が高くなっています。相談できる人や緊急時に助けてくれる人の有無（p16～18 参照）についても同様の傾向があり、中学生においては、収入面では比較的高いはずの生活困難世帯のほうが、日常生活においてより困難な状況にあることも考えられます。
- 生活困難世帯の世帯収入は、相対的貧困にならない水準で低い世帯がやや多いものの、1,000万円以上の高収入世帯を含む幅広い層に分布しています。
- 暮らしぶりの評価について、収入面では差があるはずの相対的貧困世帯と生活困難世帯を比較すると、「苦しい」と回答している割合は、中学2年生においては生活困難世帯の方が多くなっており、実感としての生活の苦しさは、世帯収入だけではなく、生活必需品の非所有や支払・購入困難経験などの、生活困難な状況の有無によっても大きく影響されていることが考えられます。
- 就学援助について、受給資格を満たしていると考えられる相対的貧困世帯においても、小学5年生で約2割、中学2年生で約4割が「受けたことがない」と回答しており、利用可能な制度の存在を知らない、または知っていても利用していない保護者がいる可能性があります。

5. 必要な支援について

(1) お子さんにとって、現在、または将来的に、どのような支援があるとよいと思いますか。【複数回答】

全体では「進学や資格を取るための発展的な学習の支援」が5割を超えて最も多く、次いで「生活や就学のための経済的補助」、「会社などでの職場体験等の機会の提供」が多くなっています。

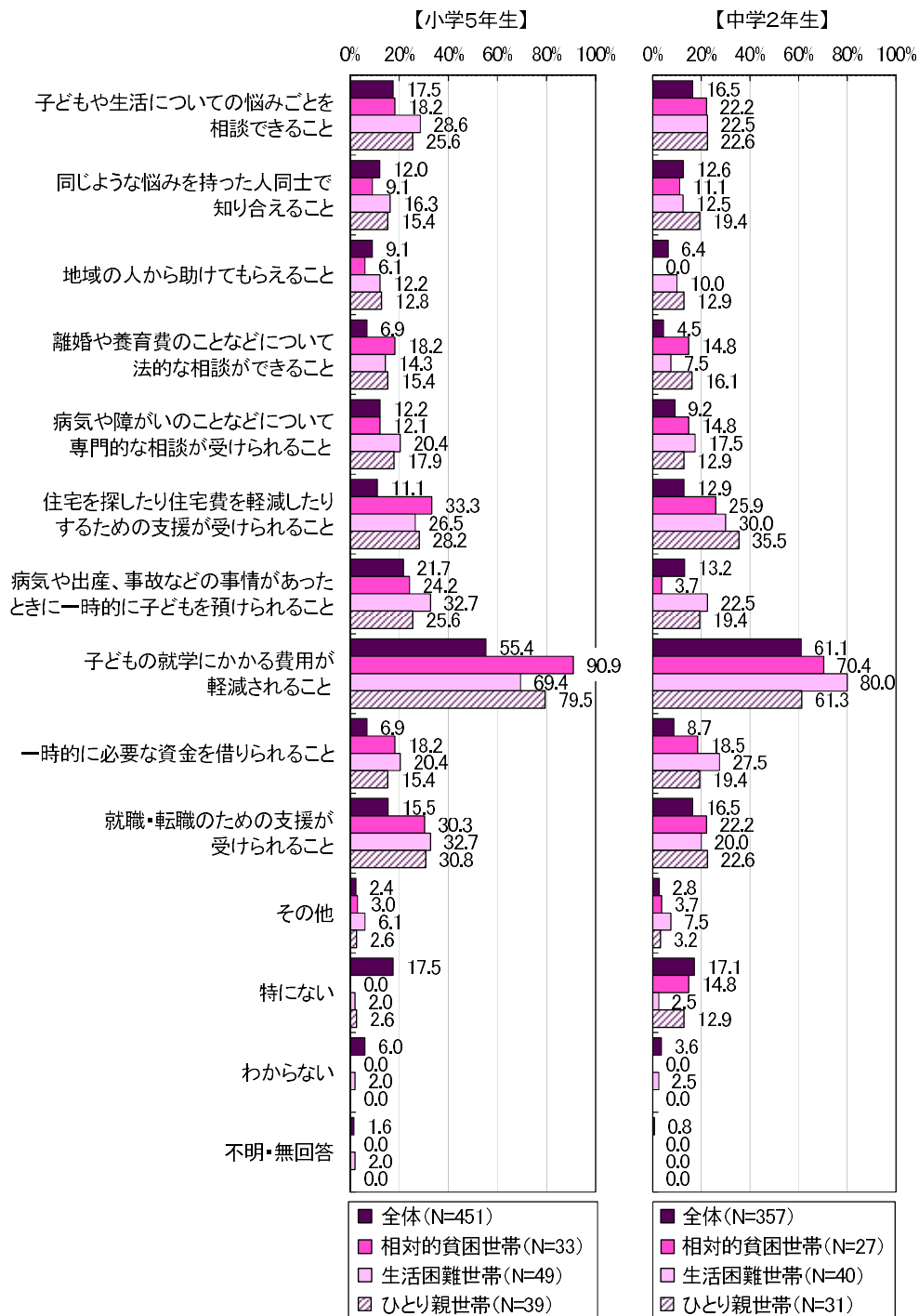
相対的貧困世帯・生活困難世帯では「生活や就学のための経済的補助」が最も多くなっており、「低い家賃で住めるところ」、「基礎的な学習への支援」、「就労に関する支援」などの項目で全体と比較して多く回答されています。一方、「仲間と出会え、一緒に活動できるところ」、「会社などでの職場体験等の機会の提供」については全体より少なくなっています。



(2) あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援等はどうようなものですか。

【複数回答】

全体では「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」が5割を超えて特に多くなっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯では全体的に割合が高くなっていますが、中でも「子どもの就学にかかる費用が軽減されること」、「住宅を探したり住宅費を軽減したりするための支援が受けられること」、「一時的に必要な資金を借りられること」、「就職・転職のための支援が受けられること」については全体と比較して多く回答されています。



(3) その他、毎日の生活で感じていることがあれば、ご自由にお聞かせください。

【自由記述】

自由記述回答の総件数は、小学5年生 125 件、中学2年生 99 件でした。その中で、いくつかの意見を紹介します。

①教育費・子育て費用について

- 学習塾に行かせているが、受験が近づくにつれ一般的に月謝も高額になる。結局塾に行くことを継続するが、教育費が家計を圧迫する。
- 中学校の制服、靴、笛等準備のときにかかる費用が公立でも高く、大きな負担となった。
- 公立高校に進学できなければ、今より経済的に苦しくなる。高校の無償化や補助があるとよい。
- 大学入学に際して返済不要の奨学金をもっと充実させてほしい。

②学校・教職員について

- 子どもが公立中学校に通っているが、先生が忙しすぎて生徒の問題行動の対応がうまくできていないと感じる。
- 中学校でもっと毎日宿題を出してもらえれば塾に行く必要も減ると思う。塾に行けない子もいるだろうし、どうして学校はもっと勉強に力を入れないのかと思う。

③子育て支援について

- 高学年になるにつれて育成会に入所できなくなり長期の休みを子ども1人で過ごさせることになるので、4年生以上を見てくれる場がほしい。
- “子ども食堂”などは必要な子どもにとっては命をつなぐものかも知れないが、保護者が子どものために食事を作る時間、知識、責任感、お金の支援の方が子どものためになると感じる。

④遊び・スポーツ・部活動について

- 放課後に子どもの遊ぶ場所が少ない。道路で遊んだり駐車場で遊んでいる子もいて危ない。
- 子どもたちが、球技ができる公園がない。学校をもっと開放してほしい。
- 部活動の時間を短くしてほしい。土、日、祝休みがない。子どものストレスが感じられる。

⑤子どもの医療について

- 中学卒業まで医療費を無料にしてほしい。所得制限の額を上げてほしい。
- 児童手当や医療控除を年収だけではなく、子供の人数も含めて見直してもらいたい。

⑥PTA・地域について

- PTAの役員活動が負担大。働いている母親が多いのに午前中のPTA業務が多く非常に負担に感じる。
- 環境のよい閑静な住宅地だが、周りのレベルが高く地域で打ち解けられないまま年数だけがたっていく。孤立したくはないが、近所づきあいがいい。

⑦保護者の就労について

- 自分も働かなければと思うが、子どもの放課後の預け先の確保や時短の仕事が見つかるかと思うとなかなか職探しまではいかない。
- 病気があり働きたいが体調に不安がありなかなか動けない。働きやすい環境整備や相談できる場がほしい。

⑧その他

- 特に不便さはない。宝塚市の行政は子どもの福祉に関していえば手厚いと思っている。
- 自分の居場所が大人にもきちんとあることで、子どもに安定した接し方が出来ている。仕事を持つことは大切だと日々感じている。

(4) 小括

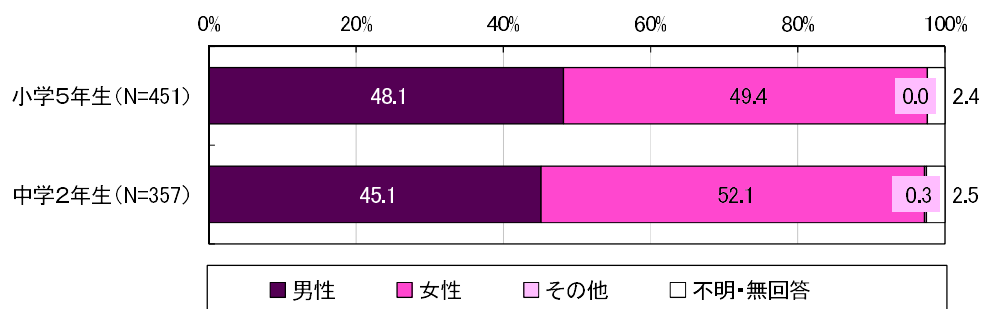
- 保護者が、子どもにとってあるとよいと思う支援については、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、全体と比較して生活・就労・学習等の基礎的なニーズが高い傾向が見られます。中でも「生活や就学のための経済的補助」に多くの回答があります。「発展的な学習の支援」についても、全体と同様にニーズが高くなっています。
- 子どもへの支援について、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、生活・就労等のニーズは全体より高く、学習支援についても全体と同程度にやはりニーズが高くなっている一方で、「仲間と出会え、一緒に活動できる場所」、「会社などでの職場体験等の機会の提供」、「自然体験や集団遊びなど多様な活動機会の提供」等の、子どもにとって多様な経験の場となる機会の提供については、全体より低いニーズにとどまっています。保護者の教育的・文化的な意識の違いがあることや、経済的に厳しい状況にあることで、より基礎的なニーズが優先されていることが考えられます。
- 保護者にとって重要な支援については、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、収入・住宅・就労といった生活基盤に関するニーズが高く、特に子どもの就学に関する費用の軽減については割合が高くなっています。就労・転職のための支援については、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、母親が病気や障がい等の理由で働けないという回答が全体と比較して多くなっています。保護者の実情に応じた就労機会の提供や、就労ができない状況を改善するための支援など、家庭背景に応じた支援のあり方を検討する必要があると考えられます。

Ⅲ 子ども対象調査の結果

1. 回答者について

(1) あなたの性別は。

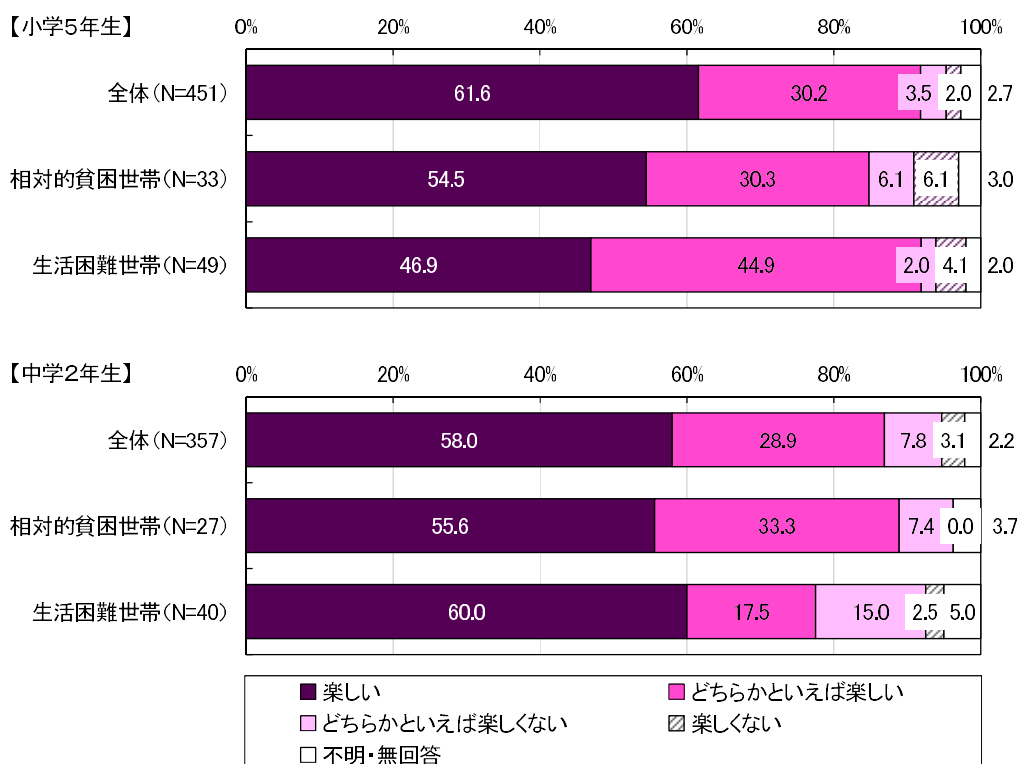
小学5年生、中学2年生ともに女性がやや多くなっています。



2. 学校での勉強や塾での勉強について

(1) あなたは学校にいる時間が楽しいですか。

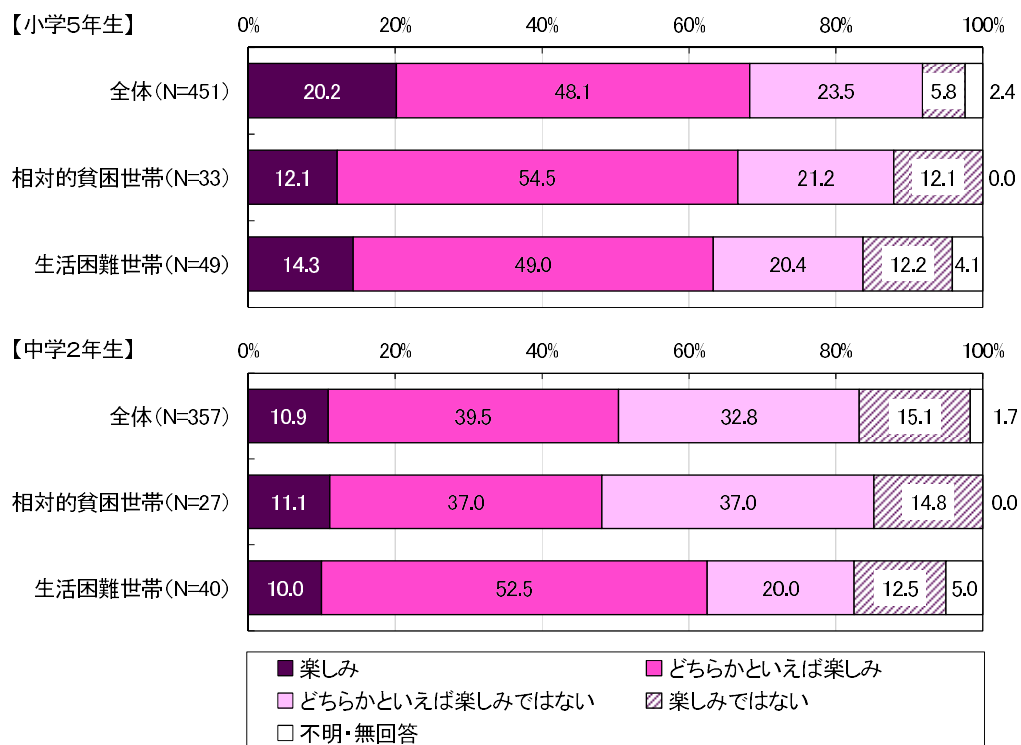
「楽しい」という回答は全体では約6割ですが、小学5年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯ではやや少なくなっています。中学2年生では「楽しい」という回答の差はありませんが、「どちらかといえば楽しい」を合わせると、生活困難世帯では楽しいという回答がやや少なく、「どちらかといえば楽しくない」が多くなっています。



(2) あなたが、学校で楽しみに思えることは何ですか。①から⑥のそれぞれについて、あなたの考えに合うもの1つに○をしてください。 ※小学生は①から⑤まで

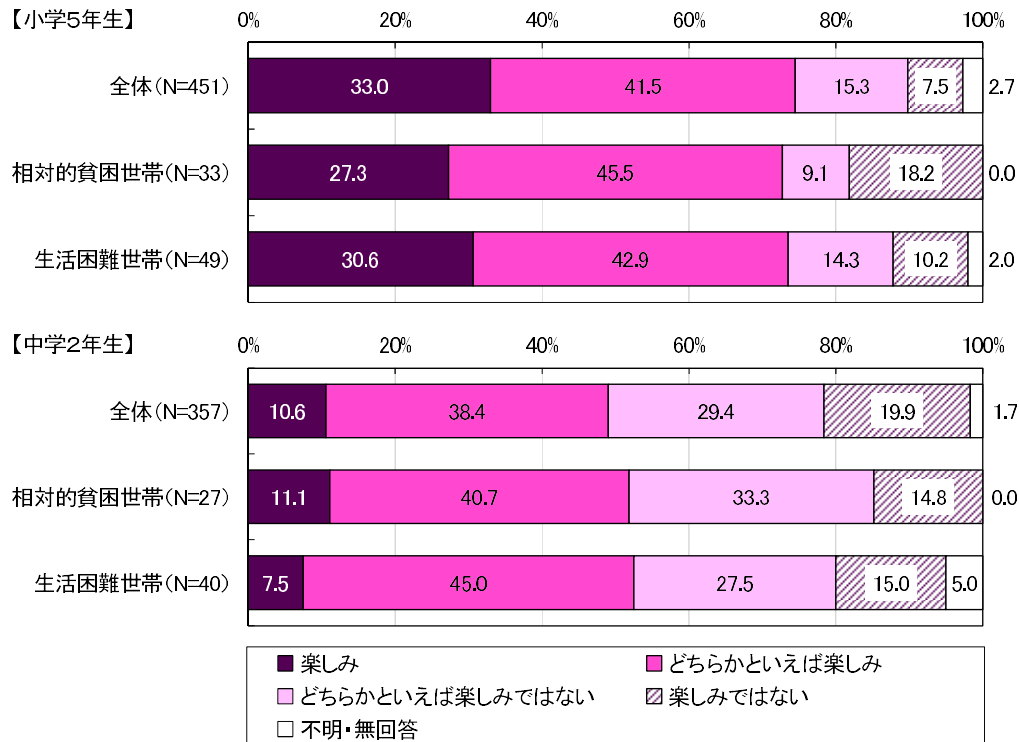
①学校の授業

小学5年生では、相対的貧困世帯・生活困難世帯で「楽しみ」という回答がやや少なくなっています。中学2年生では、生活困難世帯の「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」という回答が全体より多くなっています。



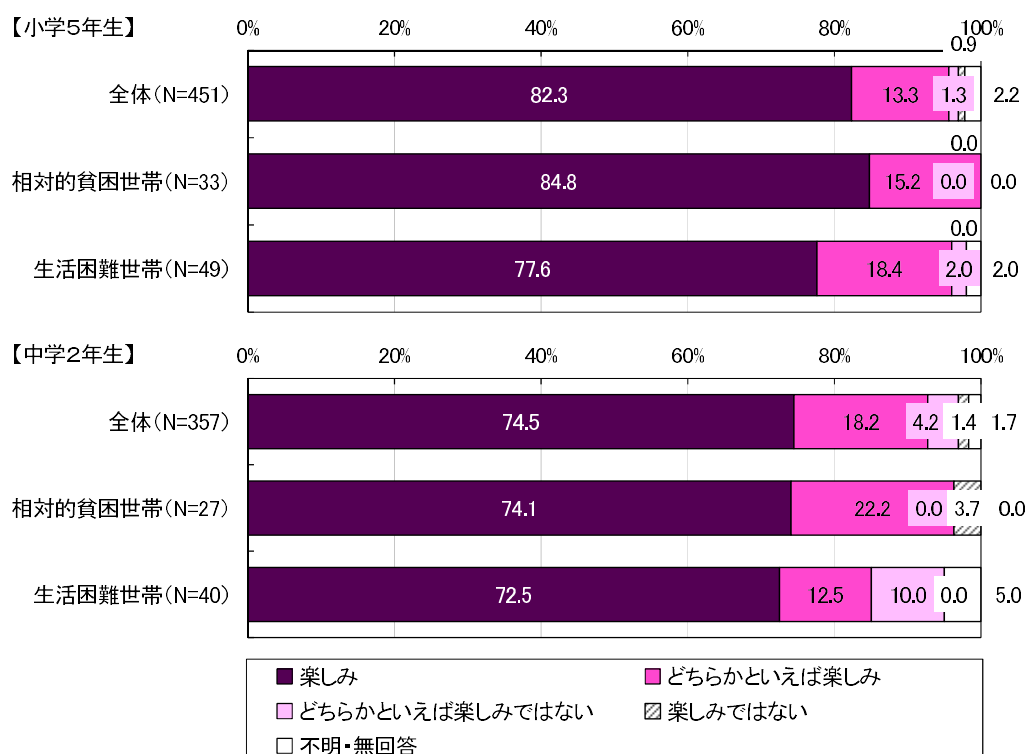
②学校の先生に会うこと

「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」という回答は、小学5年生で約7割、中学2年生で約5割となっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても大きな差は見られません。



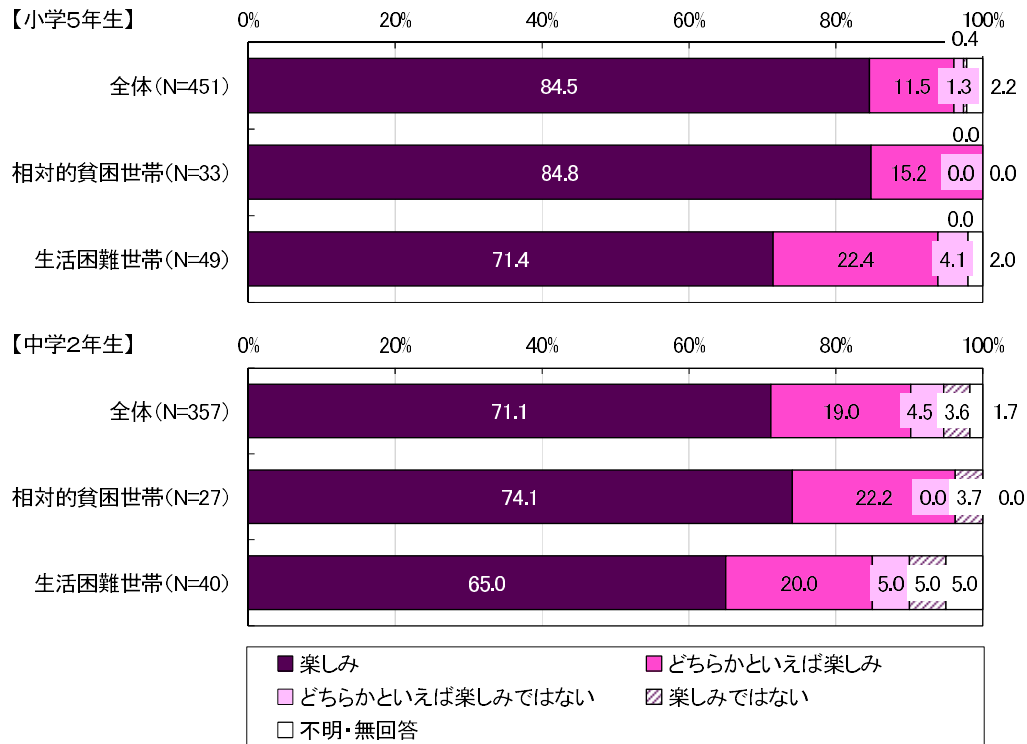
③学校の友だちに会うこと

「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」という回答は、小学5年生、中学2年生ともに9割台となっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても大きな差は見られません。



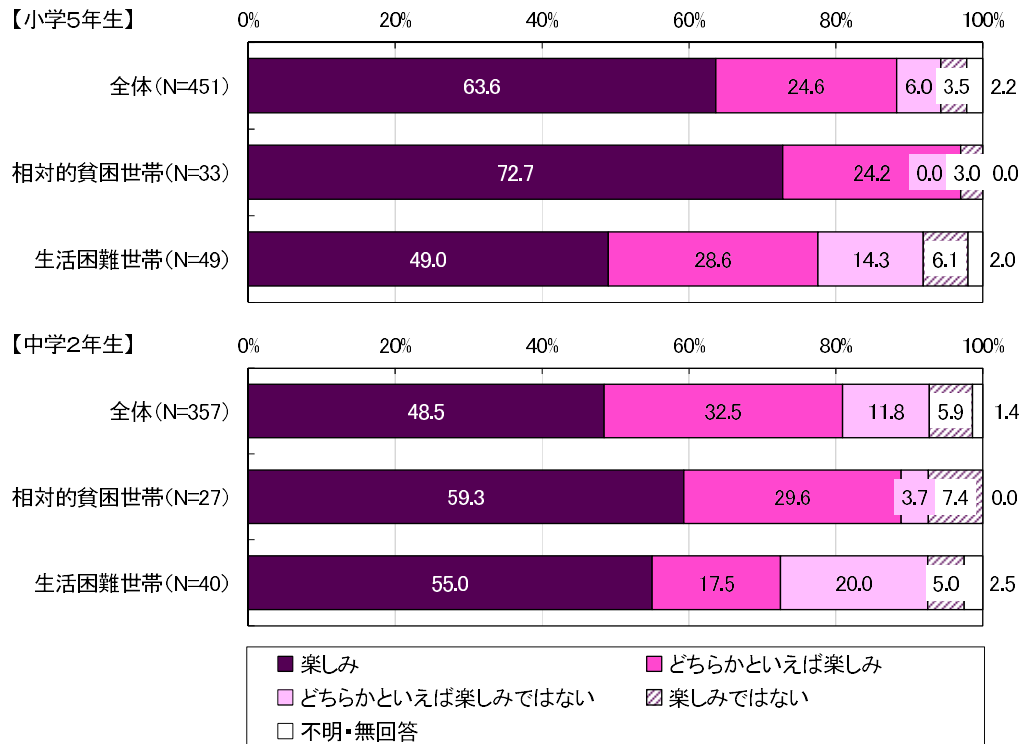
④学校の休み時間

「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」という回答は、小学5年生、中学2年生ともに9割台となっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても大きな差は見られません。



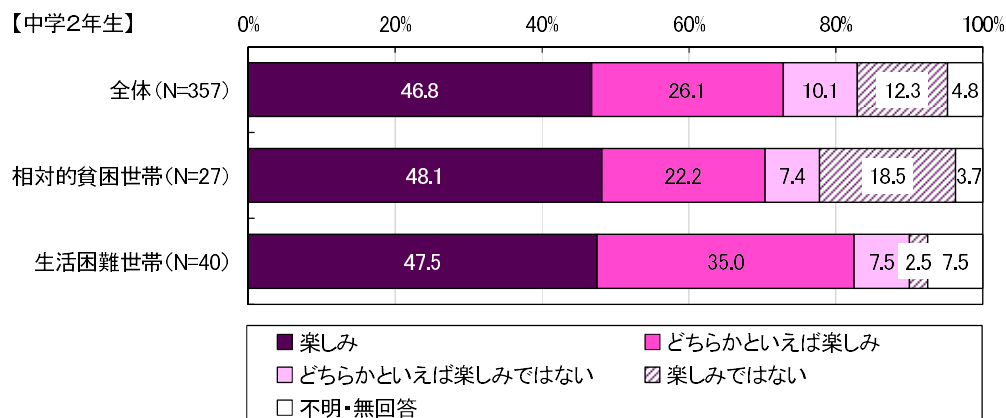
⑤学校の給食（昼食時間）

「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」という回答は、小学5年生で約9割、中学2年生で約8割となっています。小学5年生、中学2年生ともに、相対的貧困世帯では「楽しみ」という回答がやや多く、生活困難世帯では「どちらかといえば楽しみではない」または「楽しみではない」という回答がやや多くなっています。



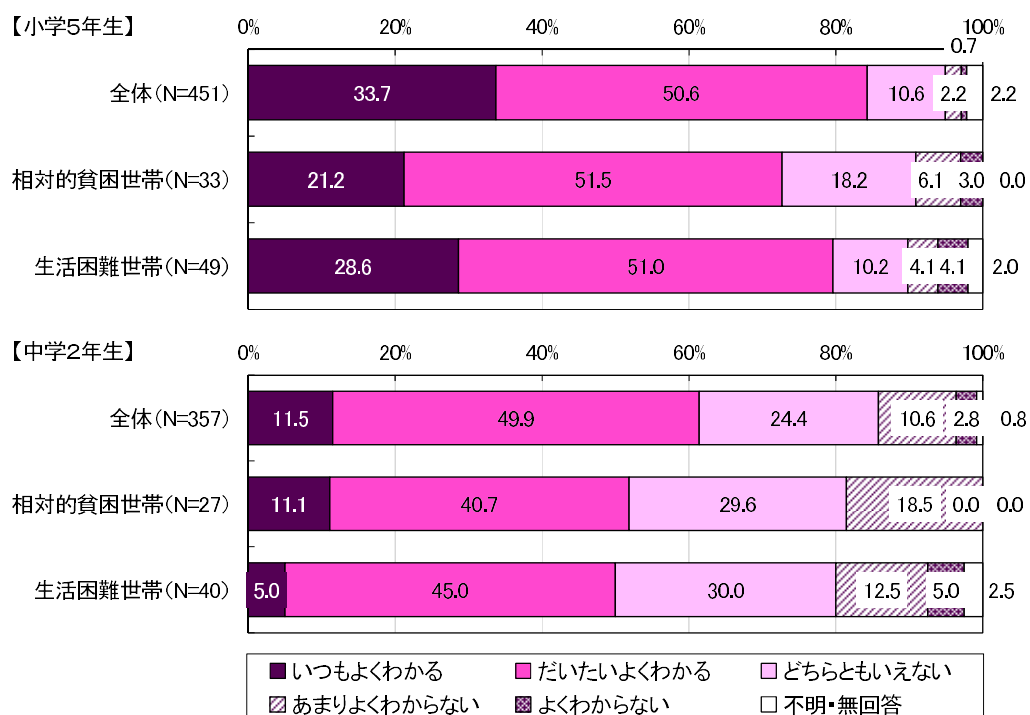
⑥部活動の時間 ※中学生のみ

「楽しみ」または「どちらかといえば楽しみ」という回答は約7割となっています。



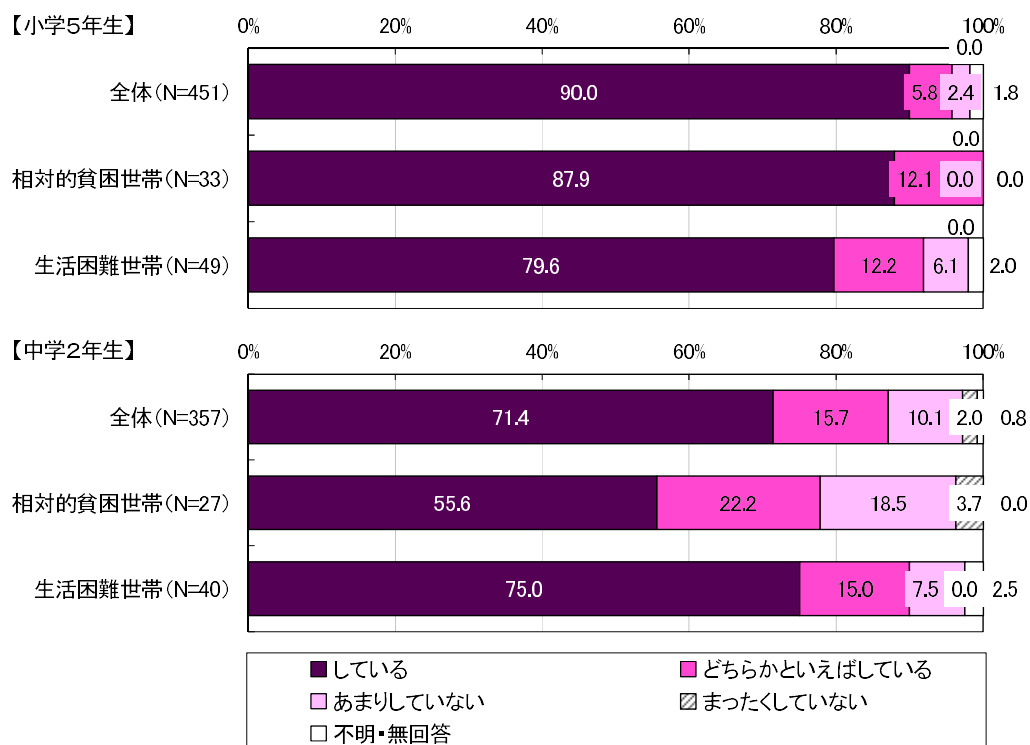
（３）あなたは学校の勉強がよくわかりますか。

小学5年生では、「いつもよくわかる」は約3割ですが、相対的貧困世帯では約2割と低くなっています。中学2年生では「いつもよくわかる」と「だいたいよくわかる」を合わせると、全体では約6割ですが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では約5割となっており、「あまりよくわからない」または「よくわからない」が多くなっています。



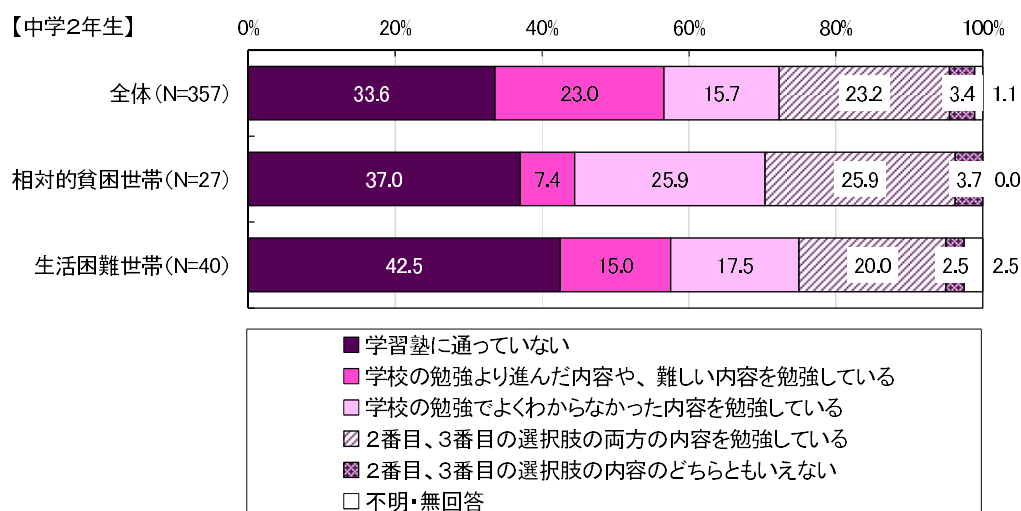
(4) あなたは学校の宿題をしていますか。

「している」という回答は、全体では小学5年生で9割、中学2年生で約7割ですが、小学5年生の生活困難世帯と中学2年生の相対的貧困世帯では、全体より少なくなっており、「あまりしていない」が多くなっています。



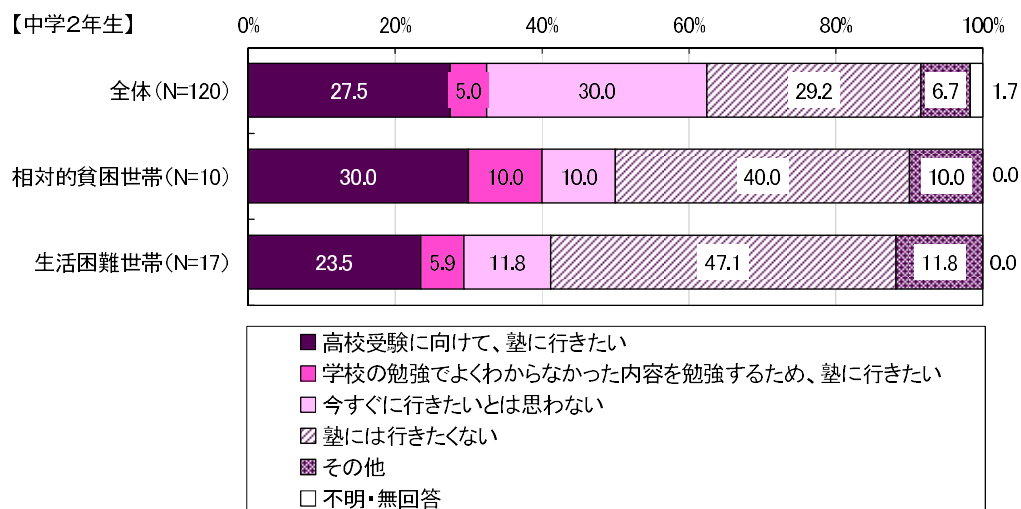
(5) あなたは現在、学習塾（家庭教師の先生に教わっている場合も含みます）で勉強をしていますか。 ※中学生のみ

「学習塾に通っていない」は全体では 33.6%ですが、生活困難世帯では 42.5%とやや多くなっています。また、学習内容については、相対的貧困世帯では「学校の勉強でよくわからなかった内容を勉強している」が多く、「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している」が少なくなっています。



(6) (5) で「学習塾に通っていない」に○をつけた方 今後、学習塾や家庭教師の先生に教わって勉強したいと思いますか。 ※中学生のみ

全体では「今すぐに行きたいとは思わない」、「塾には行きたくない」、「高校受験に向けて、塾に行きたい」が約3割でほぼ同数ですが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では「塾には行きたくない」が多くなっています。



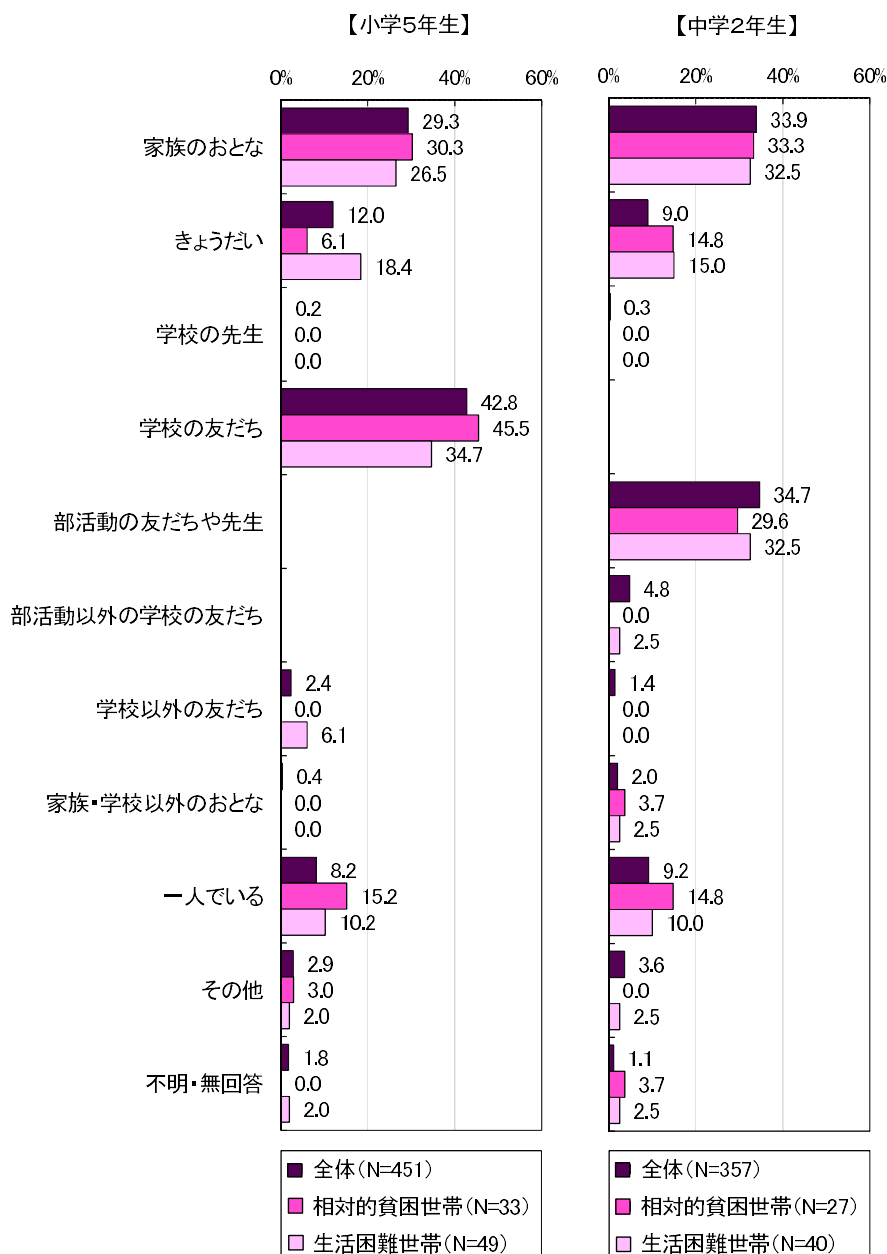
(7) 小括

- 学校にいる時間が楽しみかどうかや、学校内でのそれぞれの活動が楽しみかどうかについては、相対的貧困世帯・生活困難世帯で肯定的な回答が少なく、否定的な回答が多いものの全体として明確な傾向があるとまでは言えません。
- 学校の勉強の理解度については、小学5年生の相対的貧困世帯と、中学2年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯においてやや低くなっています。
- 宿題の履行率については、小学5年生の生活困難世帯と中学2年生の相対的貧困世帯で低くなっています。
- 中学2年生の通塾については、生活困難世帯で通塾していない割合がやや高くなっています。また、通塾していない場合に、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、「塾には行きたくない」という回答が多くなっています。

3. 放課後や下校後のすごしかたについて

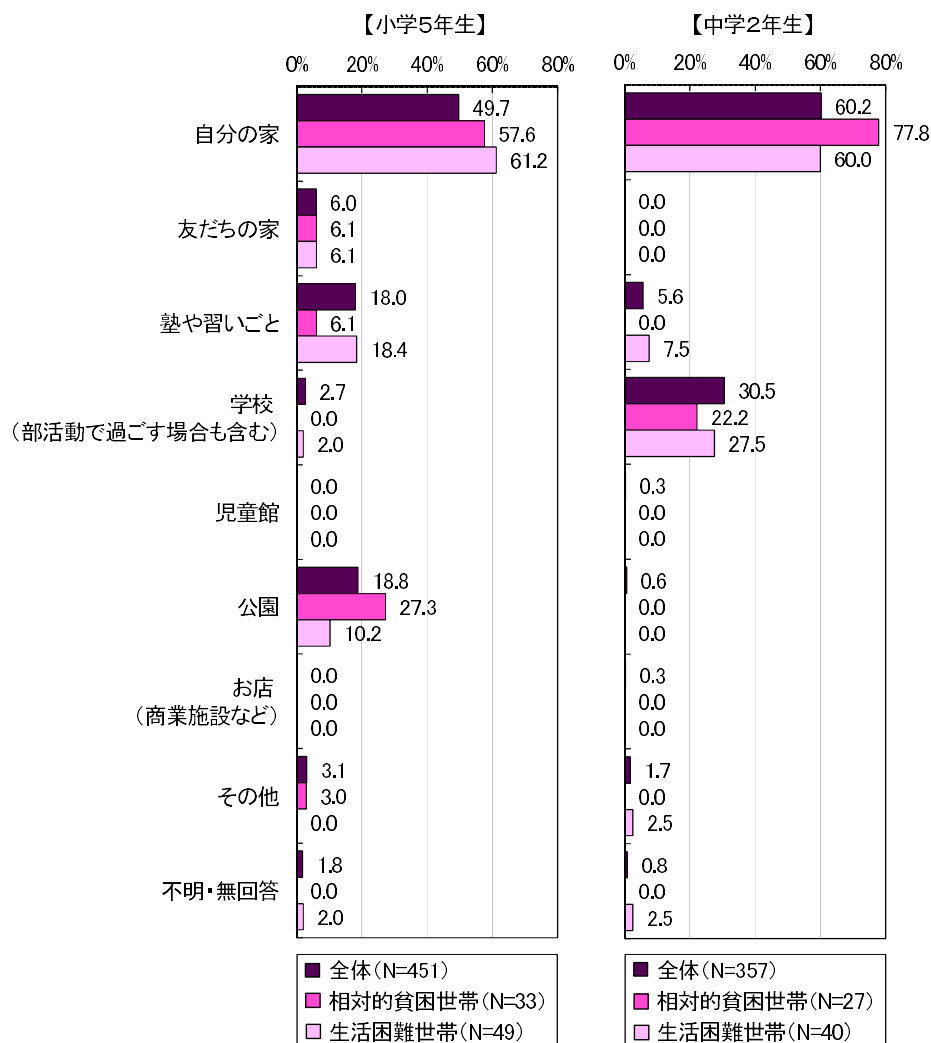
(1) あなたは放課後や下校後に、だれとすごすことが一番多いですか。

全体では、小学5年生で「学校の友だち」が最も多く、中学2年生では「部活動の友だちや先生」と「家族のおとな」がほぼ同数で多くなっています。相対的貧困世帯・生活困難世帯については大きな差は見られませんが、相対的貧困世帯では「一人でのいる」、生活困難世帯では「きょうだい」が、全体と比較してやや多くなっています。



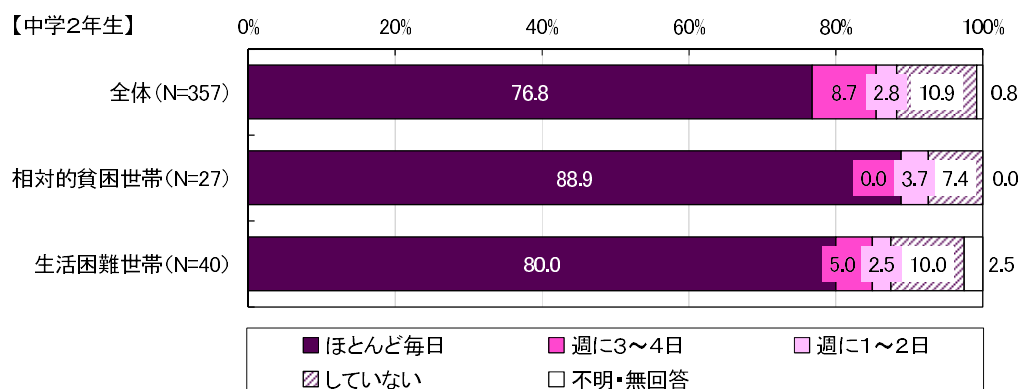
(2) あなたは放課後や下校後に、どこですごすことが一番多いですか。

全体では「自分の家」が最も多くなっています。次いで、小学5年生では「公園」と「塾や習い事」、中学2年生では「学校」が多くなっています。相対的貧困世帯では「自分の家」が全体と比較してやや多く、小学5年生では「公園」という回答も多くなっています。一方で「塾や習いごと」は少なくなっています。小学5年生の生活困難世帯についても、「自分の家」が全体より多くなっています。



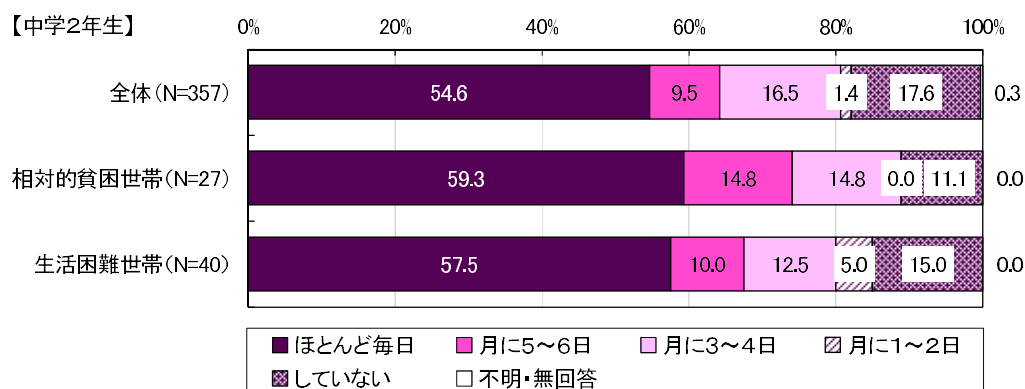
(3) あなたは平日にどれくらい部活動をしていますか。 ※中学生のみ

全体では「ほとんど毎日」が76.8%で最も多くなっています。相対的貧困世帯では「ほとんど毎日」の割合がやや高くなっています。



(4) あなたは土曜日や日曜日にどれくらい部活動をしていますか。 ※中学生のみ

全体では約8割が「月に3~4日」以上と回答しています。相対的貧困世帯では、活動している割合がやや高くなっています。



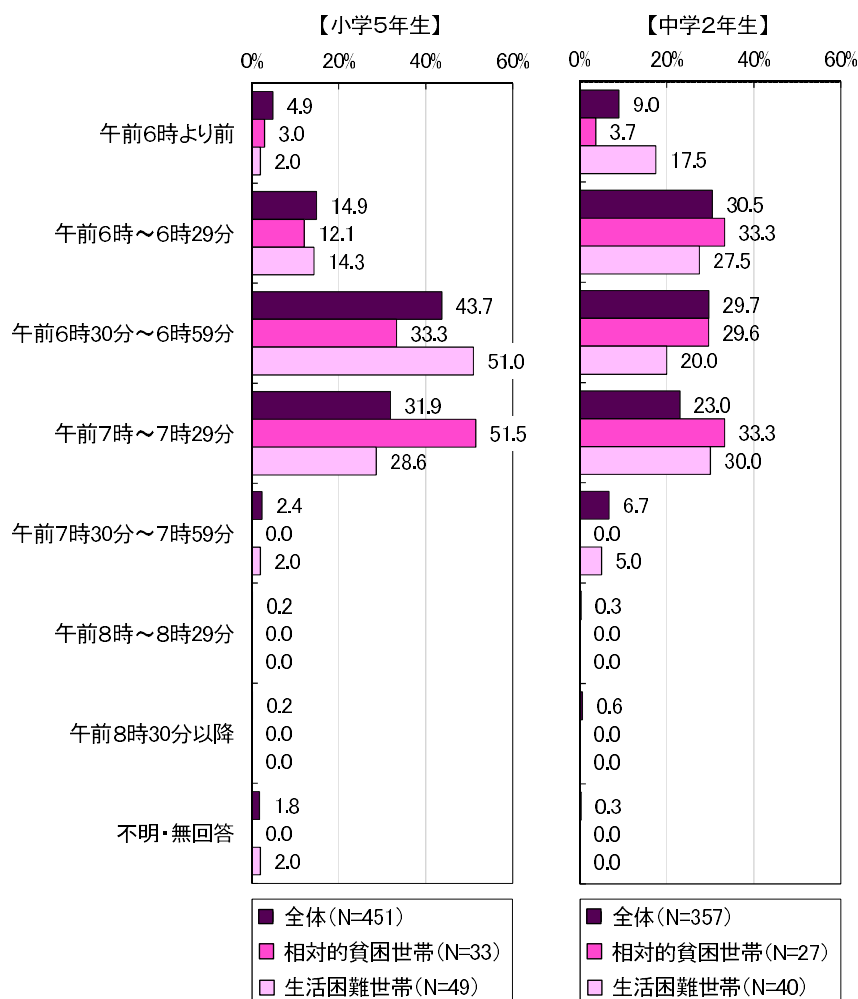
(5) 小括

- 放課後や下校後のすごしかたについては、小学5年生の相対的貧困世帯では「塾や習い事」が少なく「公園」が多くなっています。中学2年生の相対的貧困世帯では「自分の家」が多く、「学校」がやや少なくなっています。
- 中学2年生の部活動については、平日、土曜日・日曜日ともに相対的貧困世帯において活動率がやや高くなっています。

4. 1日のすごしかたについて

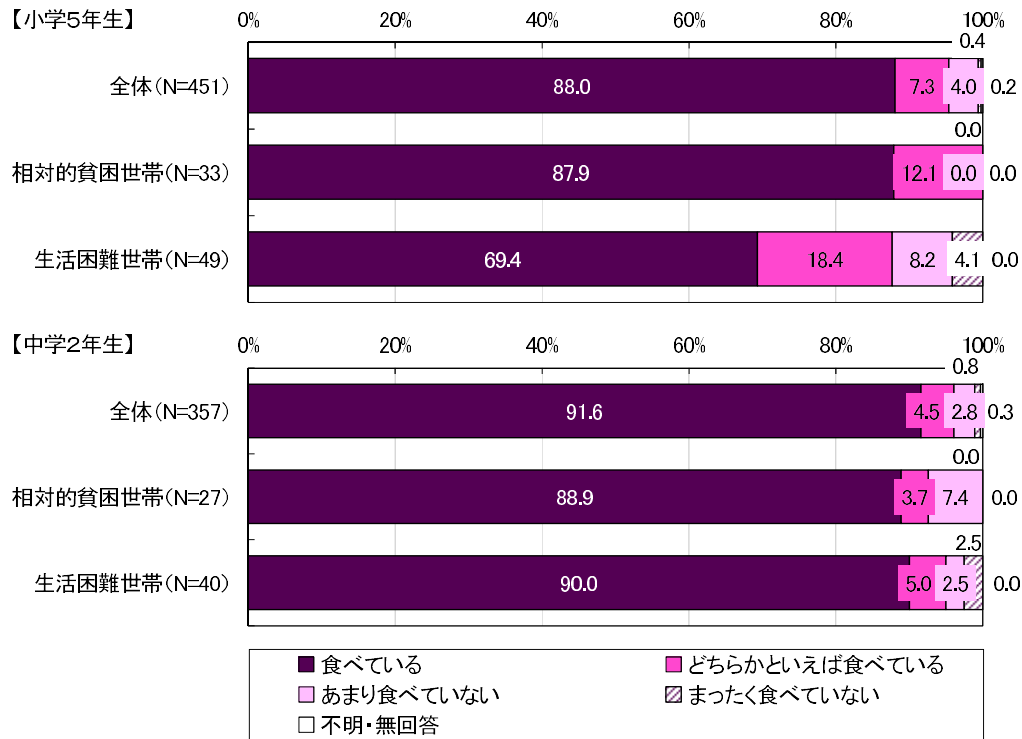
(1) あなたは学校がある日はだいたい朝何時ごろに起きますか。

小学5年生では、全体では「6時30分～6時59分」が最も多くなっていますが、相対的貧困世帯では「午前7時～7時29分」が最も多くなっており、全体的に起床時刻が遅い傾向が見られます。中学2年生では明確な差は見られませんが、相対的貧困世帯では「午前7時～7時29分」がやや多くなっています。



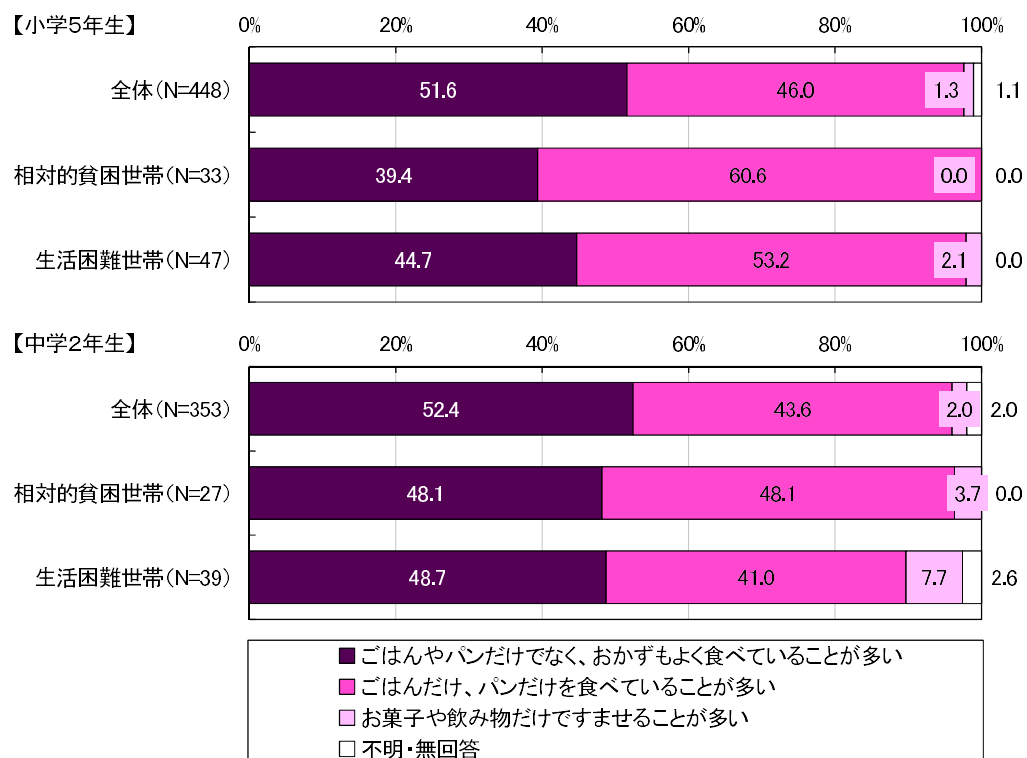
(2) あなたは朝ごはんを毎日食べていますか。

「食べている」という回答が全体では約9割となっています。小学5年生の生活困難世帯では、「食べている」が約7割と少なくなっています。



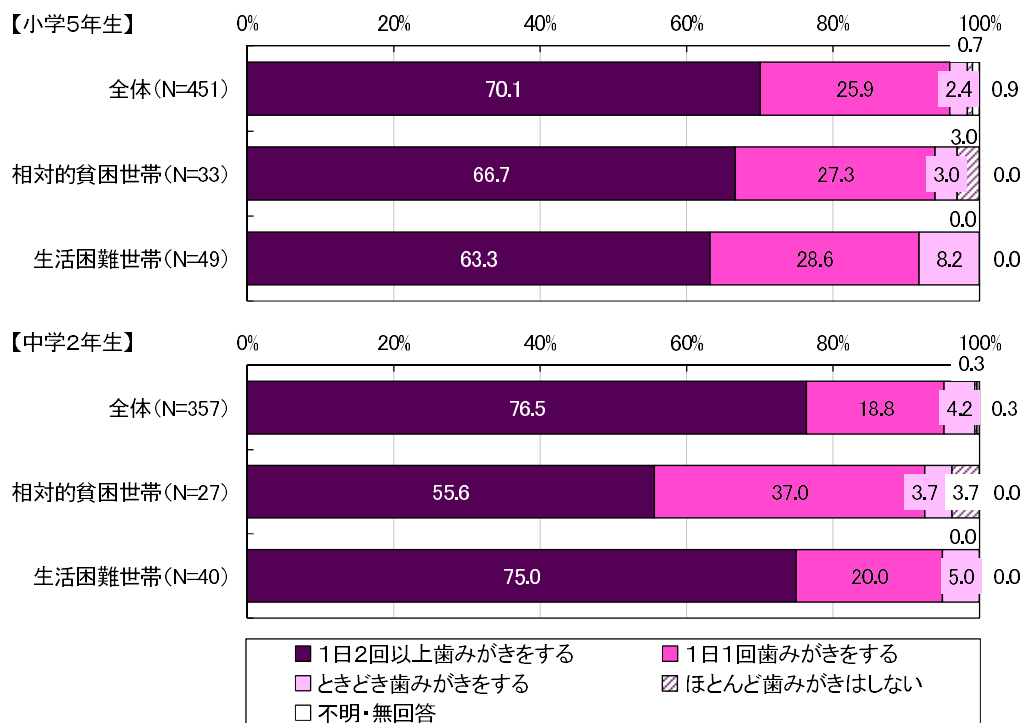
(3) (2) で「食べている」「どちらかといえば食べている」「あまり食べていない」
に○をつけた方 朝ごはんの内容はどういうものが多いですか。

「ごはんやパンだけでなく、おかずもよく食べていることが多い」という回答は、全体では5割以上ですが、小学5年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯でやや少なくなっています。



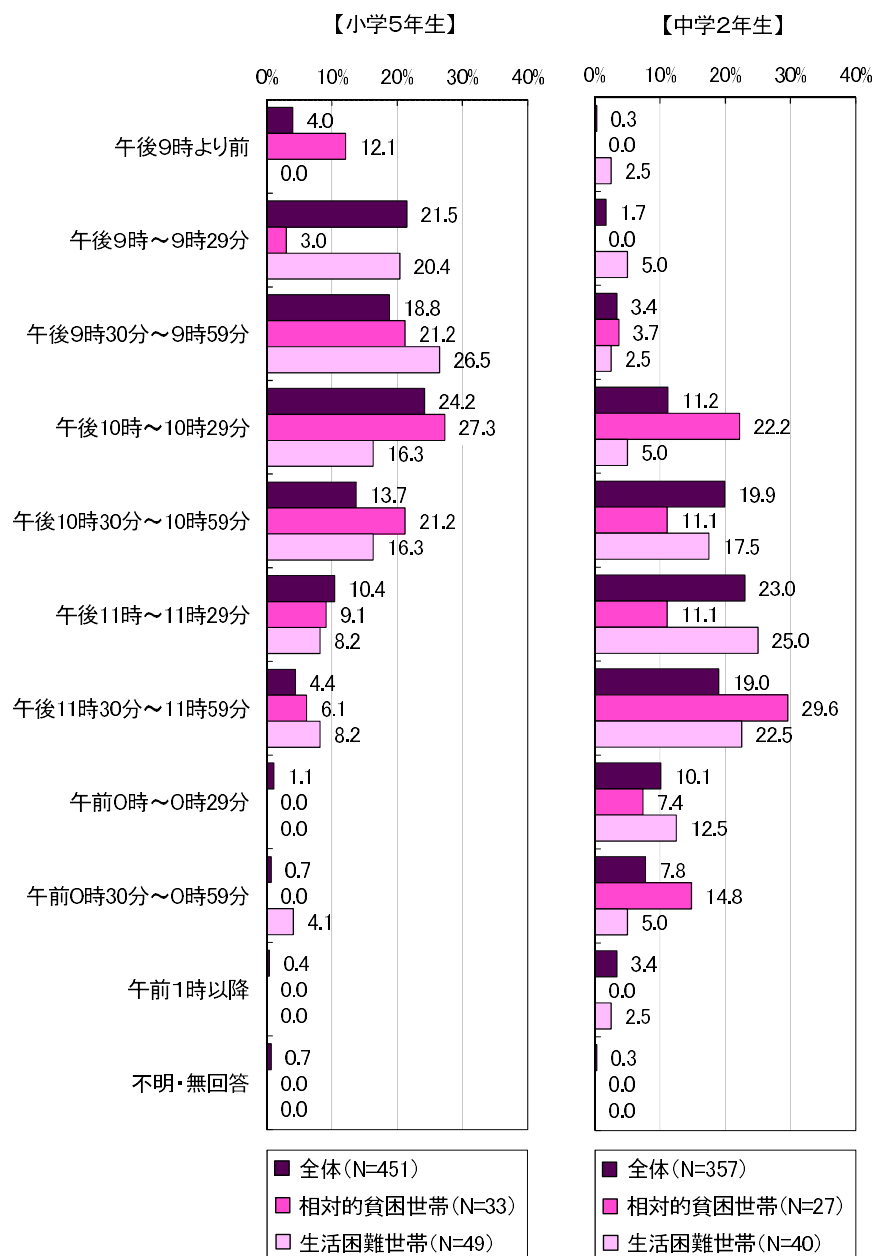
(4) あなたは歯みがきをどのくらいしますか。

「1日2回以上歯みがきをする」という回答は、全体では7割台ですが、中学2年生の相対的貧困世帯では、5割台と少なくなっています。



(5) あなたは、次の日に学校がある日はだいたい、夜何時ごろに寝ますか。

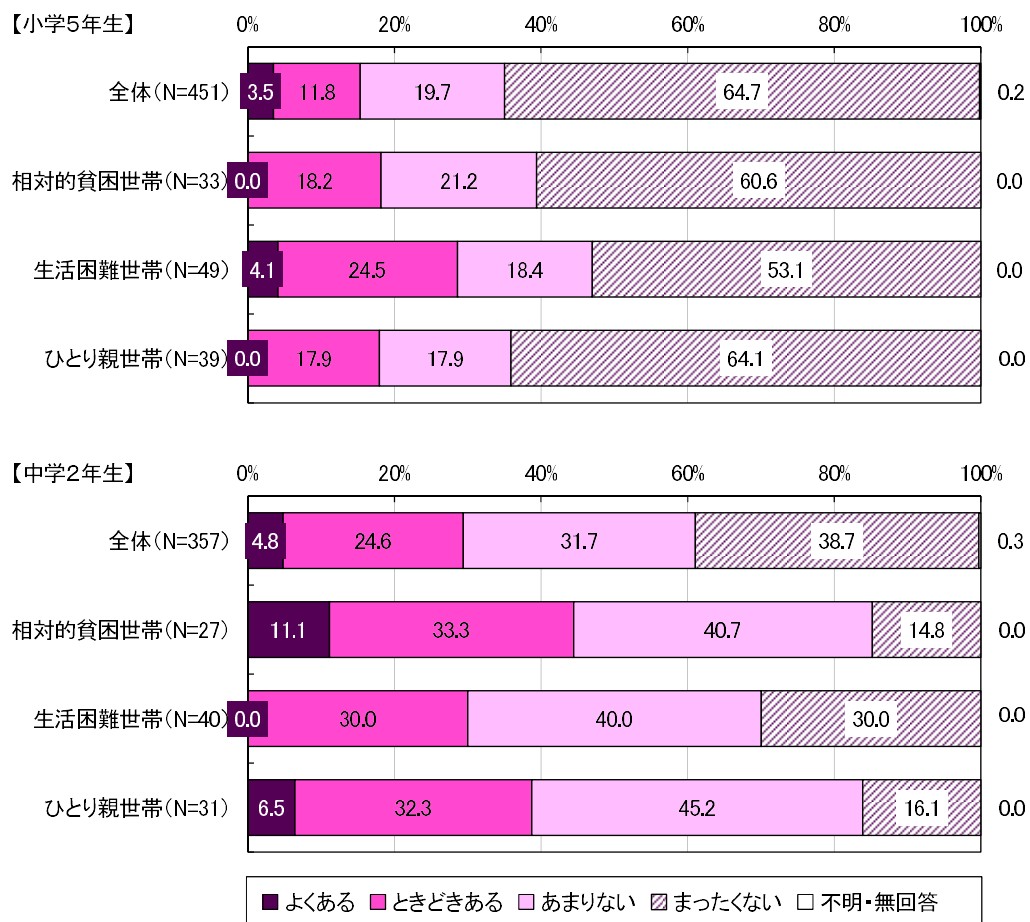
相対的貧困世帯については、小学5年生では、「午後9時より前」と午後10時以降の時間帯の回答がやや多くなっています。中学2年生では、「午後10時～10時29分」と午後11時30分以降の時間帯の回答が多くなっています。



（６）あなたは、夕ごはんを子どもだけで食べることがありますか。

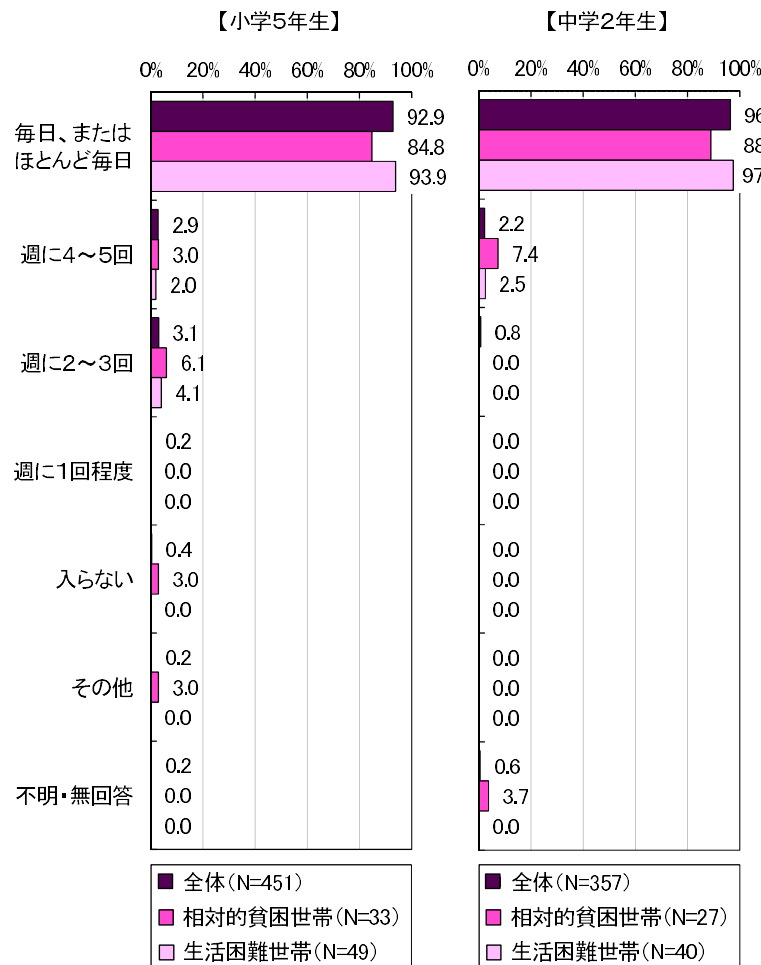
小学5年生では、生活困難世帯で「ときどきある」の割合が高く、中学2年生では、相対的貧困世帯の「まったくない」の割合が低くなっています。

ひとり親世帯については、相対的貧困世帯に近い状況となっています。



(7) あなたは、週にどのくらいお風呂（シャワーのみの場合も含む）に入りますか。

全体と比較して、相対的貧困世帯では「毎日、またはほとんど毎日」の割合がやや低くなっています。



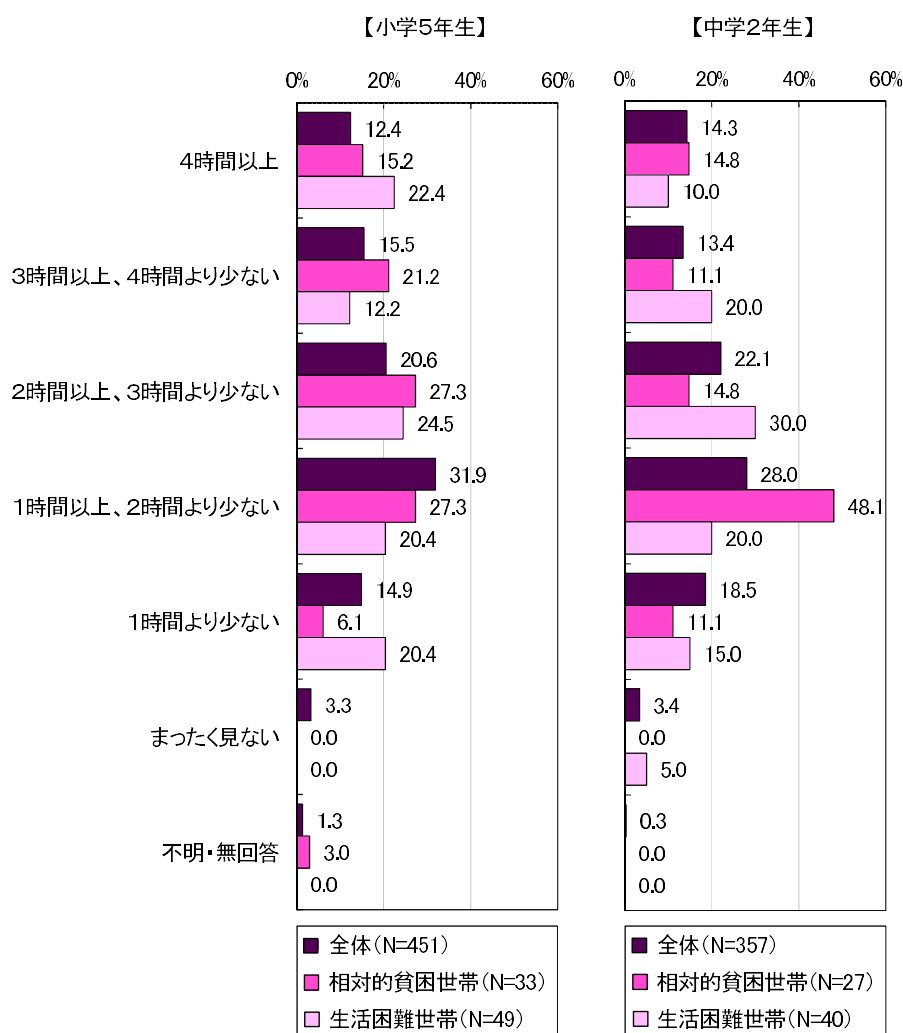
(8) 小括

- 相対的貧困世帯・生活困難世帯においては、朝食、歯みがき、入浴といった日常の基本的な生活習慣において、頻度がやや低い傾向が見られるものがありますが、大きな差はありません。
- 夕食を子どもだけで食べることについては、中学2年生の相対的貧困世帯やひとり親世帯で、頻度が高い傾向があります。

5. 平日（月曜日から金曜日）のすごしかたについて

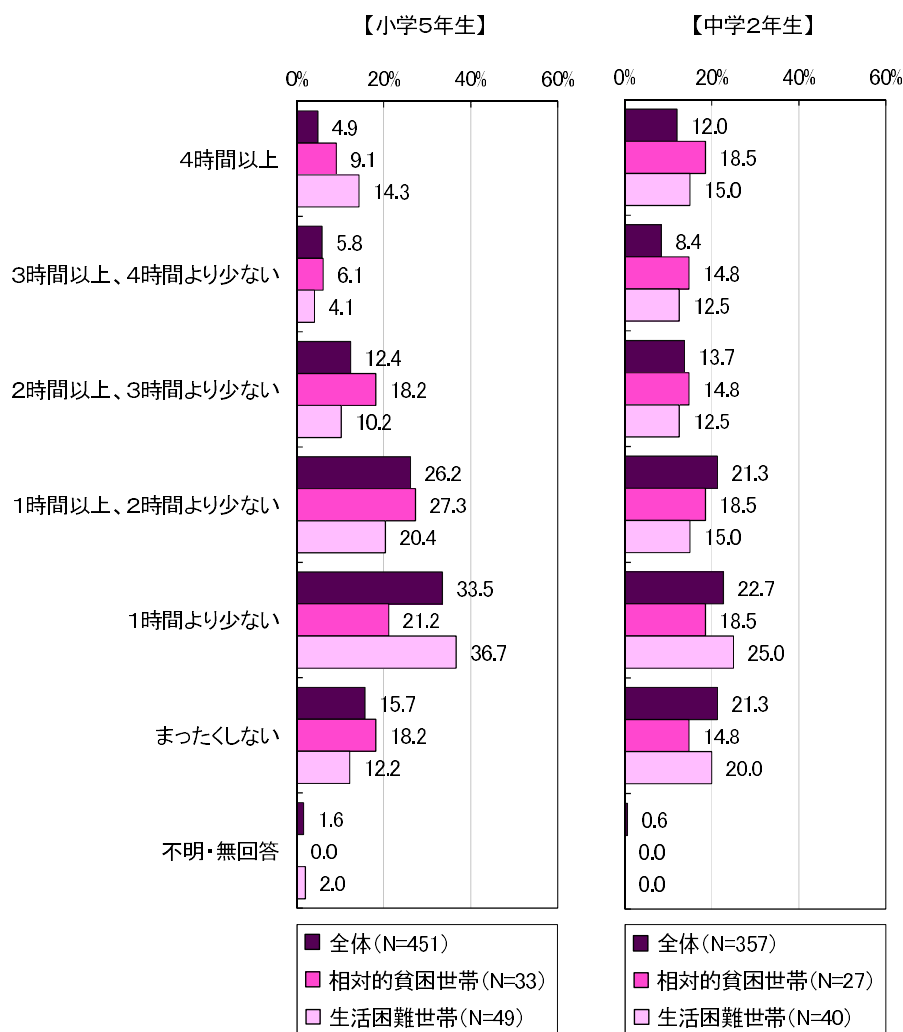
（１）あなたはふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどのくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見ますか（勉強のために見る時間やゲームの時間は除きます）。

小学5年生では、相対的貧困世帯で視聴時間がやや長い傾向が見られます。



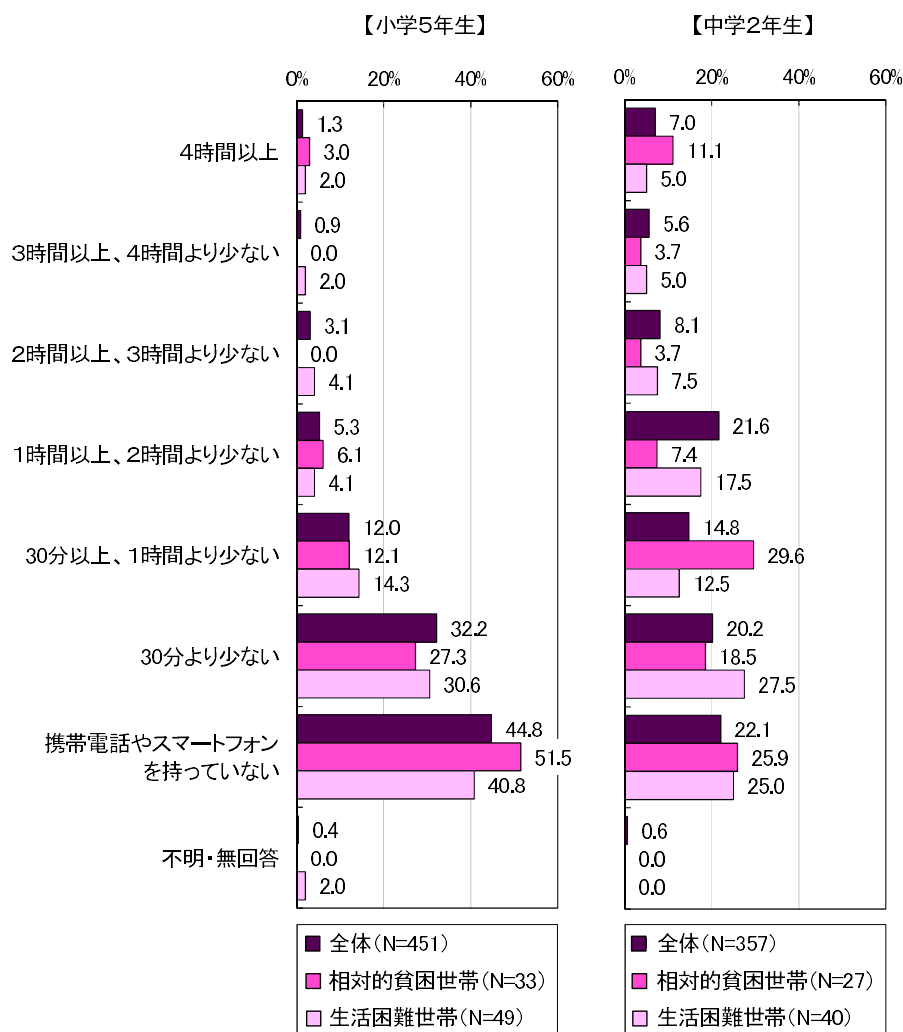
(2) あなたはふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどのくらいの時間、テレビゲームをしますか（コンピューターゲーム、携帯式ゲーム、スマートフォンなどを使ったゲームも含みます）。

小学5年生の相対的貧困世帯では1時間以上という回答が全体より多くなっており、テレビゲームをする時間がやや長い傾向が見られます。中学2年生についても同様に、2時間以上の割合は、相対的貧困世帯の方が高くなっています。



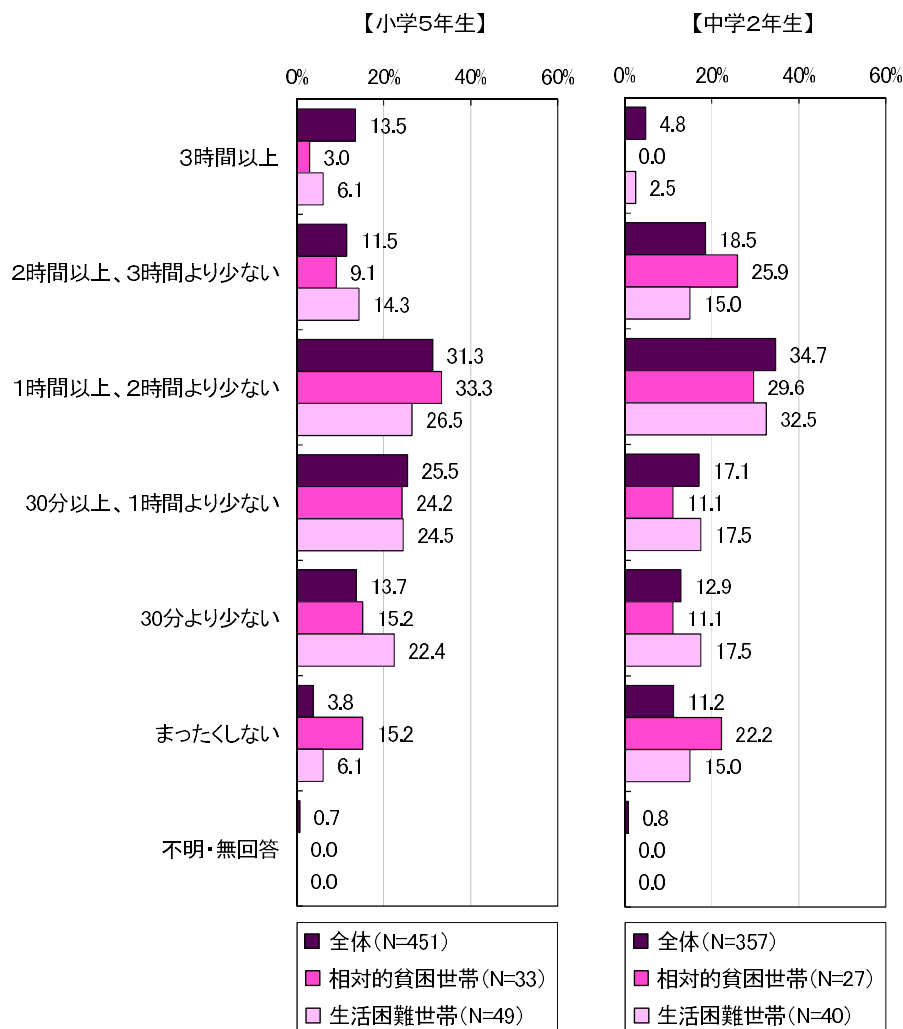
(3) あなたはふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどのくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで電話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます）。

「持っていない」という回答は、小学5年生では約4割、中学2年生では約2割となっています。使用時間は小学5年生では大きな差はありません。中学2年生の相対的貧困世帯では、「30分以上、1時間より少ない」が多く、「1時間以上、2時間より少ない」が少なくなっています。



(4) あなたはふだん（月曜日から金曜日）、学校の授業時間以外に、1日あたりどのくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師の時間も含みます）。

小学5年生の相対的貧困世帯では、全体と比較して「3時間以上」が少なく、「まったくしない」が多くなっています。中学2年生の相対的貧困世帯では、「まったくしない」が多くなっています。



(5) 小括

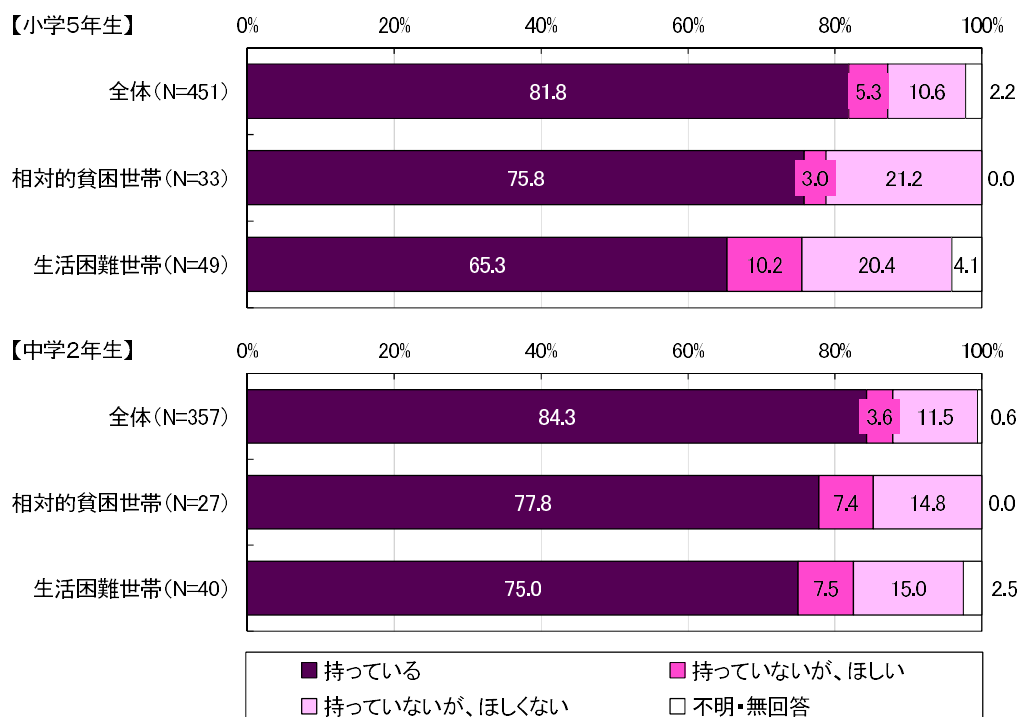
- 相対的貧困世帯では、小学5年生のテレビ、ゲームにおいて、全体と比較して視聴または遊戯時間が長くなっています。
- 家庭学習については、相対的貧困世帯で、平日の家庭学習をまったくしない割合が高くなっています。小学生の段階で、家庭の経済状況によって子どもの学習への意欲や努力に差が生まれていることが考えられます。

6. 家でのすごしかたについて

(1) あなたは下の表に書いてあるものを持っていますか。持っていないければ、ほしいと思いますか。

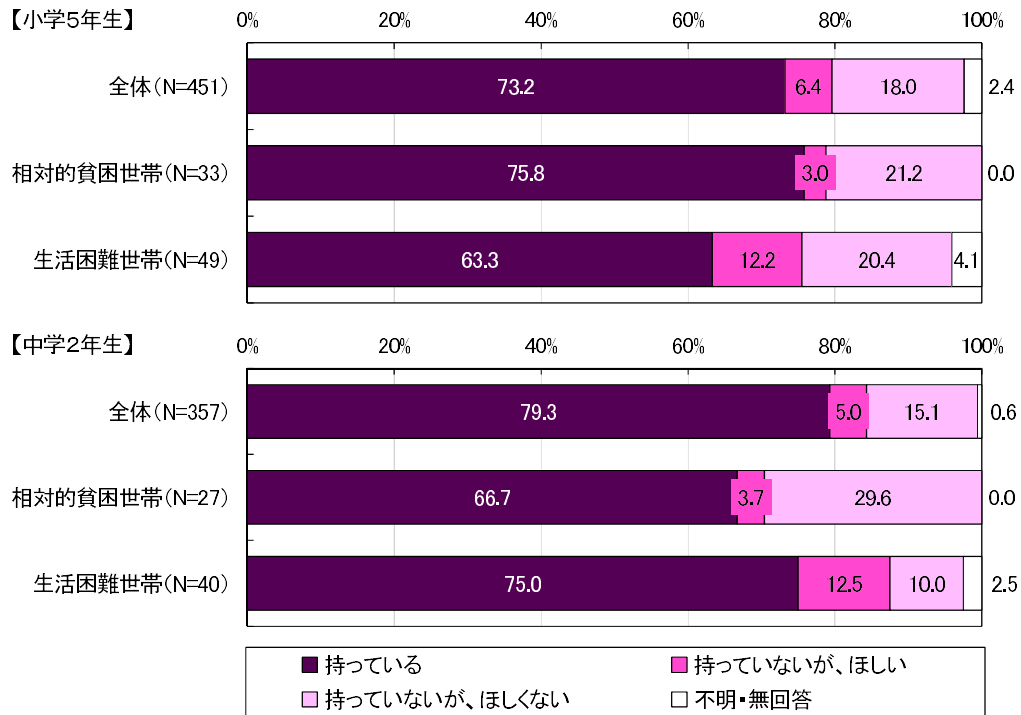
①自分だけの本（教科書・マンガ以外）

小学5年生、中学2年生ともに、全体と比較して相対的貧困世帯・生活困難世帯の所持率が低くなっています。小学5年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯については「持っていないが、ほしくない」という回答の割合が全体の約2倍となっています。



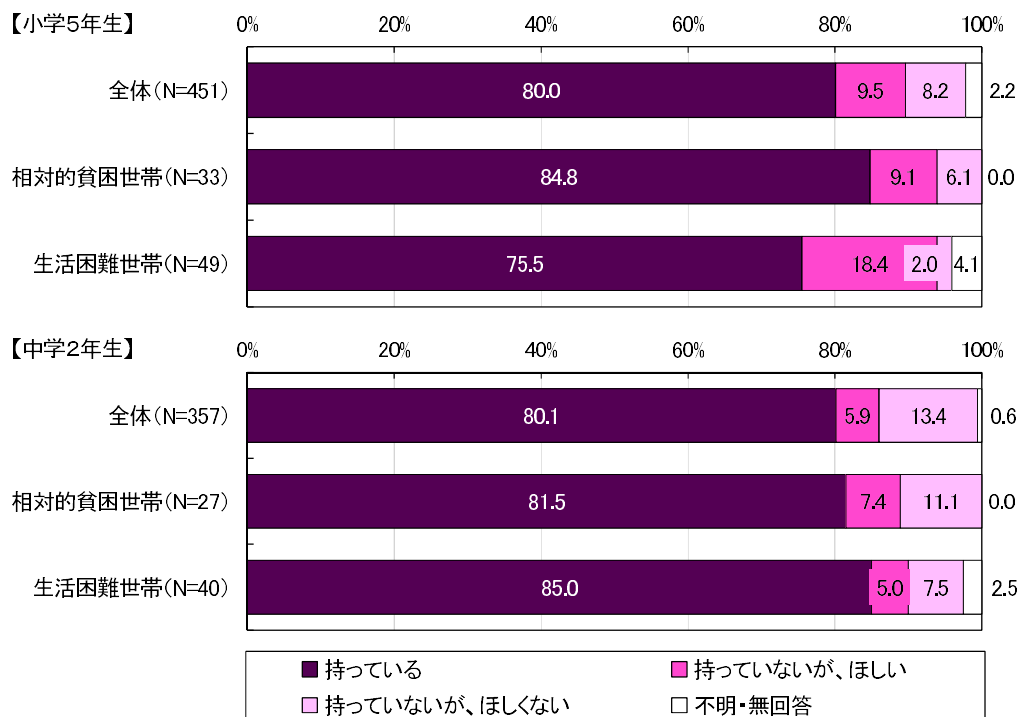
②自分だけのマンガや雑誌

小学5年生の生活困難世帯、中学2年生の相対的貧困世帯で所持率がやや低くなっています。



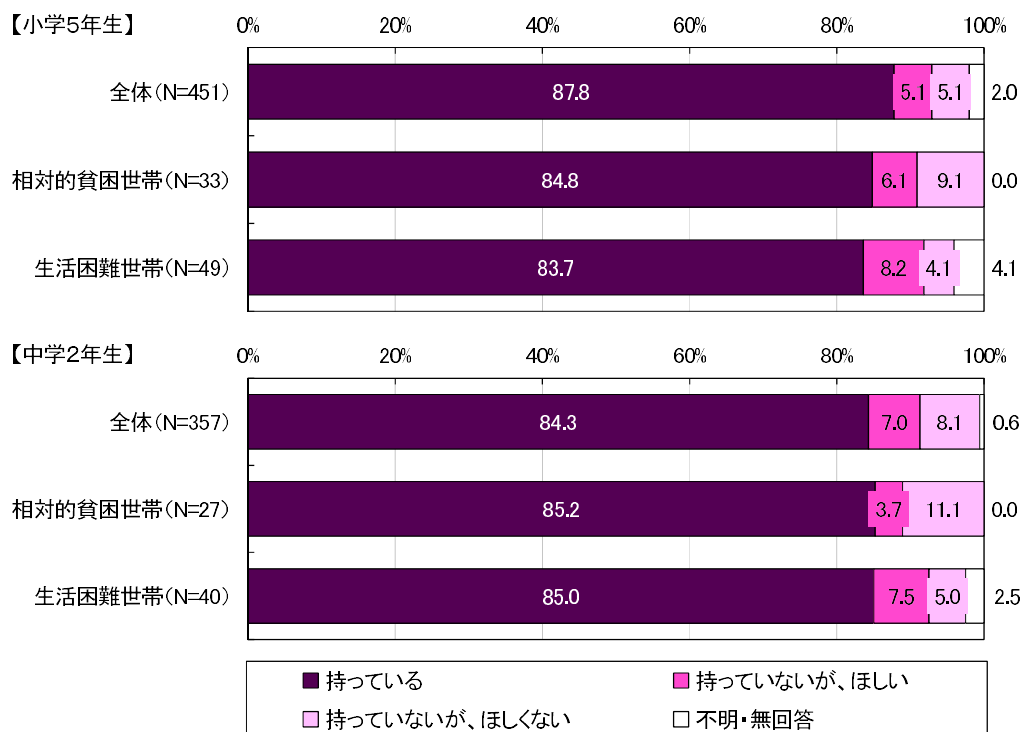
③ゲーム機

全体では約8割が所持しています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても明確な差は見られません。



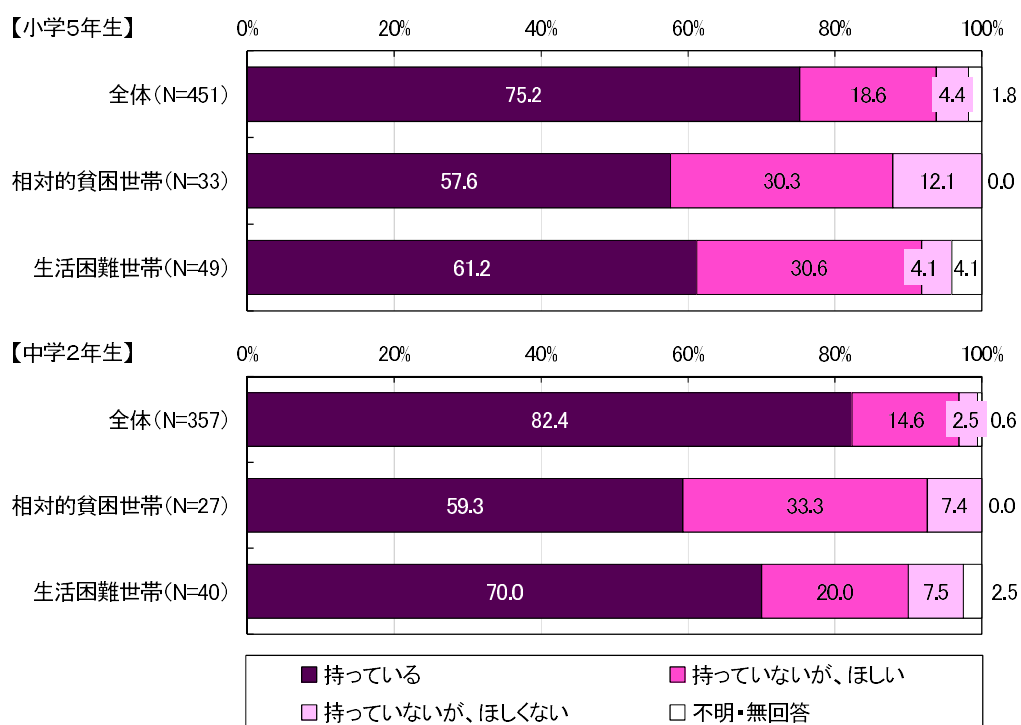
④自転車

全体では約8割以上が所持しています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても明確な差は見られません。



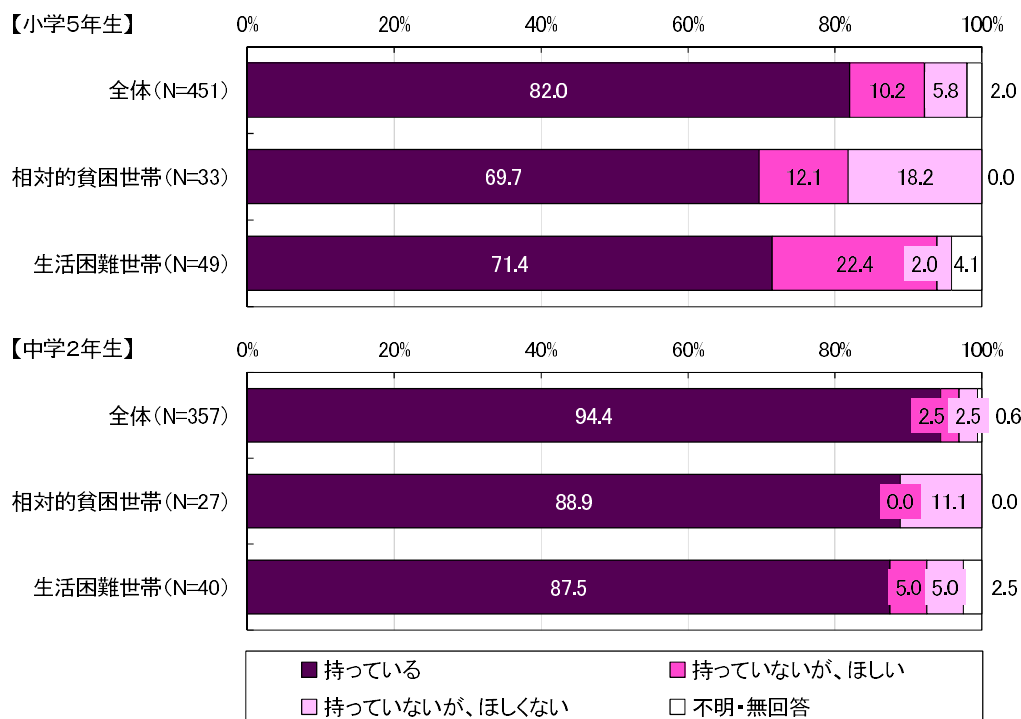
⑤子ども部屋

全体では約8割が子ども部屋を持っていますが、相対的貧困世帯・生活困難世帯では「持っている」が少なく、「持っていないが、ほしい」が多くなっています。



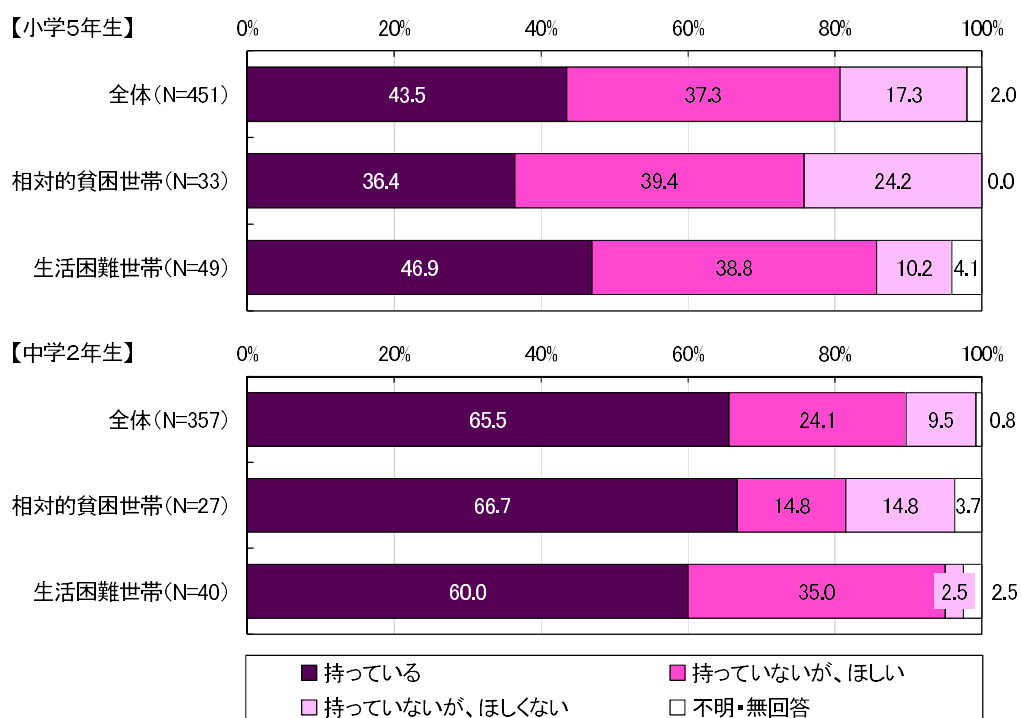
⑥勉強机

全体では、小学5年生の約8割、中学2年生の9割以上が所持しています。小学5年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯では、所持率が低くなっています。



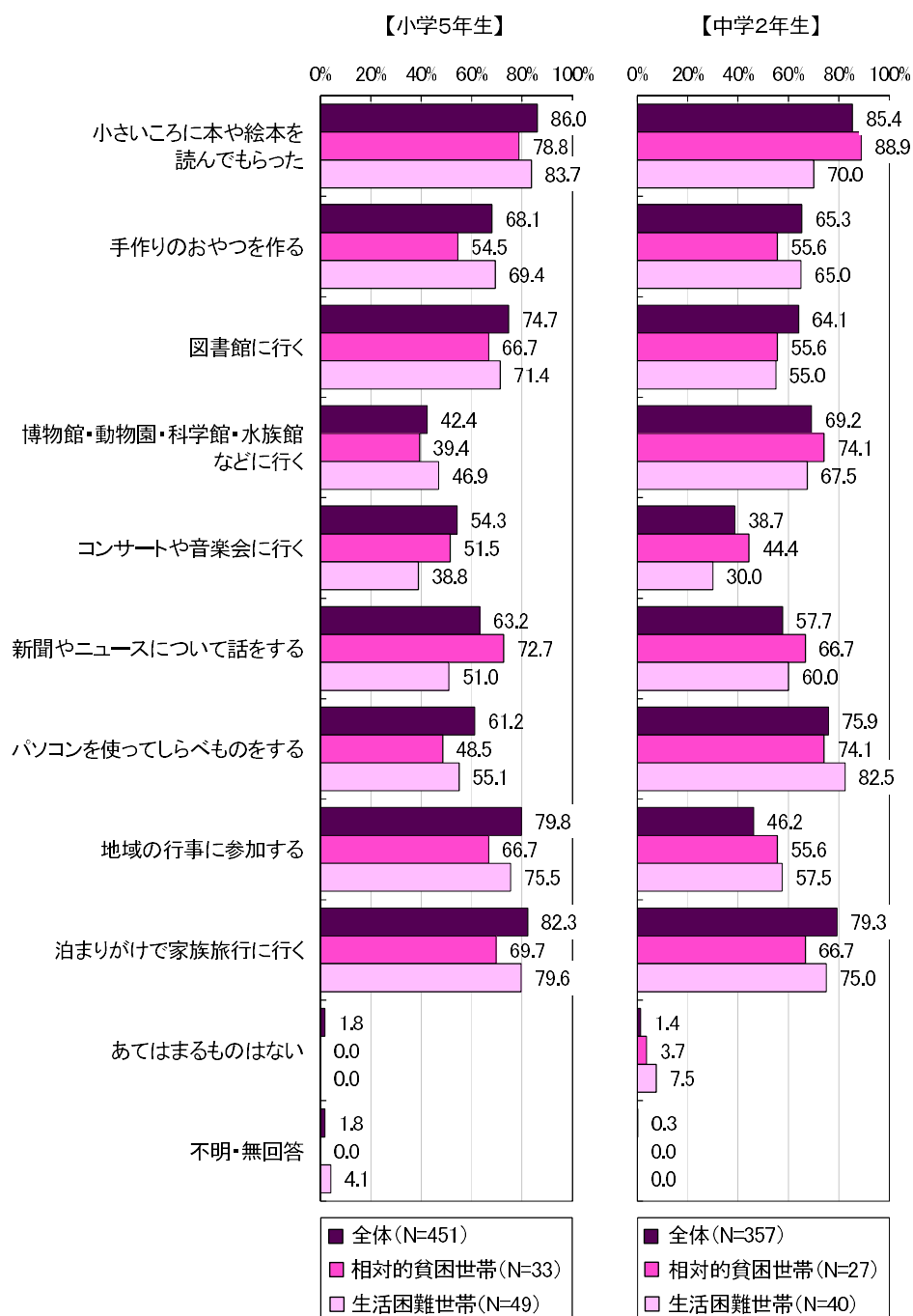
⑦携帯電話・スマートフォン

全体では、小学5年生の約4割、中学2年生の約7割が所持しています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても明確な差は見られません。



(2) あなたの家では、下に書いてあるようなことをすることがありますか。ふだん、すること(したこと)があるもの全部に○をしてください。【複数回答】

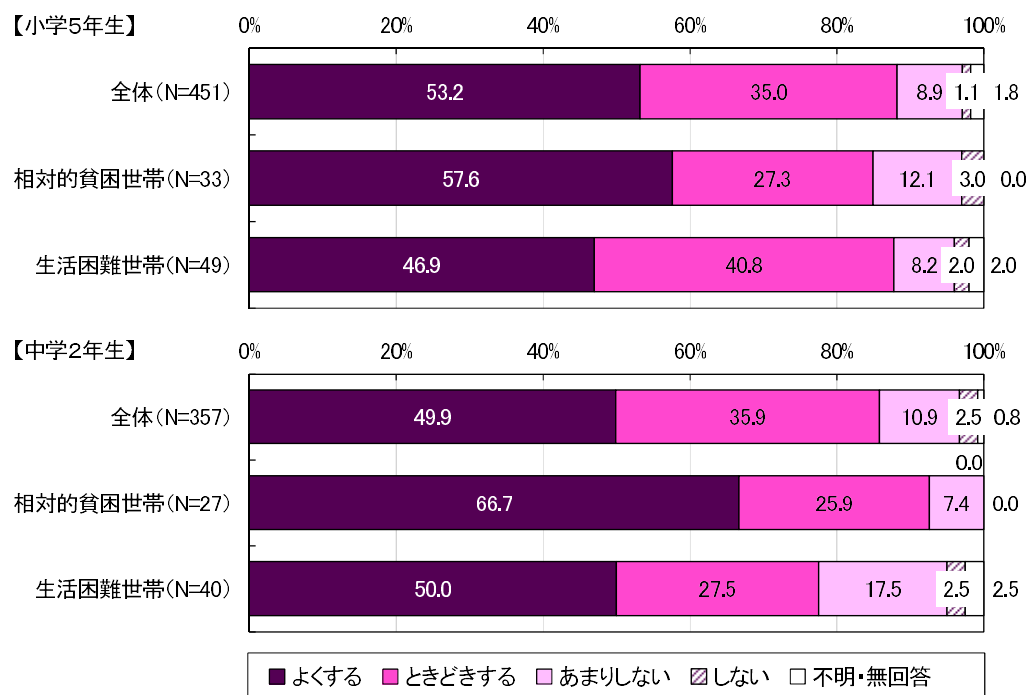
全体と比較して 10 パーセントポイント以上の差がある項目として、小学5年生の相対的貧困世帯では「手作りのおやつを作る」、「パソコンを使ってしらべものをする」、「地域の行事に参加する」「泊まりがけで家族旅行に行く」が少なく、生活困難世帯では「コンサートや音楽会に行く」、「新聞やニュースについて話をする」が少なくなっています。中学2年生の相対的貧困世帯では「泊まりがけで旅行に行く」が少なく、生活困難世帯では「小さいころに本や絵本を読んでもらった」が少ない一方で、「地域の行事に参加する」が多くなっています。



(3) あなたは家で、学校のことを話したり、手伝いをしたりしていますか。

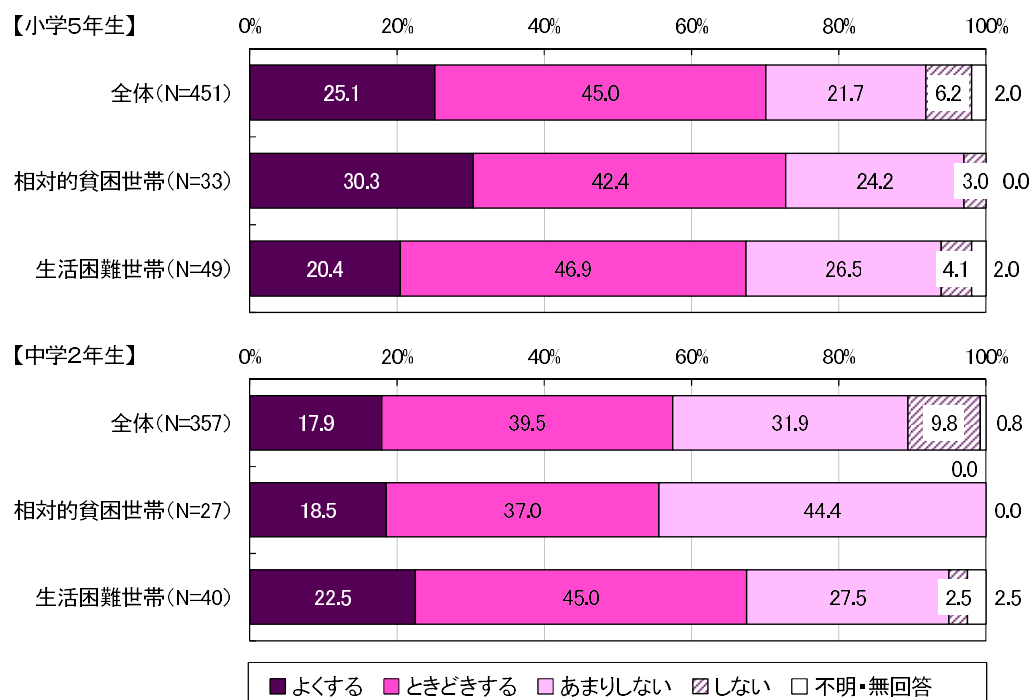
①家族に学校のことを話す

全体では約5割が「よくする」と回答しており、「ときどきする」を合わせると約9割となっています。中学2年生の相対的貧困世帯では、「よくする」という回答が全体より多くなっています。



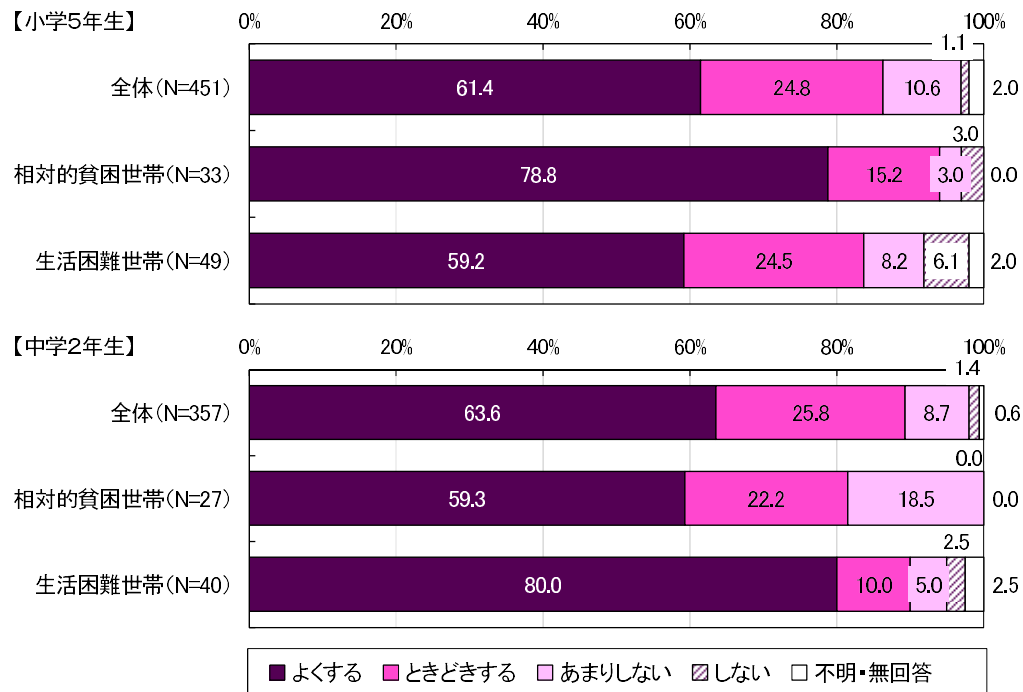
②家の手伝いをする

中学2年生の生活困難世帯では、「よくする」または「ときどきする」という回答が全体と比較してやや多くなっています。また、「しない」という回答は中学2年生の相対的貧困世帯・生活困難世帯で少なくなっています。



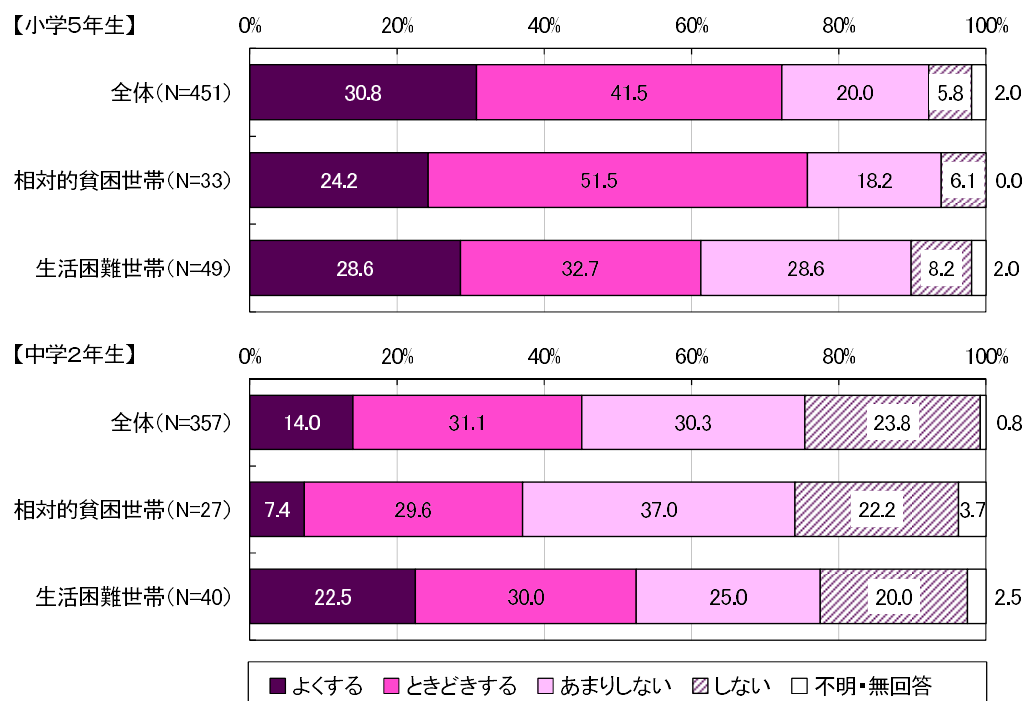
③家族そろって食事をする

「よくする」という回答が全体では約6割ですが、小学5年生の相対的貧困世帯、中学2年生の生活困難世帯では約8割と多くなっています。



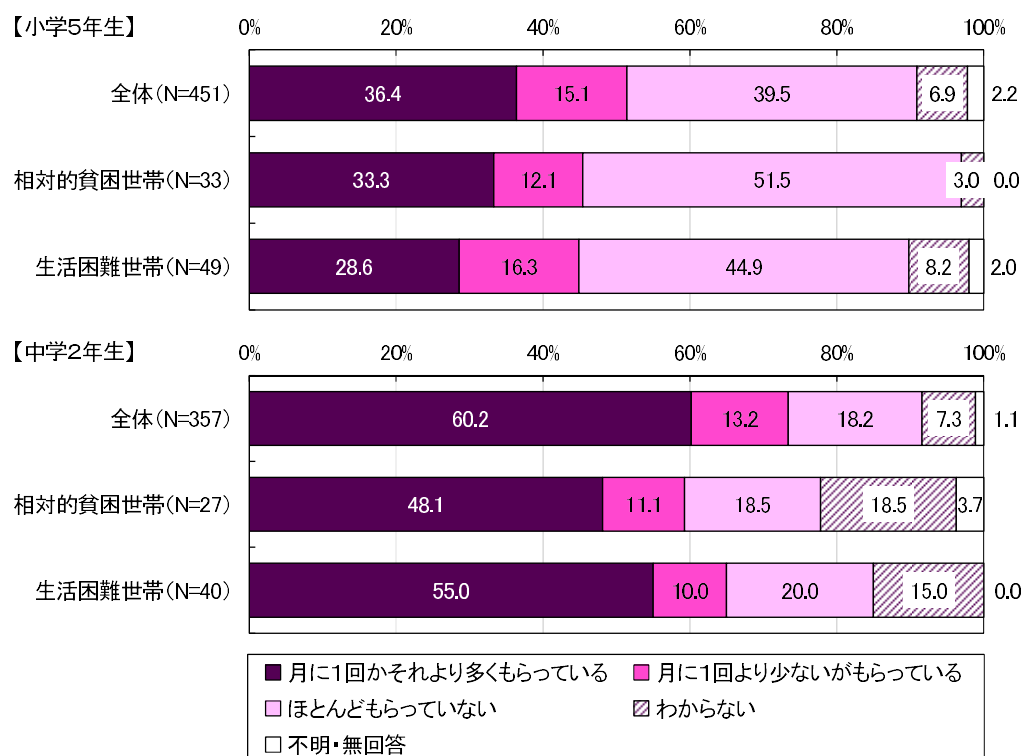
④家族に勉強を教えてもらう

「よくする」または「ときどきする」という回答を全体と比較すると、小学5年生の生活困難世帯でやや少なくなっています。中学2年生では、相対的貧困世帯でやや少なく、生活困難世帯でやや多くなっています。



(4) あなたは家の人からおこづかいをもらっていますか。

小学5年生の相対的貧困世帯では、全体と比較して「ほとんどもらっていない」がやや多くなっています。また、中学2年生の相対的貧困世帯では、「月に1回かそれより多くもらっている」が少なく、「わからない」が多くなっています。



(5) 小括

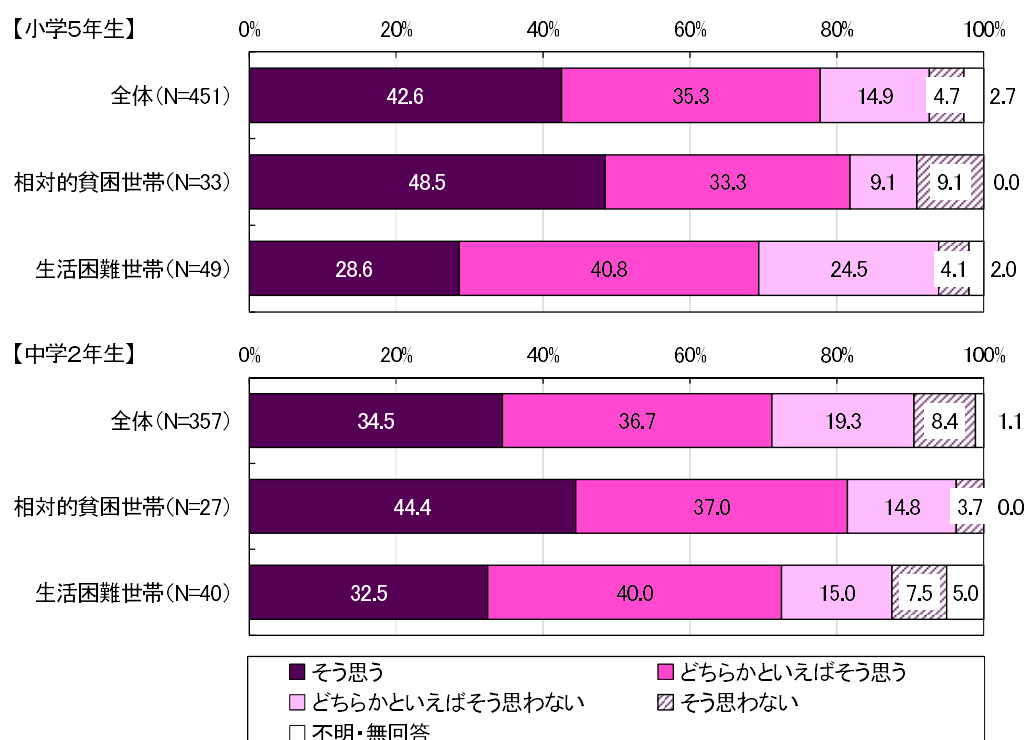
- 物品の所持状況については、書籍、子ども部屋、勉強机については、相対的貧困世帯・生活困難世帯の所持率がやや低い傾向が見られます。一方で、ゲーム機、自転車、携帯電話・スマートフォンについては、あまり差がありません。
- 家族とのかかわりについては、相対的貧困世帯・生活困難世帯の方が、頻度が高い項目もあり、明確な傾向は見られません。

7. あなたの考えについて

(1) あなたは、自分のことについてどう思いますか。

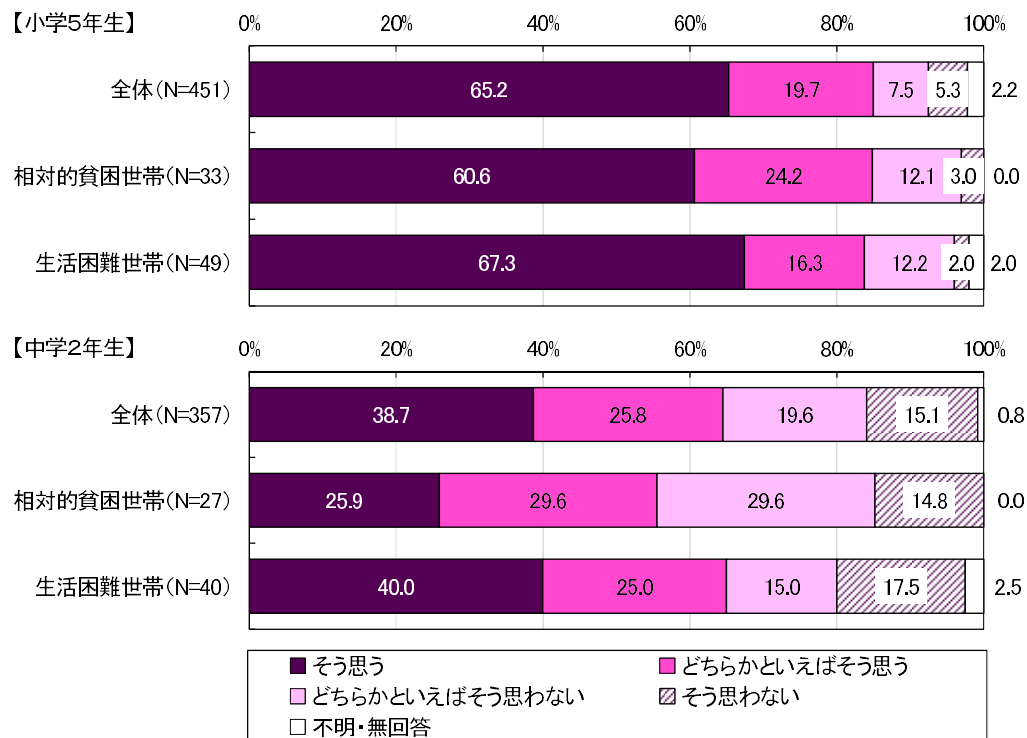
①自分にはよいところがあると思う

全体との比較において、小学5年生の生活困難世帯では、「そう思う」が少なくなっています。中学2年生の相対的貧困世帯では、「そう思う」がやや多く、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」が少なくなっています。



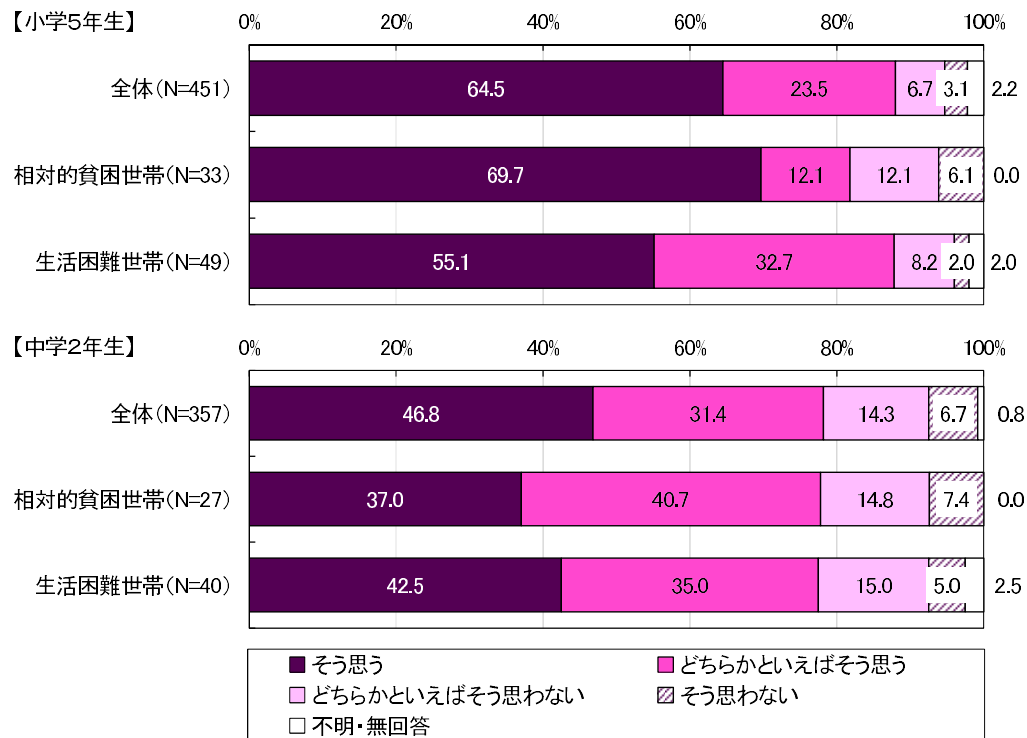
②自分には将来の夢や目標がある

小学5年生では65.2%が「そう思う」と回答し、相対的貧困世帯・生活困難世帯についても明確な差は見られません。中学2年生では、相対的貧困世帯で「そう思う」が少なく、「どちらかといえばそう思う」が少なく、「どちらかといえばそう思わない」が多くなっています。



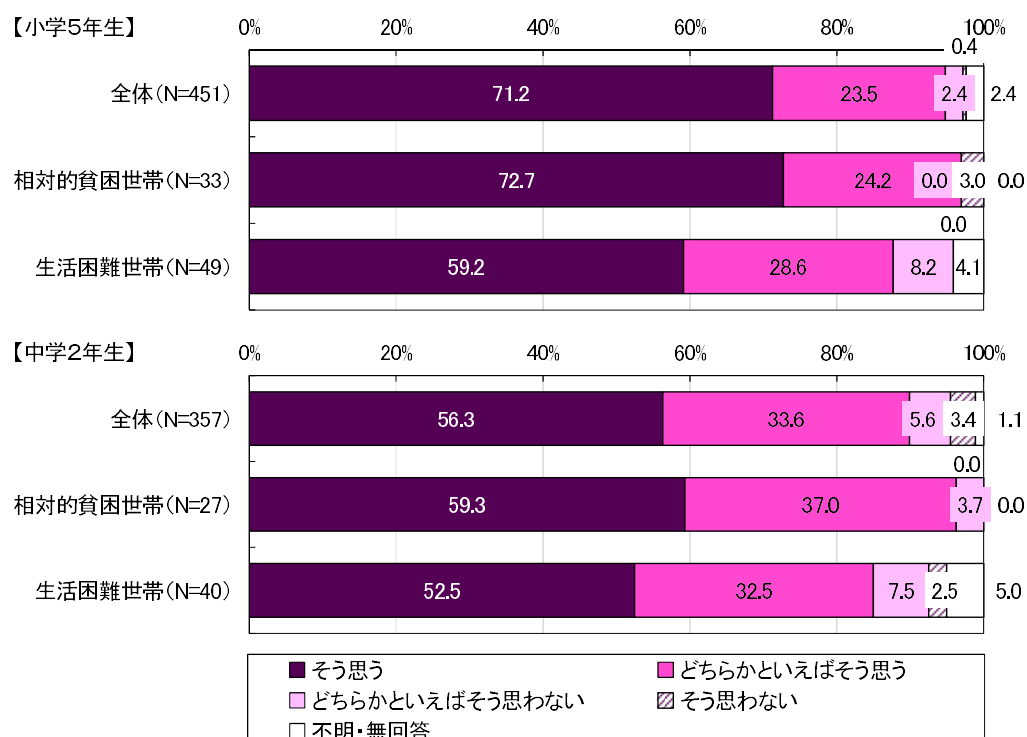
③がんばれば、いいことがある

小学5年生の生活困難世帯、中学2年生の相対的貧困世帯で、「そう思う」がやや少なくなっています。また、小学5年生の相対的貧困世帯については、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」という回答がやや多くなっています。



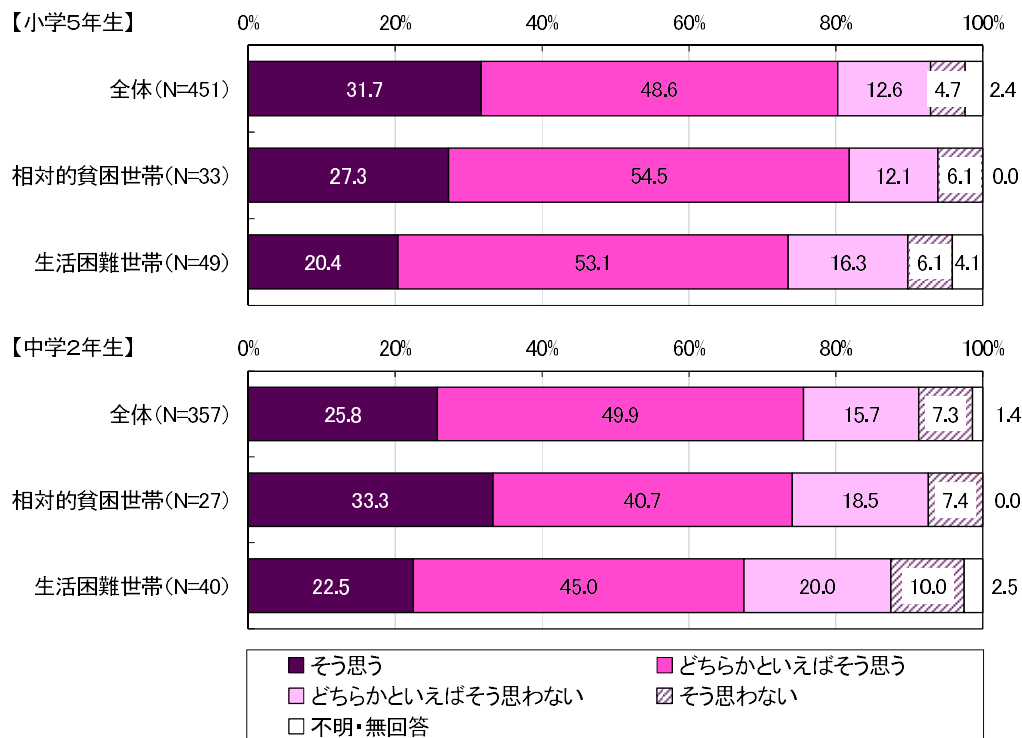
④家族は自分を大切にしている

全体と比較して、小学5年生の生活困難世帯では、「そう思う」が少なく、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」がやや多くなっています。



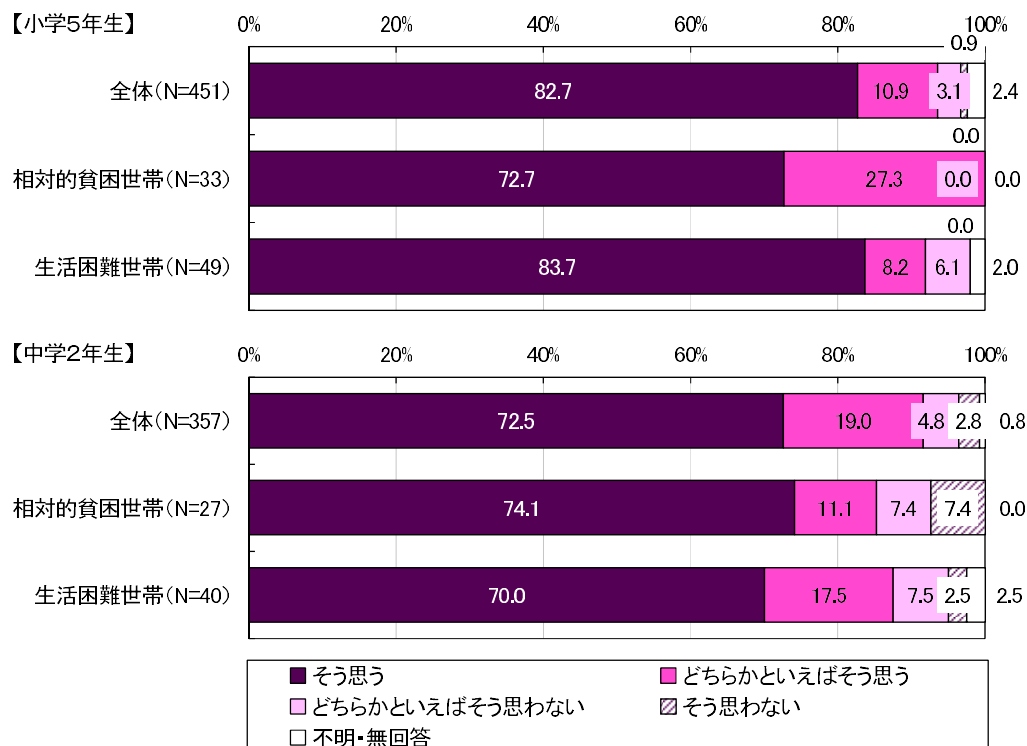
⑤自分は友だちから好かれている

小学5年生の生活困難世帯では、「そう思う」が少なくなっています。



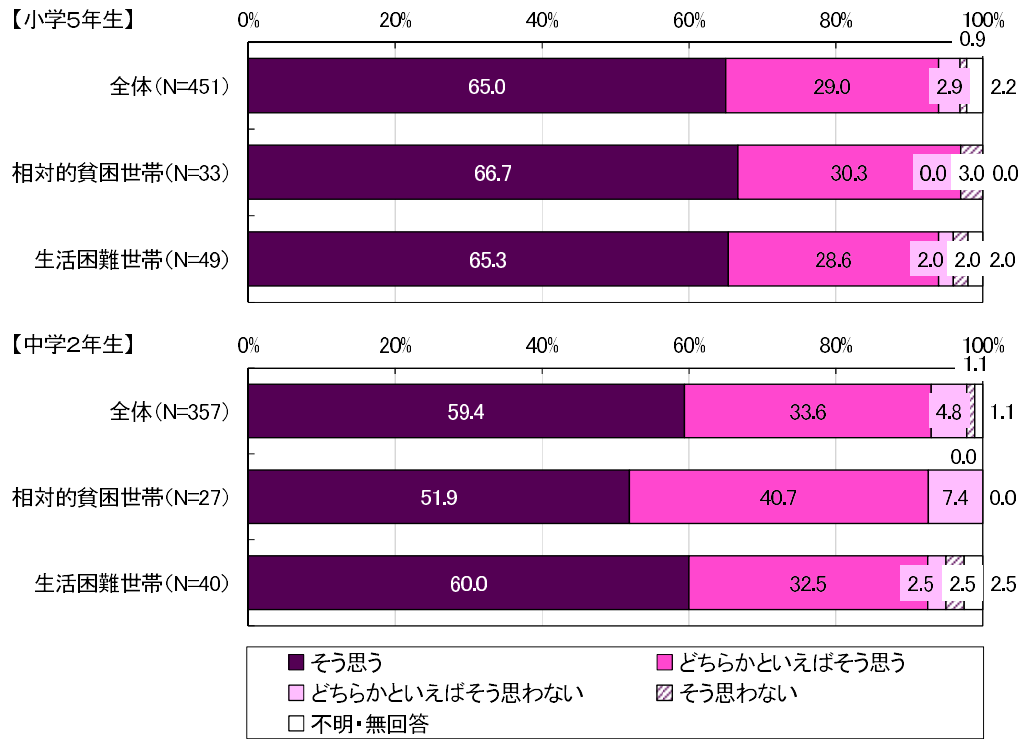
⑥友だちと会うのは楽しい

全体では、「そう思う」が小学5年生で約8割、中学2年生で約7割となっています。小学5年生の相対的貧困世帯では、「そう思う」がやや少なくなっています。



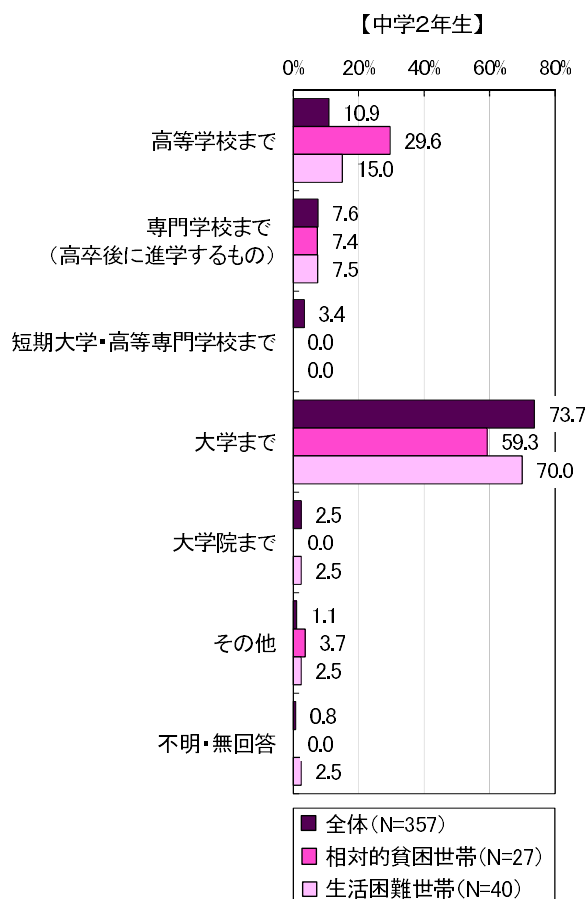
⑦友だちとの約束を守っている

全体では6割前後が「そう思う」と回答しています。相対的貧困世帯・生活困難世帯についても明確な差は見られません。



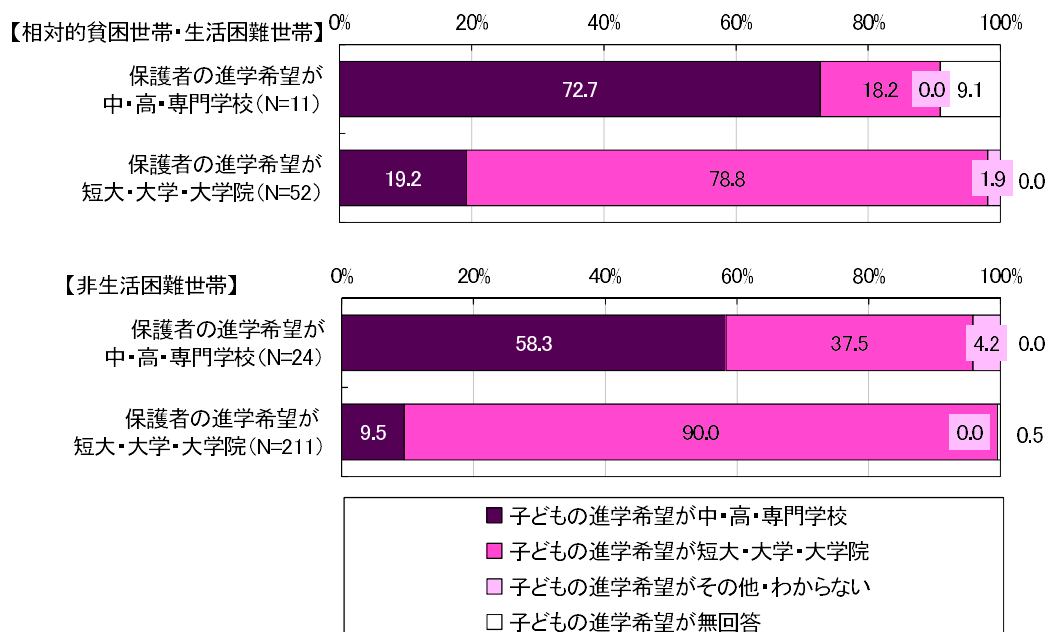
（２）あなたは、将来どれくらいまで進学したいと思いますか。 ※中学生のみ

全体では「大学まで」が 73.7%、「高等学校まで」が 10.9%となっています。相対的貧困世帯では、「大学まで」は 59.3%と少なく、「高等学校まで」が 29.6%と多くなっています。保護者の希望別に子どもの進学希望をみると、相対的貧困世帯・生活困難世帯においては、非生活困難世帯と比較して、保護者の希望より低い進学希望を持つ割合が高く、保護者の希望より高い進学希望を持つ割合が低くなっています。



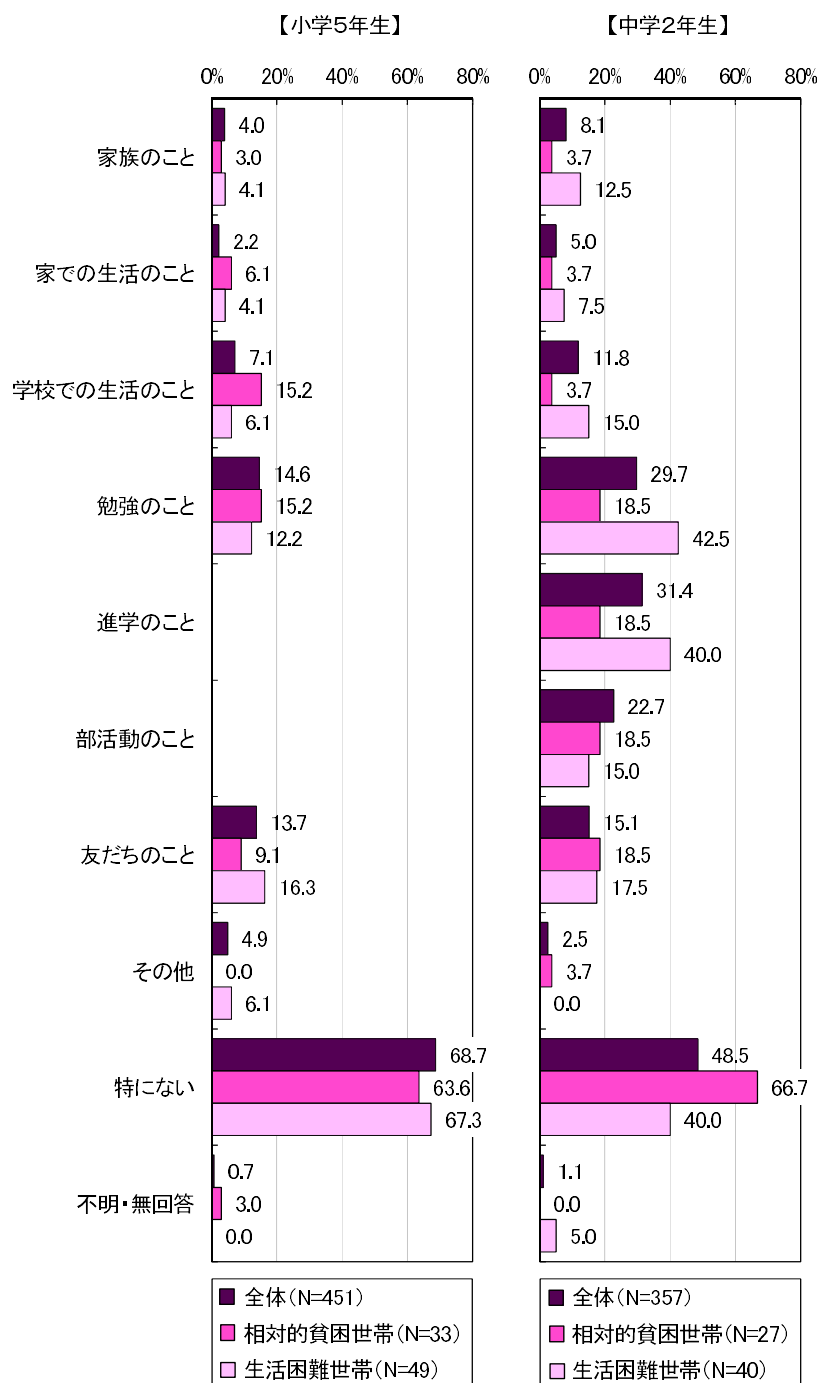
※「中学校まで」については回答がありませんでした。

■保護者の進学希望別にみた子どもの進学希望



(3) あなたには、今悩んでいることや心配なこと、困っていること、だれかに相談したいと思っていることがありますか。【複数回答】

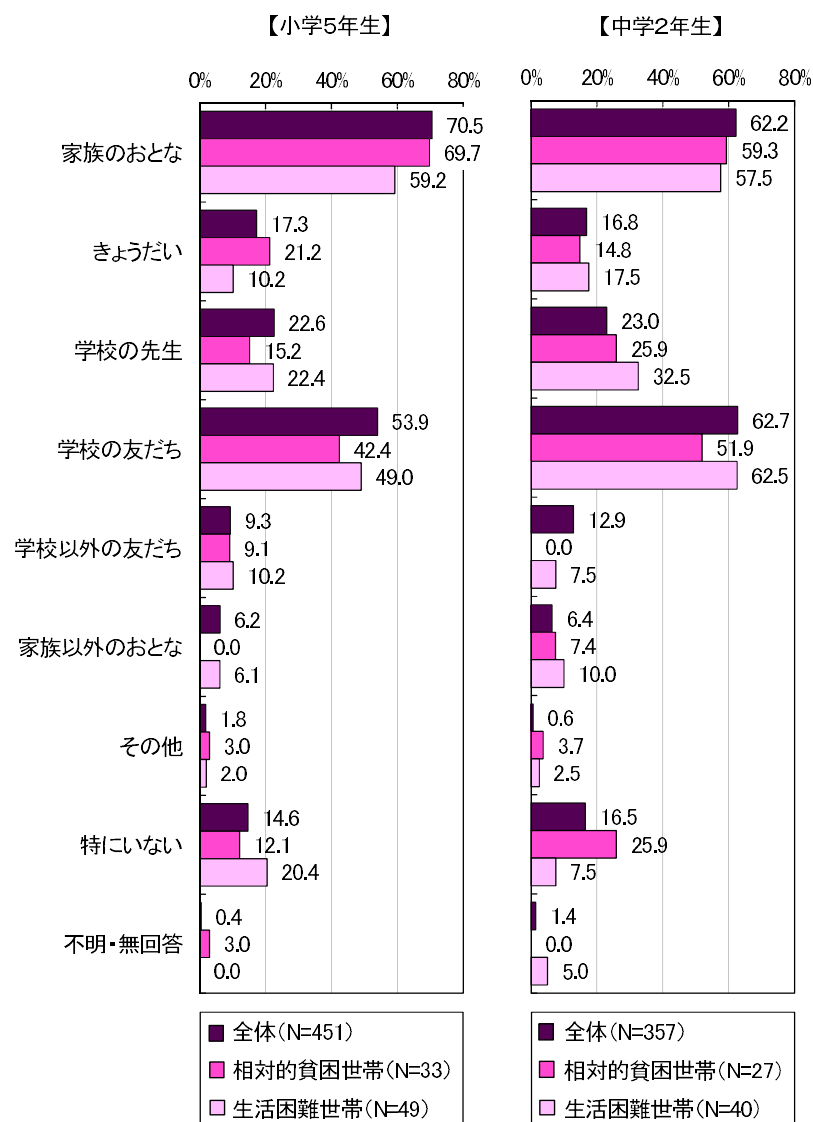
小学5年生では「特にない」が6割台で最も多く、相対的貧困世帯の「学校での生活のこと」という回答が全体よりやや多いことを除けば、明確な差は見られません。中学2年生の相対的貧困世帯では、全体と比較して「特にない」が多くなっており、「勉強のこと」、「進学のこと」、「学校での生活のこと」が少なくなっています。



(4) 悩みや心配ごとがあるとき、話したり、相談したりできる人がいますか。

【複数回答】

小学5年生の相対的貧困世帯では、全体と比較して「学校の友だち」という回答が少なく、生活困難世帯では「家族のおとな」という回答が少なくなっています。中学2年生の相対的貧困世帯では「学校の友だち」が少なく、「特にいない」がやや多くなっています。生活困難世帯では「学校の先生」がやや多く、「特にいない」がやや少なくなっています。



(5) その他、毎日の生活で感じていることがあれば、自由に書いてください。

【自由記述】

自由記述回答の総件数は、小学5年生 99 件、中学2年生 79 件でした。その中で、いくつかの意見を紹介します。

①人間関係について

- 友達が本当に自分のことを友達だと思ってくれているのか、たまに心配になることがある。
- 家族を好きではない。私の救いは学校と好きなアイドルだけだ。

②学校・行政への要望について

- 学校のトイレがとても古くて使いにくい。
- 進学や高校受験についてよくわからないことが多いので、もっと教えてほしい。
- 学校の先生にはとても相談しにくい。もっと生徒にふれてほしい。

③部活動について

- 部活に休みがなさすぎる。朝練も毎日あって週末もあるのでしんどい。
- 土日の練習のときに関係のない人が来るけれど、来てほしくない。

④学校が楽しい・その他

- いつも毎日が楽しくて、明日が楽しみになる。学校でもいじめも全然なくて仲の良い友達もいて私はすごく恵まれているなと思う。
- 特に不満なことや嫌なことは全くといっていいほどない。毎日の学校の授業は楽しみではないけれど、友達に会って一緒に笑い合えるのはとても楽しみ。

(6) 小括

- 自己評価や人間関係に関する考えについては、相対的貧困世帯・生活困難世帯における評価が低いものがいくつか見られますが、明確な傾向は見られません。
- 中学2年生の進学希望については、相対的貧困世帯で「大学まで」が少なく、「高等学校まで」が多くなっており、保護者の意識と比較しても差が大きくなっています。保護者の進学希望別にみた子どもの進学希望について、非生活困難世帯と比較すると、相対的貧困世帯・生活困難世帯では、保護者が高等学校までを希望している場合に子どもが大学・大学院を希望していることは少ないのに対し、保護者が大学・大学院までを希望している場合に子どもが高等学校までしか希望していないことは多くなっています。子どもの進学希望は、保護者の希望以上に家庭の経済的な格差を反映した結果となっていると言えます。
- 悩んでいることや心配なことについて、中学2年生の相対的貧困世帯では、「勉強のこと」、「進学のこと」、「学校での生活のこと」が少なく、「特にない」が多くなっています。実際には、勉強や進学の状況には家庭の経済状況による格差があることを考慮すると、悩みがないということは自分の置かれた状況をあたり前のものとして受け入れてしまっていること、学業や進学について真剣に考えなくなっていることの表れとも考えられます。
- 悩みごとを相談できる人については、相対的貧困世帯で「学校の友だち」という回答が少なくなっています。

IV 分析・考察

1. 家庭背景による分析

社会階層と教育に関する研究では、一般に再生産（親世代の経済状況や地位が子どもに引き継がれること）の要因として、経済的資本、文化的資本、社会的（人間関係）資本の3つがあげられています。そこで、世帯の経済状況にかかわらず、家庭における様々な教育的な働きかけや保護者の意識、文化的背景や保護者の人間関係の状況が、子どもの生活に与える影響を調べるために、次のような指標を設け、それぞれと子どもの自己評価や学校生活との関連を調べました。結果を116～118ページに示しています。

（1）家庭の教育的な働きかけや教育意識の影響

①保護者の教育重視の意識

保護者が教育を重視する意識をどれだけ持っているかに関する指標です。学校の勉強の理解度や、小学5年生の自尊感情（自分にはよいところがあると思うかどうか）との関連があることが示されています。保護者が教育重視の意識を強く持つことで、子どもの自尊感情や勉強の理解度にプラスの影響があると考えられます。

■教育重視の意識の高低に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
次の意見についてどう思いますか。 ○学歴が低いと将来希望する職業につけない ○他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい ○勉強することでいろいろな考えを身につけることができる ○努力すれば夢や希望は実現する ○子どもには一生懸命勉強してほしい	それぞれ、 「そう思う」と回答したものを3点、 「どちらかといえばそう思う」を2点、 「どちらかといえばそう思わない」を1点、 「そう思わない」を0点とし、 合計得点が11点以上を「高」、10点以下を「低」とした。

②保護者の教育的働きかけ

保護者が子どもに対して教育的な働きかけをどの程度しているかに関する指標です。自尊感情や勉強の理解度との関連が示されています。教育重視の意識と比較すると、勉強の理解度との関連がやや弱くなっています。

■教育的働きかけの高低に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。 ○お子さんの勉強をみる ○お子さんが宿題をするように注意する ○お子さんと学校生活の話をする ○お子さんと一緒に料理をする ○お子さんと一緒に外出をする	それぞれ、「ほぼ毎日」と回答したものを4点、 「週に3～4日」を3点、 「週に1～2日」を2点、 「月に1～2日」を1点、 「めったにない」を0点とし、 合計得点が8点以上を「高」、7点以下を「低」とした。

③塾等の有無

塾や家庭教師等、学校での勉強以外に費用のかかる学習活動をしているかどうかの指標です。学校の宿題をしているかどうかや、勉強の理解度との関連が示されています。中でも小学5年生については、通塾等の有無と勉強の理解度には強い関連が見られます。一方、中学2年生については、関連は見られるものの、保護者の教育重視の意識の方が、関連がやや強いと思われます。

■通塾等の有無に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
○お子さんは現在、塾に行ったり習い事をしたりしていますか。 費用がかからないサークル活動などは含めずにお答えください。	「学習塾・進学塾」、「家庭教師」、「通信教育」のいずれかが選択されたものを「有」、いずれも選択されなかったものを「無」とした

(2) 文化的な経験や保護者の人間関係の影響

①文化的な経験・体験

家庭での文化的な活動や多様な体験をしてきたかどうかの指標です。保護者の文化的な意識や考え方を大きく反映するものと考えられます。自尊感情や友人から好かれていると思えるかどうか、中学2年生の宿題の履行とも関連が見られます。多様な体験が、自己評価を高めたり、自ら努力する素地を作ったりすることにつながっている可能性があります。

■文化階層の高低に関する指標

質問(子ども調査)	指標化
○あなたの家では、下に書いてあるようなことをすることがありますか。ふだん、すること(したこと)があるもの全部に○をしてください。 小さいころに本や絵本を読んでもらった／手作りのおやつを作る／図書館に行く 博物館・動物園・科学館・水族館などに行く／コンサートや音楽会に行く 新聞やニュースについて話をする／パソコンを使ってしるべものをする 地域の行事に参加する／泊まりがけで家族旅行に行く／あてはまるものはない	6つ以上の項目が選択されたものを「高」、5つ以下であったものを「低」とした。「あてはまるものはない」が選択された場合は0として数えた。

②保護者が支援を受けられる人間関係

保護者が支援を受けられる人間関係を十分に有しているかどうかの指標です。相対的貧困世帯・生活困難世帯の支援的人間関係「低」を見ると、ほとんどの項目についてマイナスの影響が大きく示されています。経済的に厳しい状況に保護者の孤立という状況が加わることで、子どもへのマイナスの影響が大きくなっていると考えられます。

■保護者の支援的人間関係に関する指標

質問(保護者調査)	指標化
○あなたには、本当に困ったときや悩みがあるとき、相談できる人がいますか。 ○あなたには、緊急時に子どもを預かったり、助けてくれたりする人がいますか。	2つの質問の両方に「いる」と回答したものを「高」、いずれかまたは両方に「いない」と回答したものを「低」とした。

■家庭の状況別にみた子どもの自己評価や学校生活（自尊感情・自己評価）

				N	自分にはよいところがあると思う(%)					自分は友だちから好かれている(%)					
					そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	不明・無回答	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	不明・無回答	
保護者の教育重視の意識	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	20	15.0	45.0	30.0	10.0	0.0	15.0	50.0	30.0	0.0	5.0	
			高	60	43.3	36.7	15.0	3.3	1.7	25.0	56.7	10.0	6.7	1.7	
	非生活困難世帯	低	90	33.3	44.4	12.2	7.8	2.2	28.9	46.7	14.4	7.8	2.2		
			218	49.1	29.8	16.1	1.8	3.2	35.8	46.3	11.5	3.7	2.8		
		中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	24	33.3	37.5	20.8	4.2	4.2	20.8	50.0	16.7	12.5	0.0
				41	39.0	39.0	12.2	7.3	2.4	29.3	41.5	22.0	4.9	2.4	
非生活困難世帯	低	70	28.6	38.6	22.9	8.6	1.4	24.3	51.4	12.9	8.6	2.9			
		175	37.1	36.0	18.9	7.4	0.6	28.6	50.3	15.4	5.1	0.6			
	保護者の教育的働きかけ	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	13	30.8	30.8	38.5	0.0	0.0	23.1	53.8	15.4	0.0	7.7
				66	37.9	37.9	15.2	7.6	1.5	22.7	53.0	15.2	7.6	1.5	
非生活困難世帯		低	32	37.5	31.3	18.8	9.4	3.1	34.4	43.8	18.8	3.1	0.0		
			269	45.7	33.5	14.9	3.0	3.0	33.5	46.1	12.3	5.2	3.0		
中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	34	32.4	44.1	14.7	5.9	2.9	26.5	44.1	23.5	2.9	2.9		
		30	43.3	33.3	13.3	6.7	3.3	30.0	43.3	10.0	16.7	0.0			
	非生活困難世帯	低	125	32.0	34.4	25.6	6.4	1.6	25.6	54.4	13.6	4.0	2.4		
			118	37.3	38.1	15.3	9.3	0.0	28.0	48.3	15.3	8.5	0.0		
通塾等の有無	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	有	33	33.3	45.5	9.1	9.1	3.0	27.3	48.5	9.1	9.1	6.1	
			48	37.5	33.3	25.0	4.2	0.0	18.8	58.3	18.8	4.2	0.0		
	非生活困難世帯	有	200	45.0	33.5	15.5	3.5	2.5	34.5	44.5	14.5	4.5	2.0		
			108	43.5	34.3	14.8	3.7	3.7	32.4	49.1	9.3	5.6	3.7		
	中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	有	43	39.5	41.9	11.6	7.0	0.0	27.9	41.9	20.9	9.3	0.0	
			24	33.3	33.3	20.8	4.2	8.3	25.0	45.8	16.7	8.3	4.2		
非生活困難世帯	有	185	36.8	33.0	21.1	8.6	0.5	27.6	50.8	14.6	5.9	1.1			
		62	29.0	46.8	17.7	4.8	1.6	25.8	51.6	14.5	6.5	1.6			
	文化的な経験・体験	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	33	39.4	36.4	18.2	6.1	0.0	18.2	57.6	15.2	6.1	3.0
				47	34.0	40.4	19.1	6.4	0.0	27.7	51.1	14.9	6.4	0.0	
非生活困難世帯		低	86	37.2	30.2	26.7	5.8	0.0	27.9	48.8	16.3	7.0	0.0		
			220	48.2	36.8	10.9	2.7	1.4	36.8	46.8	11.4	4.1	0.9		
中学2年生		相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	30	33.3	33.3	13.3	13.3	6.7	23.3	26.7	30.0	16.7	3.3	
			37	40.5	43.2	16.2	0.0	0.0	29.7	56.8	10.8	2.7	0.0		
非生活困難世帯	低	98	26.5	40.8	26.5	6.1	0.0	19.4	59.2	13.3	8.2	0.0			
		149	40.3	33.6	16.1	9.4	0.7	32.2	45.6	15.4	5.4	1.3			
保護者の人間関係	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	22	22.7	45.5	22.7	9.1	0.0	18.2	54.5	22.7	4.5	0.0	
			57	42.1	35.1	17.5	5.3	0.0	24.6	54.4	12.3	7.0	1.8		
	非生活困難世帯	低	45	42.2	26.7	20.0	6.7	4.4	31.1	53.3	4.4	6.7	4.4		
			261	45.6	34.5	14.2	3.1	2.7	34.1	45.2	13.8	4.6	2.3		
	中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	19	21.1	42.1	26.3	5.3	5.3	21.1	36.8	36.8	5.3	0.0	
			47	42.6	38.3	10.6	6.4	2.1	27.7	46.8	12.8	10.6	2.1		
非生活困難世帯	低	32	34.4	31.3	25.0	9.4	0.0	18.8	53.1	21.9	6.3	0.0			
		211	35.1	37.4	19.0	7.6	0.9	28.4	50.7	12.8	6.6	1.4			

■家庭の状況別にみた子どもの自己評価や学校生活（学校生活）

					N	あなたは学校にいる時間が楽しいですか(%)					学校の宿題をしていますか(%)				
						楽しい	どちらかといえ ば楽しい	どちらかといえ ば楽しくない	楽しくない	不明・無回答	している	どちらかといえ ばしている	い あまりしていな い	まったくしてい ない	不明・無回答
保護者の教育重視の意識	小学5年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	低	20	40.0	45.0	10.0	5.0	0.0	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	
			高	60	53.3	38.3	1.7	3.3	3.3	81.7	13.3	3.3	0.0	1.7	
		非生活困難世帯	低	90	68.9	23.3	4.4	1.1	2.2	92.2	2.2	3.3	0.0	2.2	
		高	218	63.3	28.4	3.7	1.8	2.8	92.2	4.6	1.8	0.0	1.4		
	中学2年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	低	24	54.2	37.5	4.2	0.0	4.2	70.8	20.8	8.3	0.0	0.0	
			高	41	61.0	17.1	14.6	2.4	4.9	65.9	17.1	14.6	0.0	2.4	
保護者の教育的働きかけ	小学5年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	低	13	53.8	38.5	0.0	7.7	0.0	69.2	23.1	7.7	0.0	0.0	
			高	66	48.5	39.4	4.5	4.5	3.0	84.8	10.6	3.0	0.0	1.5	
		非生活困難世帯	低	32	62.5	31.3	0.0	0.0	6.3	93.8	3.1	0.0	0.0	3.1	
		高	269	65.1	26.4	4.5	1.9	2.2	91.8	4.1	2.6	0.0	1.5		
	中学2年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	低	34	55.9	35.3	2.9	0.0	5.9	70.6	17.6	8.8	0.0	2.9	
			高	30	60.0	13.3	20.0	3.3	3.3	70.0	10.0	16.7	3.3	0.0	
通塾等の有無	小学5年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	有	33	51.5	42.4	3.0	0.0	3.0	87.9	12.1	0.0	0.0	0.0	
			無	48	47.9	37.5	4.2	8.3	2.1	79.2	12.5	6.3	0.0	2.1	
		非生活困難世帯	有	200	66.0	27.0	3.5	1.5	2.0	94.5	3.5	0.5	0.0	1.5	
		無	108	63.0	26.9	4.6	1.9	3.7	88.0	4.6	5.6	0.0	1.9		
	中学2年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	有	43	60.5	25.6	9.3	2.3	2.3	67.4	23.3	9.3	0.0	0.0	
			無	24	54.2	20.8	16.7	0.0	8.3	66.7	8.3	16.7	4.2	4.2	
文化的な経験・体験	小学5年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	低	33	51.5	36.4	3.0	9.1	0.0	87.9	12.1	0.0	0.0	0.0	
			高	47	48.9	40.4	4.3	2.1	4.3	80.9	10.6	6.4	0.0	2.1	
		非生活困難世帯	低	86	58.1	32.6	5.8	2.3	1.2	90.7	5.8	3.5	0.0	0.0	
		高	220	68.6	24.5	3.6	1.4	1.8	94.1	3.2	1.8	0.0	0.9		
	中学2年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	低	30	53.3	16.7	16.7	3.3	10.0	60.0	23.3	10.0	3.3	3.3	
			高	37	62.2	29.7	8.1	0.0	0.0	73.0	13.5	13.5	0.0	0.0	
保護者の支援の人間関係	小学5年生	相対的貧困世帯・ 生活困難世帯	低	98	64.3	25.5	6.1	3.1	1.0	62.2	21.4	12.2	4.1	0.0	
			高	149	56.4	31.5	6.0	3.4	2.7	79.2	12.8	6.7	0.0	1.3	
		非生活困難世帯	低	32	62.5	31.3	3.1	0.0	3.1	62.5	21.9	15.6	0.0	0.0	
		高	211	59.7	28.9	6.2	3.8	1.4	74.4	15.6	7.6	1.4	0.9		

■家庭の状況別にみた子どもの自己評価や学校生活（勉強の理解度）

				N	学校の勉強がよくわかりますか(%)					
					いつもよくわかる	か る だ い た い よ く わ か る	ない ど ち ら と も い え	あまりよくわからない	よくわからない	不明・無回答
保護者の教育重視の意識	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	20	10.0	45.0	30.0	10.0	5.0	0.0
			高	60	30.0	55.0	8.3	3.3	1.7	1.7
		非生活困難世帯	低	90	27.8	61.1	7.8	1.1	0.0	2.2
			高	218	39.4	45.9	10.6	1.8	0.0	2.3
	中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	24	0.0	45.8	41.7	8.3	4.2	0.0
			高	41	12.2	43.9	22.0	17.1	2.4	2.4
保護者の教育的働きかけ	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	13	15.4	46.2	30.8	7.7	0.0	0.0
			高	66	25.8	53.0	10.6	4.5	4.5	1.5
		非生活困難世帯	低	32	25.0	59.4	9.4	3.1	0.0	3.1
			高	269	37.9	49.1	9.3	1.5	0.0	2.2
	中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	34	5.9	52.9	26.5	8.8	2.9	2.9
			高	30	10.0	30.0	33.3	23.3	3.3	0.0
通塾等の有無	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	有	33	30.3	54.5	15.2	0.0	0.0	0.0
			無	48	20.8	50.0	12.5	8.3	6.3	2.1
		非生活困難世帯	有	200	44.5	46.0	7.0	0.5	0.0	2.0
			無	108	20.4	58.3	14.8	3.7	0.0	2.8
	中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	有	43	7.0	44.2	32.6	14.0	2.3	0.0
			無	24	8.3	41.7	25.0	16.7	4.2	4.2
文化的な経験・体験	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	33	27.3	48.5	12.1	6.1	6.1	0.0
			高	47	23.4	53.2	14.9	4.3	2.1	2.1
		非生活困難世帯	低	86	32.6	48.8	15.1	2.3	0.0	1.2
			高	220	37.7	51.8	7.7	1.4	0.0	1.4
	中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	30	3.3	46.7	26.7	16.7	3.3	3.3
			高	37	10.8	40.5	32.4	13.5	2.7	0.0
保護者の支援的人間関係	小学5年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	22	22.7	45.5	13.6	4.5	13.6	0.0
			高	57	26.3	52.6	14.0	5.3	0.0	1.8
		非生活困難世帯	低	45	37.8	53.3	8.9	0.0	0.0	0.0
			高	261	35.6	50.2	9.6	1.9	0.0	2.7
	中学2年生	相対的貧困世帯・生活困難世帯	低	19	0.0	52.6	21.1	21.1	0.0	5.3
			高	47	10.6	40.4	31.9	12.8	4.3	0.0
		非生活困難世帯	低	32	6.3	50.0	31.3	6.3	6.3	0.0
			高	211	12.8	54.0	21.3	8.5	2.4	0.9

2. 全国調査との比較からみた宝塚市の特徴

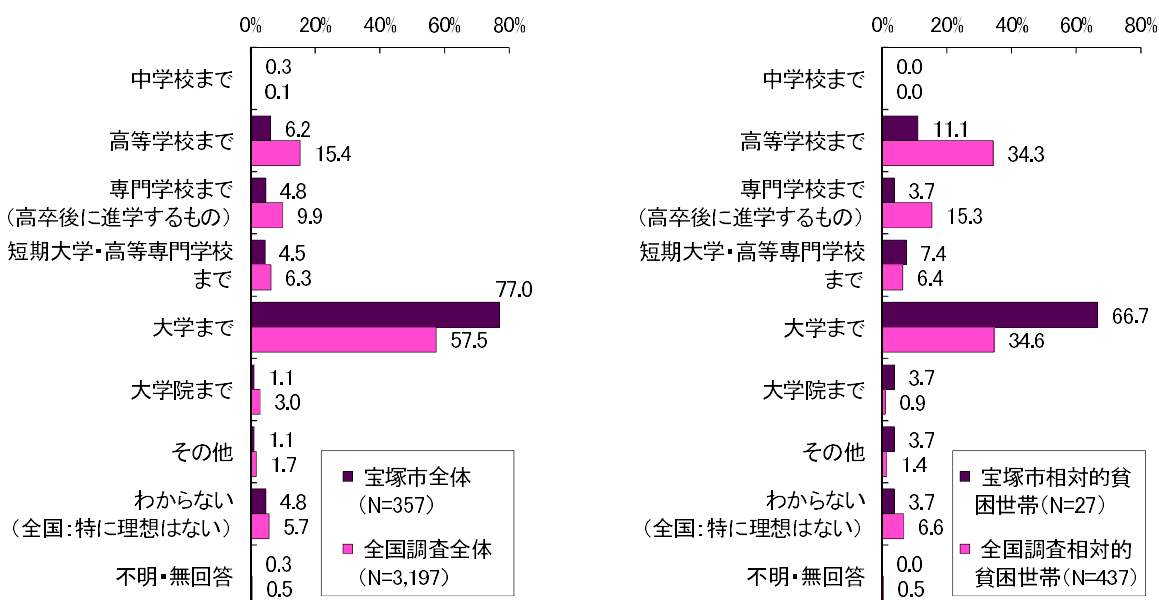
宝塚市の特徴を抽出するために、全国調査との比較を行いました。比較したのは、平成 23 年に内閣府が実施した「親と子の生活意識に関する調査」（以下全国調査と言う。）です。全国調査の対象は中学 3 年生とその保護者であるため、本調査の中学 2 年生の回答と比較しています。結果の解釈にあたっては、学年や調査時期が異なることに留意する必要があります。

全国調査との比較によって、本市には次のような特徴があることがうかがえます。

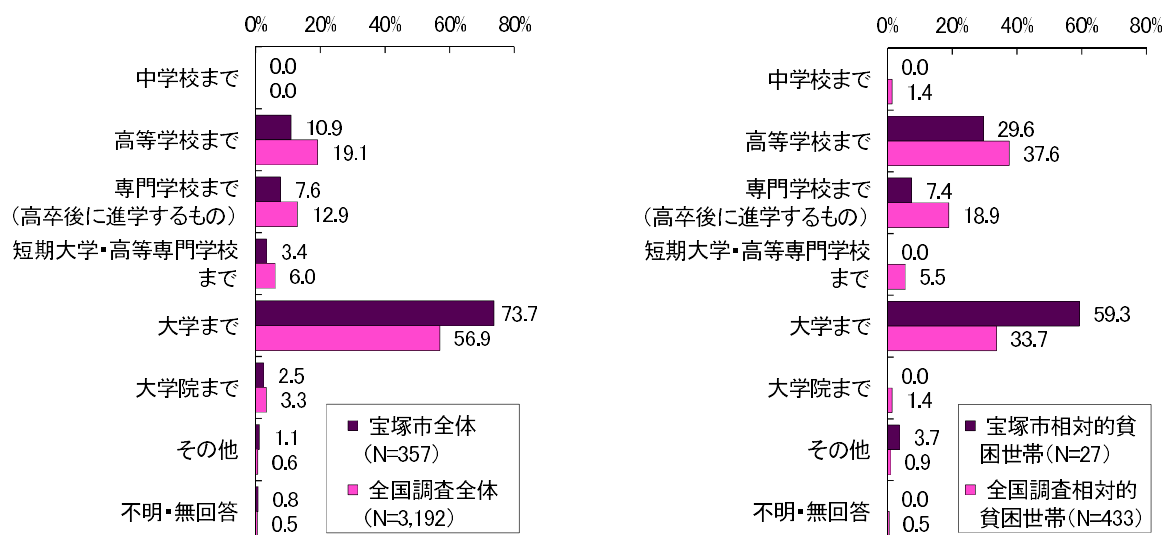
（１）進学希望

保護者調査、子ども調査（中学生）ともに、大学への進学希望が高く、特に相対的貧困世帯の進学希望は全国調査を大幅に上回っています。

■進学希望（中学生保護者）



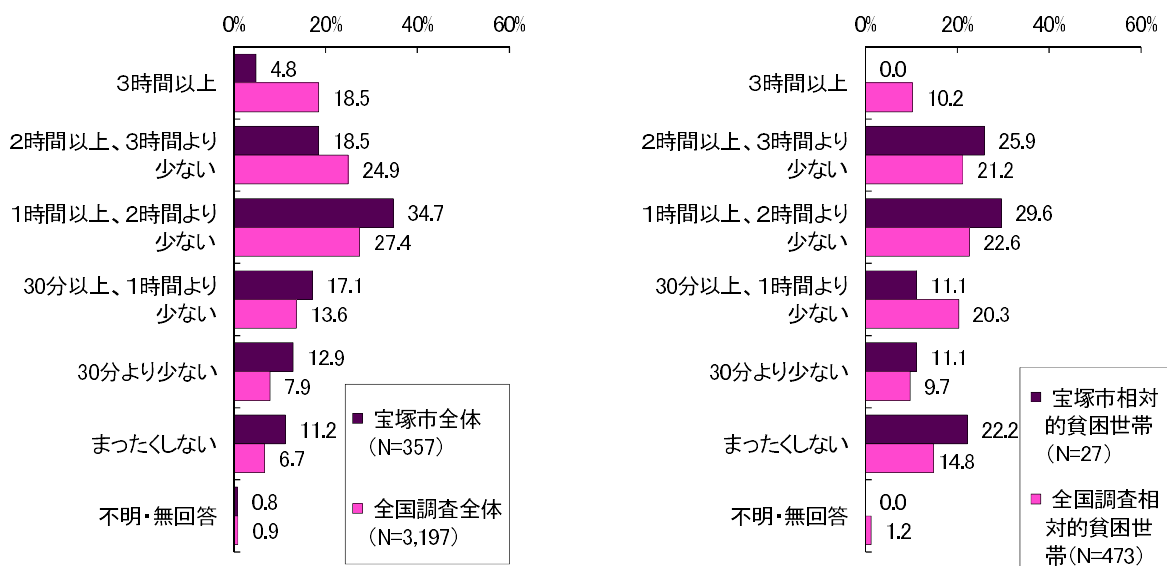
■進学希望（中学生）



（２）家庭学習

家庭学習の時間については、全体では全国調査と比較して宝塚市の方が、学習時間が少ない傾向にあります。一方、相対的貧困世帯については、「まったくしない」が多いものの、全体的には全国調査とほぼ同程度の学習時間となっています。

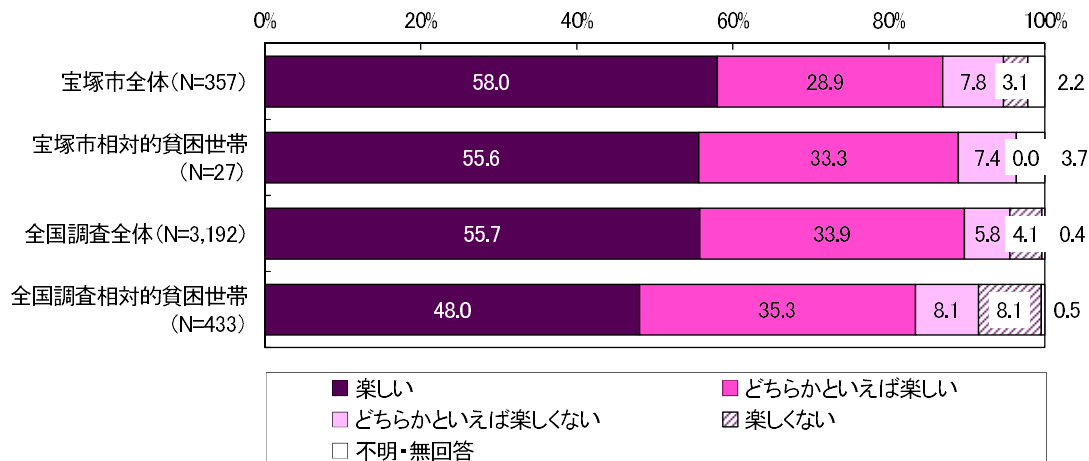
■平日の学校の授業以外の勉強時間（中学生）



(3) 学校の楽しさ

学校を楽しいと思うかどうかについても、全体では全国調査と大きな差はない一方で、相対的貧困世帯では「楽しい」という回答がやや多くなっており、全国調査と比較して、全体と相対的貧困世帯の差が小さくなっています。

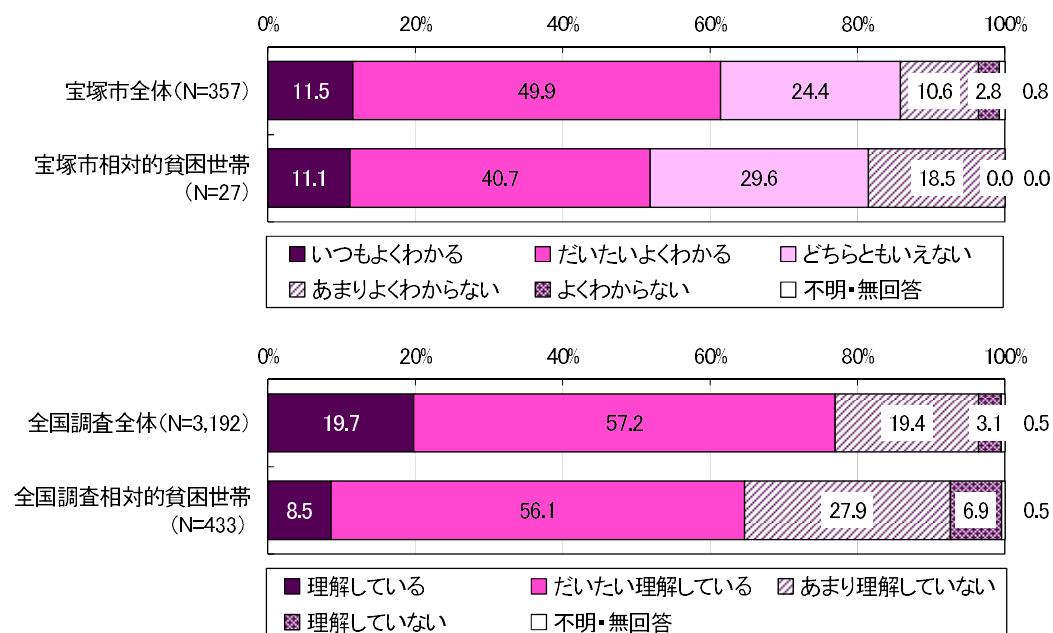
■学校にいる時間が楽しいか（中学生）



(4) 授業の理解度

授業の理解度に関する質問については、質問形式が異なっていますが、宝塚市の方が全体と相対的貧困世帯の差が小さくなっています。学校の楽しさについての結果とあわせて考えると、全国調査との比較において、宝塚市の中学校は、家庭環境が厳しい子どもにとっても、比較的通いやすく学びやすい環境ができている可能性があります。

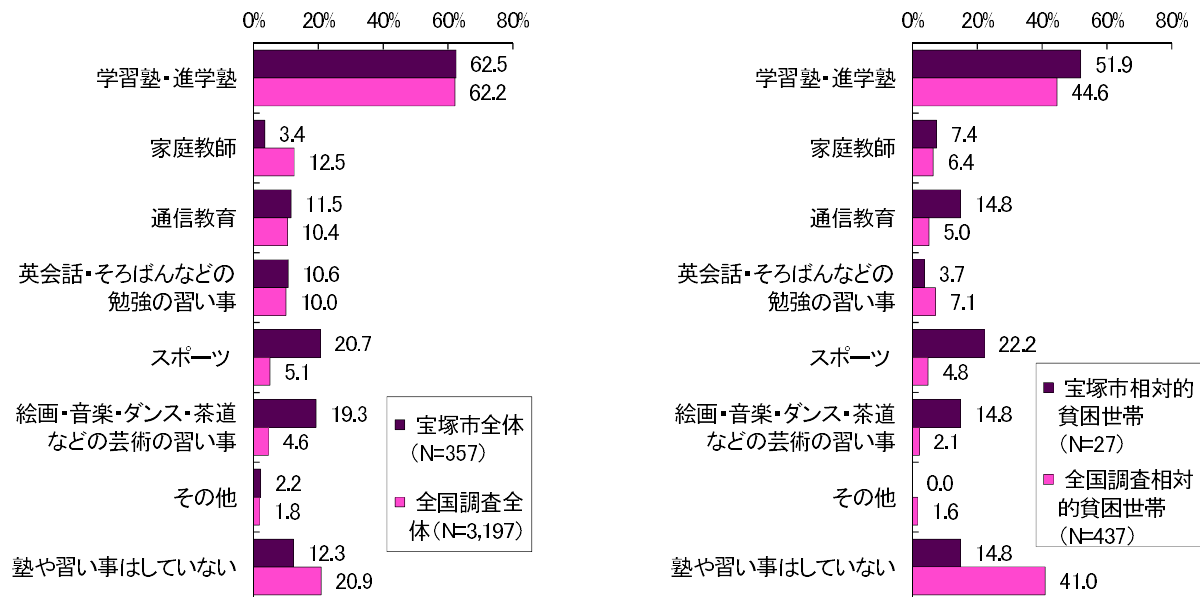
■学校の勉強がよくわかるか



(5) 塾・習い事

塾や習い事については、全体では「スポーツ」、「芸術の習い事」が全国調査より多くなっています。相対的貧困世帯についても同様の傾向があり、「学習塾・進学塾」、「通信教育」の割合もやや高くなっています。全国調査と比較して、全体と相対的貧困世帯の差が小さくなっています。

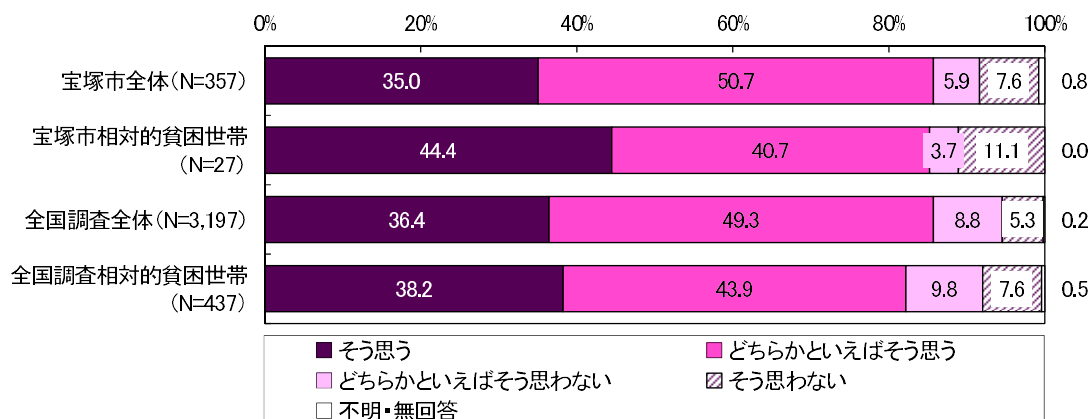
■ 塾・習い事（中学生保護者）



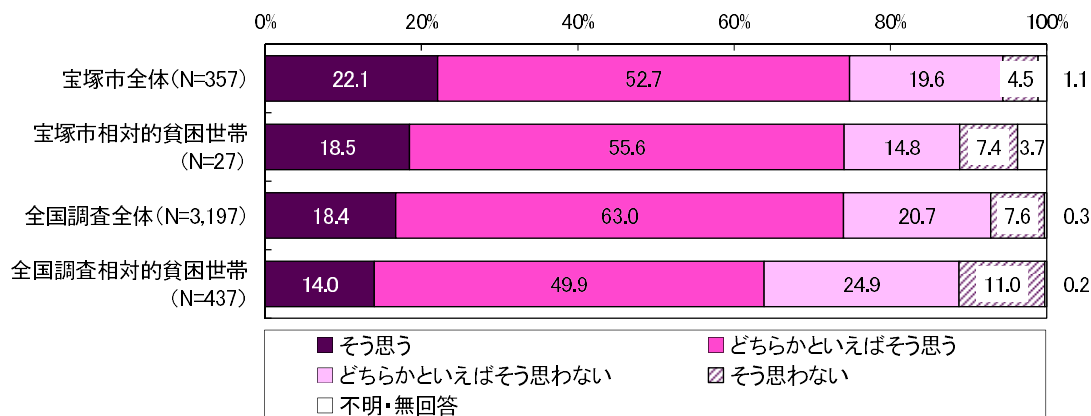
(6) 保護者の教育意識

保護者の教育を重視する態度に関する質問において、宝塚市では全体においても、相対的貧困世帯においても、ほぼ全国平均を上回っており、家庭の経済状況にかかわらず教育意識が高い家庭が多いことがうかがえます。

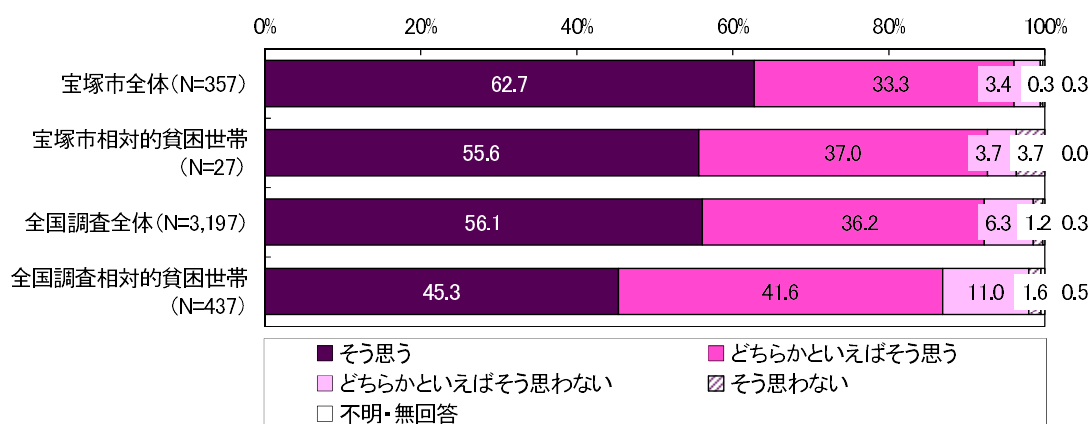
■ 学歴が低いと将来希望する職業につけない



■他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい



■勉強することでいろいろな考えを身につけることができる



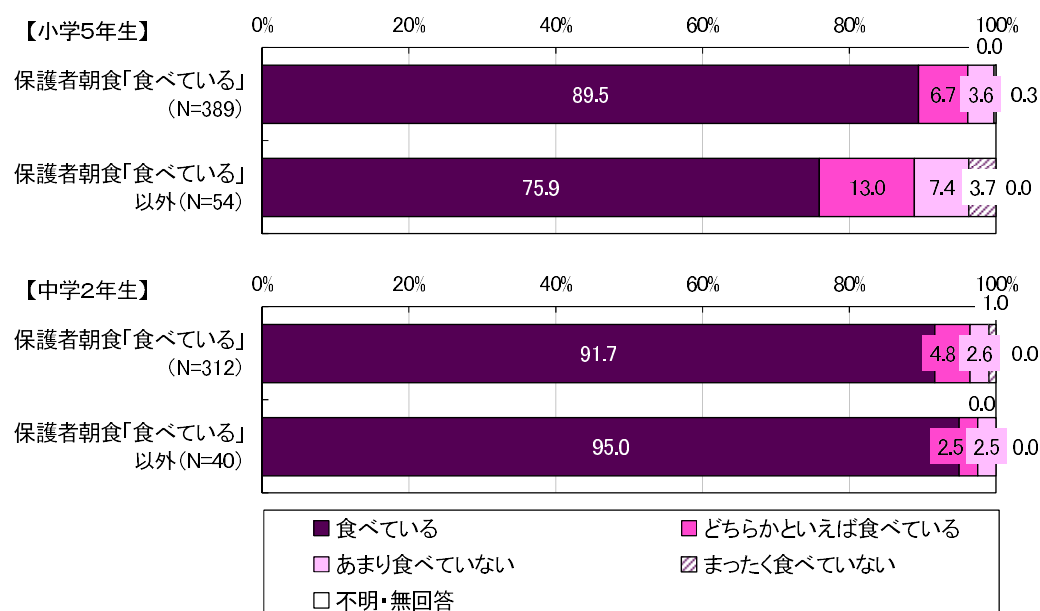
3. 保護者と子どもの状況・意識の関連

保護者と子どもの状況や意識の関連を見るために、保護者調査と子ども調査で同様の質問をしている項目について、保護者の回答状況別に子どもの回答状況をみました。

(1) 朝食

小学5年生では保護者の状況と子どもの状況が関連しており、朝食を「食べている」と回答した保護者の子どもの方が、「食べている」と回答する割合が高くなっています。中学2年生については、保護者の状況と子どもの状況との関連は見られません。

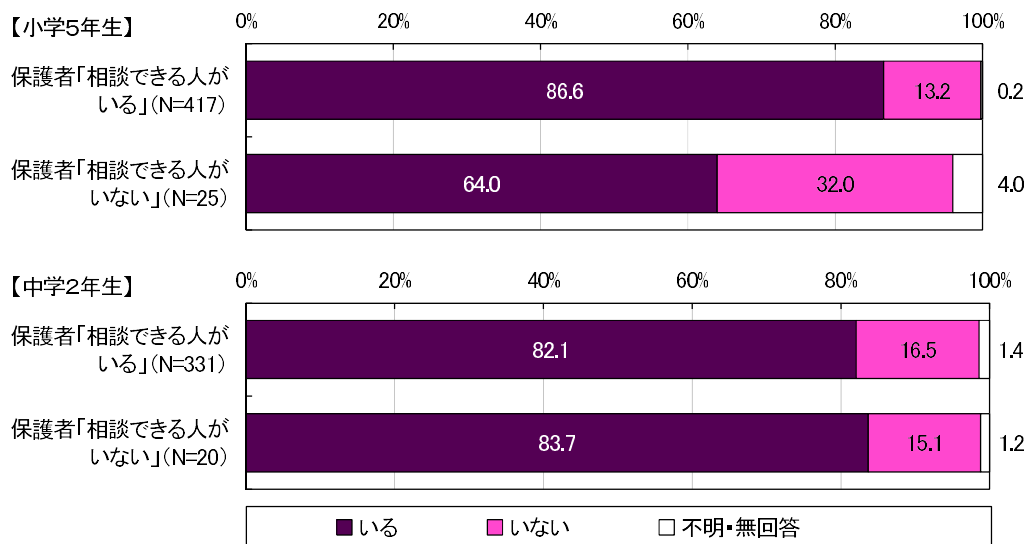
■保護者の朝食の状況別にみた子どもの朝食の状況



(2) 相談できる人

保護者の相談できる人の有無別に子どもの相談できる人の有無を見ると、小学5年生では、相談できる人がいる保護者の子どもほど、相談できる人がいると回答している割合が高くなっています。中学2年生については保護者の状況と子どもの状況との関連は見られません。

■保護者の相談できる人の有無別にみた子どもの相談できる人の有無

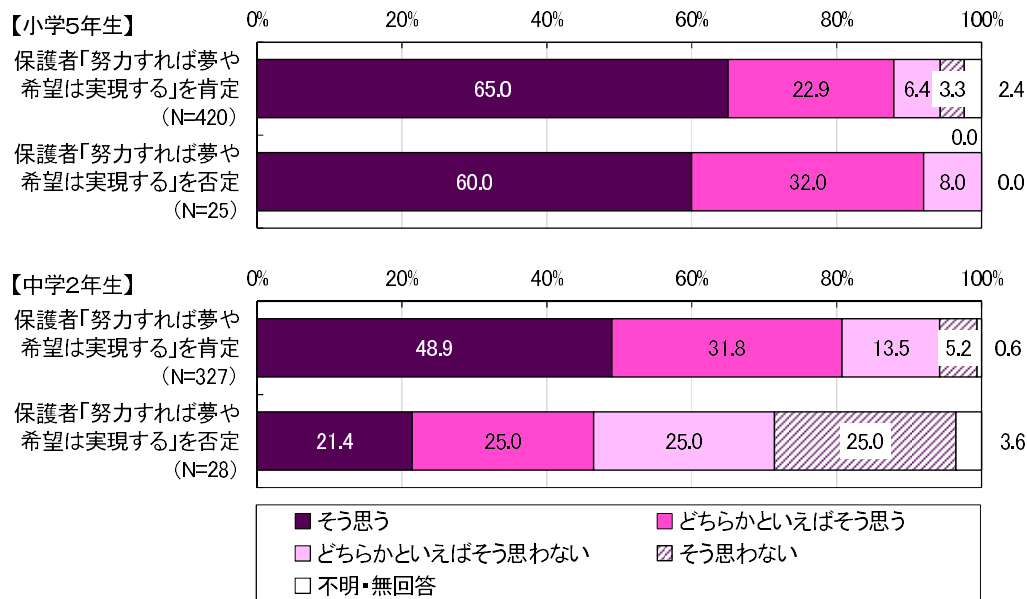


(3) 努力や将来の夢に関する意識

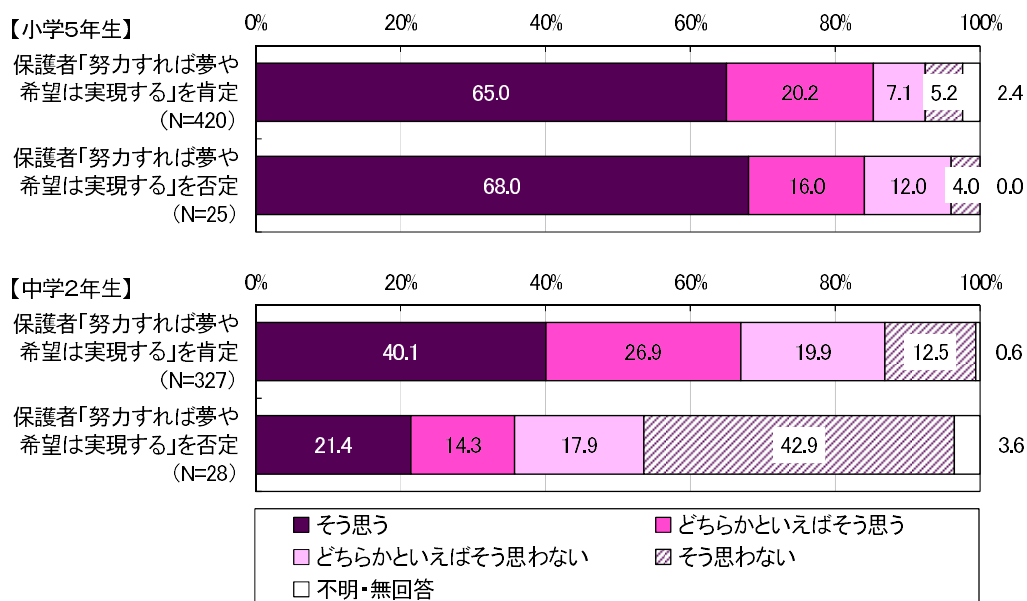
保護者が「努力すれば夢や希望は実現する」という考えに対し肯定している（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答）か否定している（「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」と回答）かによって、子どもが「がんばれば、いいことがある」と考えているかどうかをみると、小学5年生では関連は見られませんが、中学2年生では、肯定的な意識を持っている保護者の子どもほど、「がんばれば、いいことがある」と思っていることが示されています。

同様に、「自分には将来の夢や目標がある」という質問への回答状況についても、中学2年生については、保護者の「努力すれば夢や希望は実現する」という意識との関連が見られます。朝食や人間関係とは異なり、努力や将来の夢に関する意識については、中学2年生の方が保護者の意識の影響を強く受けていることがうかがえます。

■保護者の意識別にみた子どもの「がんばれば、いいことがある」に対する考え



■保護者の意識別にみた子どもの「自分には将来の夢や目標がある」に対する考え



4. 子どもの貧困問題に関する本市の現状

（１）相対的貧困世帯・生活困難世帯について

①相対的貧困世帯・生活困難世帯の状況

本調査結果として示された相対的貧困世帯の状況として、生活必需品の非所有やライフライン関連費用の支払困難経験、生活必需品の購入困難経験等、通常の社会生活を送ることが困難な状況が実態として存在しています。また、収入面では相対的貧困の水準を上回る世帯においても、相対的貧困世帯と同様に経済的な困難を有する生活困難世帯が存在しています。

本調査は、私立学校在籍者を対象としていないことや、生活が厳しい世帯ほど回収率が低くなっていると考えられることを考慮すると、本調査で示された相対的貧困世帯・生活困難世帯の全体に対する割合については、宝塚市の実態を示した値であると確実に言えるものではないことに留意が必要です。

②相対的貧困世帯・生活困難世帯の保護者の状況

保護者の就労の状況をみると、父親の有無や就労状況によって家庭の経済状況が大きく左右されていることがうかがえます。相対的貧困世帯においても母親の働き方には全体と比較して大きな違いはないことから、一般的な男性並みの収入を子育て中の女性を得ることは困難であることが、貧困問題の背景要因の一つだと考えられます。一方、相対的貧困世帯においては、働きたくても働けない状況にある保護者が多いことも示されており、世帯の実情に応じた支援が課題であると考えられます。

教育や子育てに関する保護者の意識については、本調査では経済状況による明確な差は見られませんでした。一方で、費用負担をとまなう塾や習い事、文化的な活動や行事・イベント等については、相対的貧困世帯・生活困難世帯では実施率が低くなっています。ただ、必ずしも経済的な負担をとまなわない活動（図書館利用など）についても差が見られるものもあり、単純な経済格差だけではない、教育文化的な意識における格差についても考慮する必要があります。収入が高い世帯においても経済的な困難を有する世帯があることや、家庭の経済状況別にみた子どもの物品の所持状況等をみると、保護者の家計管理や支出の優先順位の問題が、子どもの生活や教育の困難につながっていることも考えられます。

また本市の特徴として、相対的貧困世帯・生活困難世帯における、子どもに希望する学歴や保護者の教育意識については、全国調査と比較して高くなっています。保護者世代の学歴が高く、教育熱心な家庭が多いと考えられる本市の状況を反映したものと考えられます。

③相対的貧困世帯・生活困難世帯の子どもの状況

学校にいる時間が楽しみかどうかや、学校内でのそれぞれの活動が楽しみかどうかについては、家庭の経済状況による明確な差はありませんでした。一方、宿題の履行率や家庭学習、学校の勉強の理解度については、相対的貧困世帯・生活困難世帯においてやや低い傾向にあることが示されて

います。

日常の基本的な生活習慣については、一部で家庭の経済状況のマイナスの影響が見られるものの、全体としては大きな差は見られませんでした。また、家族とのかかわりについても、経済状況によるマイナスの影響はほとんど見られませんでした。

子どもの物品の所持状況については、家庭の経済状況による差が見られるもの（書籍、子ども部屋、勉強机）、及びほとんど差が見られないもの（自転車、ゲーム、携帯電話・スマートフォン）がありました。後者については、経済的に厳しい状況にあっても、優先的に買い与えている状況があると考えられます。相対的貧困世帯では、テレビを見たりゲームをしたりする時間が長く、家庭学習をしていない子どもが多い傾向が示されており、経済的に厳しい状況にある世帯における教育的な働きかけの状況については、一部に課題があることもうかがえます。ひとり親世帯などで、十分に子どものために時間を取れない状況もあると考えられます。

中学2年生の相対的貧困世帯では、大学・大学院への進学について保護者の希望を子どもの希望が下回っており、保護者は進学させたいと考えていても、子どものほうがそう思っていない世帯があることがうかがえます。相対的貧困世帯では進学や勉強についての悩みが少ないことや、大学・大学院への進学を希望する子どもが少ないこと、通塾していない子どもの通塾希望が少ないこと等を考慮すると、進学や学業達成について、消極的になっている子どもがいることも考えられます。進学の問題は、貧困の連鎖を断ち切る上でも重要なテーマとなっており、経済的に厳しい状況にある世帯の子どもの意欲や努力に働きかけることを含めた支援の検討が課題だと考えられます。

（２）貧困の連鎖について

相対的貧困世帯・生活困難世帯では、成人前の貧困の経験等を有する保護者も多く、貧困の連鎖があることがうかがえます。本調査の結果を踏まえると、貧困の連鎖の問題には、経済的な側面だけではなく、家庭の教育・文化的な要因や、人間関係の問題等、複数の相互に関連する要因があると考えられます。

まず経済面では一般に、家庭での学習環境が十分ではないこと（机や勉強のスペースがない等）、金銭的負担の大きい塾や私立学校、大学に通わせられないこと等による低学力・低学歴が、将来の低所得につながるという連鎖があることがこれまでも指摘されています。本調査においても通塾率や、保護者と子どもの進学希望については、家庭の経済状況による差が表れています。また、相対的貧困世帯・生活困難世帯の保護者は、成人する前の両親の離婚、死去、経済的困窮や親との疎遠といった経験をしている割合が比較的高くなっており、現在の経済的に厳しい状況が、貧困の連鎖の結果である側面があることも示されています。

次に教育・文化的な要因として、基本的な生活習慣が身につけていなかったり、家庭における教育機能が低下したりしていることが（保護者が子どもの勉強をみることができない場合や、家庭に学習する環境がない場合、勉強・進学を推奨されない家庭環境である場合など）、低学力・低学歴につながることにについて、同種の調査を実施している他の自治体ではそのことを示す結果も報告されています。本調査では、家庭の経済状況による生活習慣の差が明確に示されたわけではありませんが、起床時間や朝食を食べている割合、中学生のむし歯の有無等、一部の項目で家庭の経済状況による差が見られました。また、勉強机の有無や学習時間、宿題の履行率、勉強の理解度にも差があることが示されており、家庭における学習環境が学力達成にも影響を与えていることがうかがえ

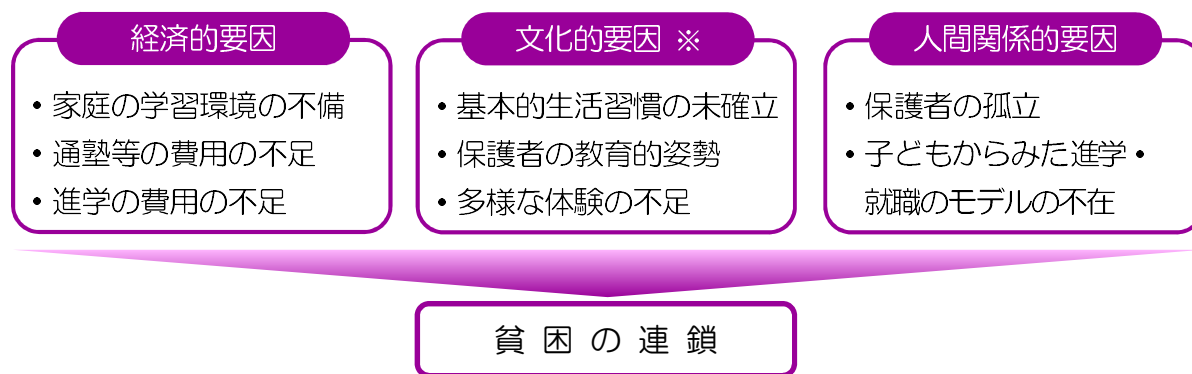
ます。また、様々な体験の不足といった文化的な要因が、子どもの努力や自己評価と関連していることも示されています。

人間関係の面では、家庭の貧困を背景として、保護者が社会的に孤立することや、子どもにとっての人間関係の構築が困難となることが、一般論として懸念されます。本調査においては、相対的貧困世帯の保護者について、支援を受けられる人間関係に乏しい傾向があることが示されています。

また本調査において明確に示されていることではありませんが、一般的に保護者の人間関係の乏しさは、子どもにとっての進学・就職のモデルの乏しさを招き、進路の選択の可能性が限定されることにつながることも考えられます。

このように、経済的な要因、文化的な要因、人間関係的な要因のそれぞれを考慮に入れることは、貧困の連鎖の問題に取り組む上で、不可欠であると考えられます。しかし、経済的に厳しい状況が常にこれらの複合的な要因をもたらすとは限りません。本調査においても、確かに家庭の経済状況と文化的な格差、人間関係の格差との関連が示されていますが、必ずしも明確な差を見いだせなかった項目も少なくありません。また、子どもの自尊感情のように、経済的な要因による差よりも、保護者の教育意識による差のほうが大きいという結果が示されている項目もあります。

したがって、子どもの貧困問題を解決に近づけるためには、これらの複合的な要因の全体を視野に入れた取り組みが課題となります。経済的な支援だけではなく、文化的・教育的支援や人間関係面での支援などに取り組むことで、経済的要因によるマイナスの影響を軽減させることが期待されます。経済的支援が不要な水準の収入がある世帯においても、本調査における生活困難世帯のように、経済的な課題や文化的な課題を抱えており、子どもの生活にマイナスの影響を与えている例があることも示されています。経済的要因だけに視野を限定するのではなく、幅広い観点から支援の充実を図ることが課題です。



※「文化的要因」とは、いわゆる「文化的な体験」の多さだけではなく、家庭の生活習慣や子育て・教育に対する保護者の意識、価値観などを含む、生活文化の総体を指す表現として用いています。

（３）ひとり親世帯の状況

ひとり親世帯については、母子世帯、父子世帯ともに相対的貧困世帯・生活困難世帯となっている割合が高くなっており、効果的な支援のあり方が、引き続き検討課題となります。経済的に厳しい状況に関する問題については、相対的貧困世帯・生活困難世帯の状況と共通しているところが多いと考えられますが、ひとり親世帯に特徴的な状況として、子どもが学校から帰ってから就寝するまでの時間を子どもだけで過ごすことや、夕食を子どもだけで食べることが比較的多いこと、保護者の子どもへの教育的な働きかけの頻度が低いことが示されています。保護者の帰宅時刻をみると、母子世帯では、全体と比較して母親の帰宅時刻が遅くなっており、それだけ子どもだけで過ごす時間が長くなっていると考えられます。父子世帯の父親については、全体と比較すると小学5年生では帰宅時刻がやや早い傾向が見られ、仕事を早めに切り上げている状況があることがうかがえますが、それでも子どもだけで過ごす時間は母子世帯と同様に長くなっていると考えられ、日常的に子どもとのかかわりの時間を十分に確保できていないことがうかがえます。

ひとり親世帯については、経済的な問題だけではなく、家庭で子どもにかかわる保護者の数が少ないことで、子どものケアが十分に行えていない可能性があることについても、支援を検討することが課題となります。

5. 調査結果から示唆される検討課題

今回の調査結果から示唆される、宝塚市の今後の取り組みの課題について、特に検討が必要だと思われる点を中心にまとめました。

（１）経済的支援

相対的貧困世帯の多くが、生活必需品の非所有やライフライン関連費用の支払い困難経験、生活必需品の購入困難経験を有しており、通常の世界生活を送ることが困難な状況がうかがえます。本調査において示された経済的に厳しい状況や、その状況が子どもの生活、学業、意識にマイナスの影響を及ぼしていることを考慮すると、子育て世帯の経済的貧困問題に対しては、さらなる支援の充実が課題だと考えられます。

例えば、学用品等の費用を補助する就学援助については、受給資格をほぼ満たしていると考えられるにもかかわらず、受けたことがないと回答している相対的貧困世帯が少なくない状況も示されています。このことについては、給付が世帯ではなく学校に対して行われる本市の就学援助の特性上、受給していることを保護者が認識していない可能性もありますが、受給資格があるのに申請をしていない家庭の存在について検討することが求められます。書面による案内や学校行事の際の案内だけでは十分な周知になっていない可能性を考慮し、経済的な支援が必要な家庭が確実に申請できるような働きかけが課題となります。経済的には、平均的な水準以上の世帯が多いと考えられる本市においては、経済的に厳しい状況にある世帯が少数となり、声を上げにくいことが懸念されることから、よりいっそう丁寧な取り組みが必要です。

経済的支援については、就学援助のような補助制度が設けられていますが、支援を必要としている人に届けるための周知や運用のあり方について、改めて検討することが課題となります。

主な検討課題

- 子育て世帯の経済的貧困問題に対する支援の取り組み
- 支援制度の周知や子育て世帯が利用しやすい制度の運用のあり方

（２）学校教育の充実

本市の市立中学校においては、全国調査と比較すると、家庭の経済状況にかかわらず「学校を楽しんでいる」と感じることができる環境がつくられています。一方で、勉強の理解度については家庭の経済状況による格差が示されており、学校が経済的に厳しい状況にある世帯の子どもにとって、居心地の悪いものとなっていないかどうか、検証が必要です。その上で、家庭背景によって学力や進路に格差が生まれていることを教職員が自覚し、その差を縮めていくための取り組みが課題となりま

す。

今日の公立学校は、教職員の多忙化が大きな課題となっており、さらなる取り組みを行う余力は非常に乏しいと考えられます。国の「子供の貧困対策に関する大綱」においても、「学校をプラットフォームとした総合的な子どもの貧困対策の展開」がうたわれていますが、教職員にこれまで以上の役割を求めるのではなく、家庭背景に基づく格差の現状に対する正しい認識のもと、学校外の資源も活用した取り組みが求められます。学校だけでは解決が難しい問題について、福祉的な支援との連携や、教職員が学校外の資源を活用しやすい環境づくりが課題となります。

主な検討課題

- 家庭の経済状況にかかわらず子どもにとって過ごしやすい教育環境の維持
- 市立小中学校における家庭背景に左右されない学力保障の取り組みの追求
- 学校外の資源を活用した格差縮小の取り組み

（３）学校外における学習支援

本調査では、家庭の経済状況による格差が、勉強の理解度にも影響を及ぼしていることが示されています。学業達成が進学、就職につながる問題であることを考慮すると、通塾等の割合が低く、学力形成に家庭の支援を受けにくい、経済的に厳しい状況にある世帯の子どもを対象とした、学習の支援は特に重要です。

学習支援の期待される効果として、例えば小学５年生では、家庭の経済状況による格差よりも、通塾の有無による格差のほうが大きくなっており、相対的貧困世帯・生活困難世帯であっても通塾している子どもについては、非生活困難世帯の通塾していない子どもの勉強の理解度を平均して上回っています。しかし中学２年生では、通塾の有無による格差が小さい反面、相対的貧困世帯・生活困難世帯で通塾している子どもの理解度は、非生活困難世帯で通塾していない子どもの理解度を、平均して下回っていることが示されています。以上の結果を踏まえれば、学校外での学習支援の取り組みを早い段階から始めることで、家庭の経済状況による学習の理解度の格差の縮小に効果をもたらすと考えられます。さらに、理解度の向上の継続的な学習支援への取り組みが課題であると考えます。

経済的に厳しい状況にある世帯の子どもを対象とした学習支援については、支援の対象となることで家庭の経済状況が周囲や子ども自身に知られてしまうことへの保護者の不安や、子どもの日常的な人間関係を離れた支援に十分な参加が得られない可能性など、効果的な支援を行う上で、考慮すべき問題は少なくないと考えられます。効果的かつ、支援を必要とする子どもが参加しやすい学習支援のあり方については、引き続き検討課題となります。

主な検討課題

- 効果的な学習支援の方策
- 学習の理解度向上につながる継続的な支援
- 経済的に厳しい状況にある世帯の子どもが参加しやすい学習支援のあり方

（４）進学支援

学歴は将来の経済状況を大きく左右する要素であり、貧困の連鎖を断ち切る鍵となる可能性があります。保護者の教育意識の高い本市においては、大学等への進学を希望する世帯が大多数を占めていますが、その中で特に相対的貧困世帯においては、家庭の経済状況が子どもの進路に影響を与えていることが示されています。中学生においては、子ども自身が学習意欲を失ったり進学に対して消極的になったりしている可能性も示されており、家庭の経済状況が子どもの意欲や努力にもマイナスの影響を及ぼしていることが否定できません。学校においては、こうした経済的に厳しい状況がもたらす影響を踏まえた教育が課題となる一方、進学のための費用等の支援も課題です。

奨学金制度については、貸与を受けることが子ども自身の負担となることの問題がこれまで指摘されており、本調査においても相対的貧困世帯・生活困難世帯においては、返済義務のない奨学金を希望する割合が高くなっています。既存の制度は経済的に厳しい状況にある世帯にとっては利用しにくいものであることもうかがえます。意欲と能力次第で大学等へと進学できる可能性がすべての子どもに開かれる環境づくりに向け、国や県と連携した取り組みを進めていくことがこれからの課題です。

主な検討課題

- 進学を支援する奨学金制度の充実
- 支援制度の充実と周知による、子どもの進学意欲や学習意欲の喚起

（５）保護者の支援

家庭の経済状況や通塾の有無と並んで、中学生の勉強の理解度との関連が示されたのが、保護者の教育意識です。また、家庭における文化的な経験は、子どもの自尊感情や友だちから好かれていると思えるかどうか、中学生の宿題の履行率と関連していることも示されています。これらのことから示唆されるのは、保護者が高い教育意識を持つことや、家庭における多様な体験の機会があることが、ある程度家庭の経済状況に基づくマイナスの影響を軽減する可能性です。相対的貧困世帯・生活困難世帯の文化的な体験の状況や子どもの物品の所持状況、保護者が考える子どもに必要な支援等をみると、経済的に厳しい状況にある保護者においては、その他の世帯と比較すると、一

部に教育意識を高く持ちにくい状況や、家庭の教育力を十分に発揮できていない状況がある可能性があります。経済的に厳しい状況にあっても、家庭の教育力や保護者の教育意識を高く保つことができるような働きかけは、長期的な視点において格差の縮小に効果があると考えられます。

また、保護者の人間関係に注目すると、特に相対的貧困世帯・生活困難世帯においては、保護者の支援を受けられる人間関係が不足していることが、子どもの自尊感情や学校を楽しみと思えるかどうかに対して、マイナスの影響を及ぼしていることが示されています。経済的に厳しい状況に人間関係の困難が重なることで、子どもへのマイナスの影響が大きくなると考えられます。相対的貧困世帯・生活困難世帯の保護者の孤立を防ぐ取り組みの検討が必要です。本来、人間関係づくりとはプライベートな領域であり、具体的な働きかけについては困難かもしれませんが、関係機関・関係職員の連携により、支援のあり方を検討することが課題となります。

相対的貧困世帯・生活困難世帯の状況を改善していく上で、保護者が就労によって収入を確保できるようになることは、重要な課題です。相対的貧困世帯においては、父親が不在または働けない場合、母親が収入を確保することが難しいことや、働きたくても働けない状況にあることを考慮し、世帯の実情に応じた就労支援策の検討が課題となります。

主な検討課題

- 経済的に厳しい状況にある世帯の教育力を高めるための働きかけ
- 保護者の孤立を防ぐ取り組み
- 関係機関・関係職員の連携による切れ目のない支援
- 世帯の実情に応じた就労支援

（６）生活の支援

経済的に厳しい状況にある世帯においては、日常的な生活習慣の確立や、子どもへのケアの提供において、やや課題があることが示されています。これについては保護者の就労状況等により子どもへのケアが行き届きにくくなっていることと、保護者の子育て意識・教育意識に課題があることの両方が考えられます。また、ひとり親世帯では、保護者が子どもとかかわわる時間を十分に確保できていないことも示されています。

また、世帯収入は相対的貧困の水準を上回っていても、経済的な困難を有する世帯が存在し、相対的貧困と同様に子どもの不利益を招いていることは、本調査の生活困難世帯の状況からも示されています。こうした、収入はあるが経済的に厳しい状況にある世帯については、特に既存の支援が届きにくいと考えられます。市単独で実施可能な施策には限界もありますが、既存の制度では支援を受けられない世帯が利用可能な支援のあり方についても、検討することが課題です。

子どもが家庭において十分な教育やケアを受けられない場合、保護者への働きかけと並行して、子どもへの支援の提供が課題となります。生活支援として近年注目されている「子ども食堂」については、保護者における支援のニーズとしては、相対的貧困世帯・生活困難世帯においてもそれほど高くありません。実際、子どもの栄養状況の改善には、日常的な支援が求められ、支援を必要と

する子どもに引け目を感じさせることなく、食事を提供するための仕組みづくりには多くの困難が予想されます。一方で、子ども食堂が食事の提供に加え、学習支援や多様な体験の機会の提供、地域の支援者との人間関係の構築による、家庭では十分得られない進学・就職のモデルの提供等につながるとすれば、格差の縮小に有効な支援となることも十分考えられます。また、この活動をきっかけとして地域に様々な支援の仕組みが生まれていくとすれば、地域全体で子どもを支える環境づくりにつながる可能性もあります。

主な検討課題

- 家庭において十分な教育やケアを受けられていない子どもへの支援
- 子ども食堂のありかた
- 生活支援、学習支援、多様な体験の機会等を含む、効果的・総合的な支援方策

（７）ひとり親世帯の支援

ひとり親世帯については、経済的に厳しい状況にある世帯が多いことは、これまでの国の調査等においても明らかにされてきました。本調査では、こうした経済的な問題に加え、日常的に子どもとのかかわりの時間を十分に確保できていないこと、子どものケアが十分に行えていない可能性があることが、ひとり親世帯に特有の課題として示されています。ひとり親世帯の支援にあたっては、経済的な支援に加え、こうした特有の問題に対応した支援を検討することが課題となります。

主な検討課題

- ひとり親世帯に特有の課題に対応した支援方策

（８）子どもに焦点をあてた支援

子どもの貧困問題への対策は、保護者の状況の改善を通じて子どもの状況の改善を図ろうとする取り組みだけではなく、子ども自身に働きかける取り組みも重要な課題となります。保護者の意識や状況にかかわらず、支援を必要とする子どもに必要な支援が届くような仕組みづくりや制度の運用が課題となります。

保護者と子どもの状況の比較では、朝食や人間関係の面では、中学２年生では保護者の状況の影響を受けにくく、子ども自身の取り組みによって自らの状況を改善できる可能性があるとうかがわせる結果が示されていました。一方で、努力することや将来の夢、進学に関する保護者と子どもの意識の関連では、家庭の経済状況の厳しさが、子どもの努力する気持ちを失わせたり、将来への意

欲を持ちにくくさせたりしているおそれがあることも考えられる結果となっています。経済的に厳しい状況に置かれた子ども自身が、自らの可能性や権利を自覚し、単なる支援の客体ではなく、自らの状況を変えていくために主体的に取り組むことができるような働きかけが求められます。

本市においては、子ども支援を進めるにあたって、「子ども条例」を平成19年(2007年)に制定し、施策を推進しています。また、子どもへの直接的な支援の枠組みとして、子ども自身が悩みや心配ごとを相談できる「子どもの権利サポート委員会」を平成26年(2014年)に設置しています。こうした取り組みの充実・発展を通じ、子ども自身への働きかけと、保護者を通じた支援との両面から、総合的な取り組みとして推進していくことが課題となります。

主な検討課題

- 保護者の意識や状況にかかわらず子どもに支援が届く仕組みづくり
- 経済的に厳しい状況に置かれた子どものエンパワメント
- 子ども自身に対する働きかけと保護者を通じた支援の両面からの総合的な取り組み

(9) 継続的な実態把握

本調査の方法や対象、回収率等を踏まえると、経済的に厳しい状況にある世帯の状況や格差の実態について、必ずしも十分な把握ができたとは言えない側面があると考えられます。アンケート調査による数量的な把握だけではなく、支援施策の対象者からの聞き取りや、支援者からの情報提供、関係者へのヒアリング、支援事例の分析等も含め、経済的に厳しい状況にある世帯と子どもの状況について、引き続き注視していくことが課題です。

主な検討課題

- アンケート調査以外の継続的な実態把握の方法の検討

(10) 子どもの貧困対策のための支援体制

子どもの貧困問題への対策として、ここまで検討してきた本調査から示唆される課題に対応した取り組みを推進する上で重要なのが、さまざまな取り組みを相互に連携して実施するための体制づくりです。経済的に厳しい状況にある世帯の子どもの問題は、子育て・健康・教育・就労・福祉等幅広い分野にまたがっており、複数の行政分野の連携が欠かせません。庁内においては、たからっ子「育み」プラン(宝塚市子ども・子育て支援事業計画)の推進体制である「次世代育成支援行動計画等推進検討会」を活用し、部局・担当課の枠を超えて課題・情報・取り組みの方向性を共有し、連携して支援にあたっていくこととします。

支援を必要とする世帯や子どもに対しては、各部局の支援制度に接続可能なワンストップ型の支援の仕組みづくりが課題となります。国の「子供の貧困対策に関する大綱」における、「学校をプラットフォームとした総合的な子どもの貧困対策の展開」をする場合は、連携のコーディネーターとなるべきSSW等の人材の確保と力量の向上も課題です。経済的に厳しい状況にある世帯に焦点をあてた取り組みだけではなく、既存の子育て支援や子ども支援の取り組みの充実を図り、妊娠・出産から進学・就労までの子どもの成長段階に応じた縦の連携と、行政・学校・地域・事業者等がつながり相互の資源を持ち寄って支援に取り組む横の連携の両面から、切れ目のない支援体制を構築することが将来的な課題となります。

主な検討課題

- 支援を必要とする世帯や子どもを複数の制度につなげるワンストップ型の支援体制
- 子どもの成長に応じた切れ目のない支援と多様な主体の連携

本報告書は、分析の妥当性や検討課題について、下記の学識経験者からのご意見を踏まえて作成しました。

神戸大学大学院人間発達環境学研究科	教授	伊藤 篤 氏	(宝塚市子ども審議会会長)
山梨学院大学法科大学院	教授	荒牧 重人 氏	(子どもの権利条約総合研究所代表)
大阪大学大学院人間科学研究科	准教授	高田 一宏 氏	(教育社会学・コミュニティ教育学)

宝塚市子どもの生活についての アンケート調査結果報告書

発行日：平成 29 年（2017 年）7 月

発 行：宝塚市（子ども未来部 子ども家庭室 子ども政策課）

〒665-8665 宝塚市東洋町 1 番 1 号 本庁 2 階

電 話：0797-77-2419 ファクス：0797-77-2800

メール：m-takarazuka0051@city.takarazuka.lg.jp
